

14.21  
88

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

始



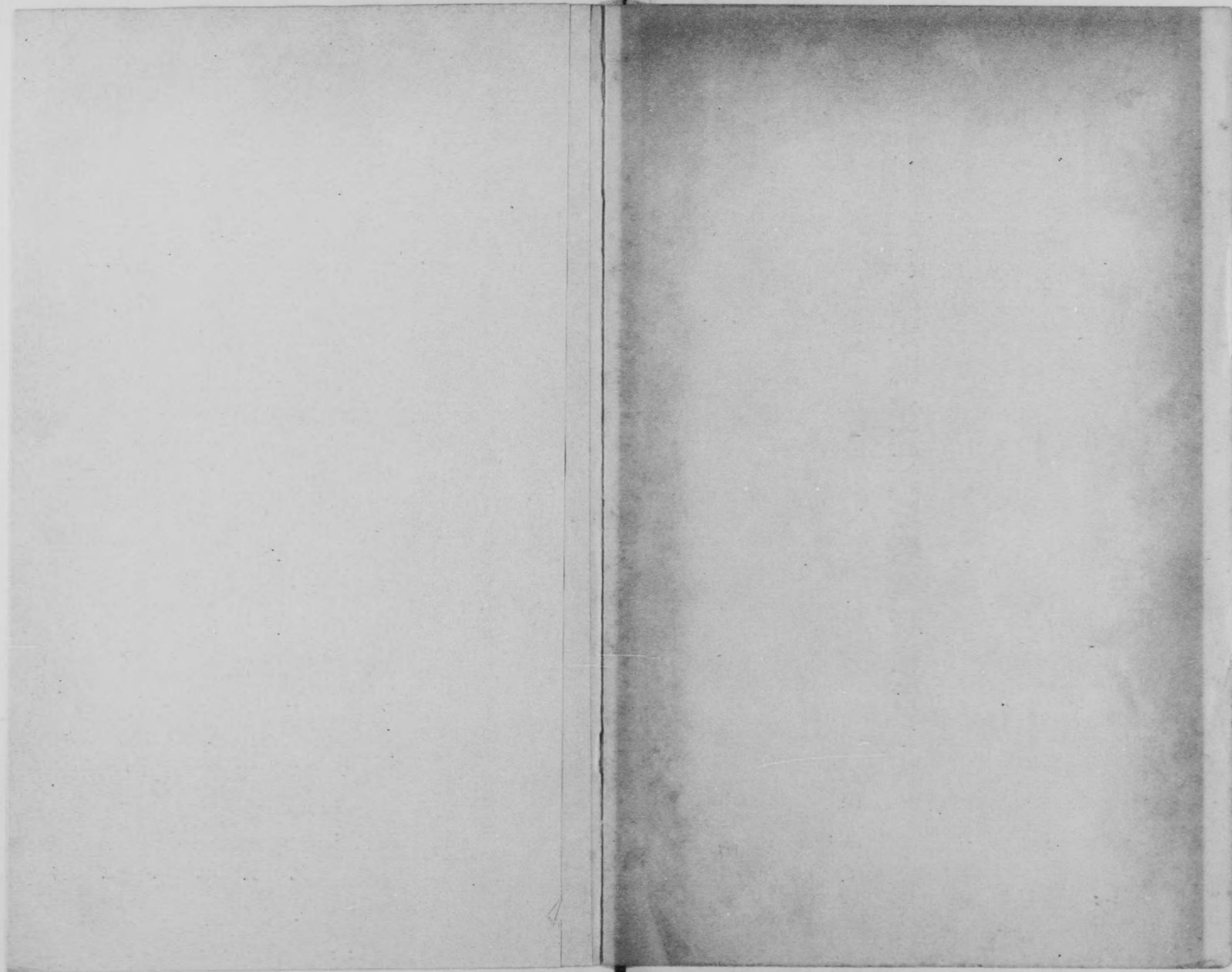


1421  
88

明治四十三年度  
明治四十四年度  
熊本縣水產試驗場業務報告

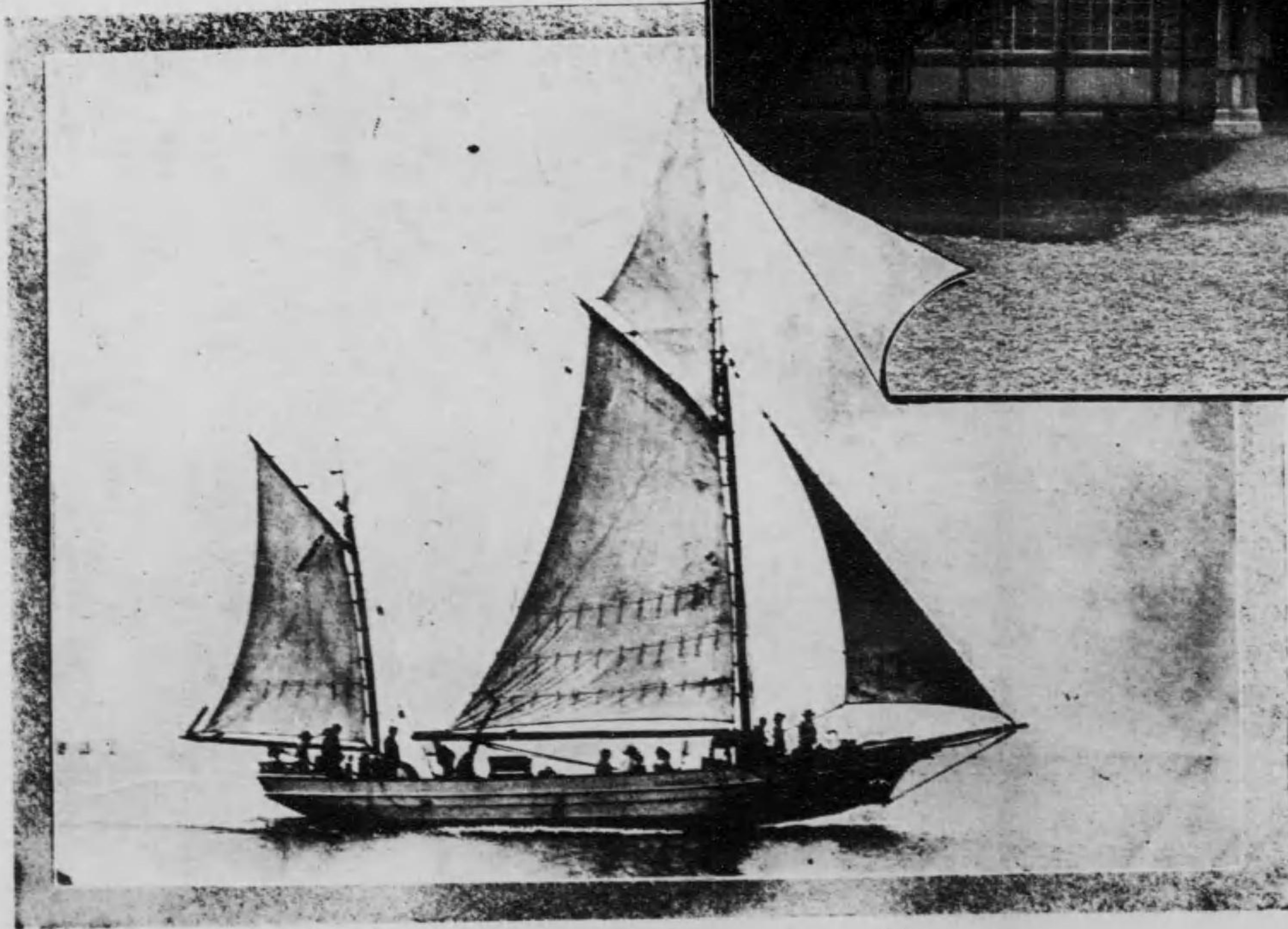
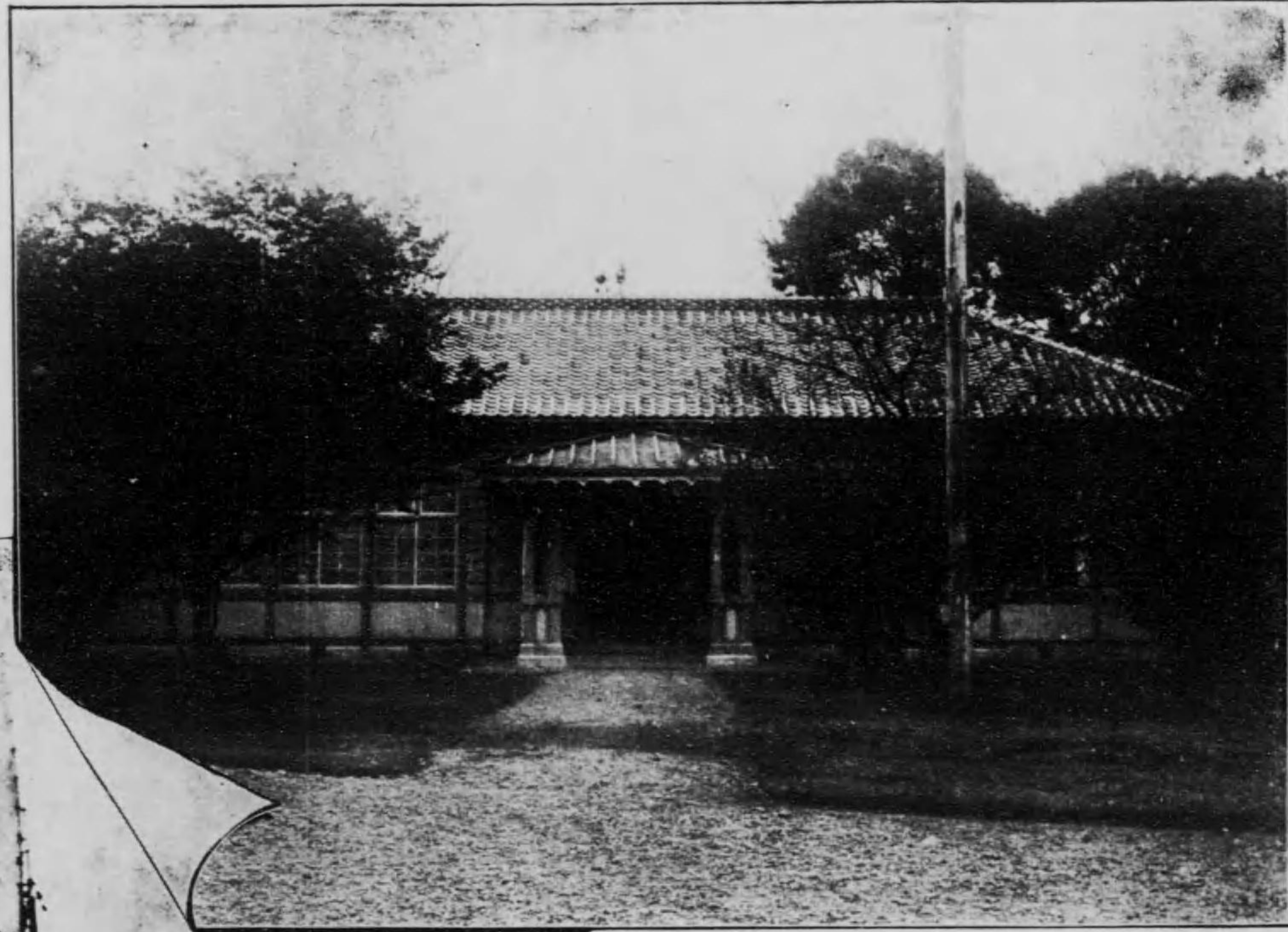
向當國水產部  
人日十  
自當國水產部  
人日十  
自當國水產部  
人日十  
自當國水產部  
人日十  
自當國水產部  
人日十







熊本縣水產試驗場



第三不知火丸



明治四十三年度熊本縣水產試驗場業務報告

目次

一、支出豫算	一頁
經常部	
臨時部	
二、收入豫算	四頁
經常部	
三、職員ノ移動及擔當業務	五頁
四、廳舎移轉及漁撈支場廢止	六頁
五、補助機關付帆船新營	七頁
一、新營ノ趣旨	
二、船体仕様書	
三、石油發動機特ニ「くろな」式撰定ノ次第	
四、「くろな」式石油發動機仕様書	
五、船体製造見積書	
六、機關附屬品及据付見積書	
七、船体附屬品見積書	
六、試驗	三六頁
漁撈部	
第四回朝鮮海出漁指導試驗	三六頁

2. 7. 5  
丙寅



製造部  
鮮魚輸送試験 ..... 三七

養殖部  
牡蛎養殖試験 ..... 四七  
 稚蛎附着材料試験  
 飼育適地査定試験  
 鯉養殖試験  
 海苔養殖試験  
 佐賀産牡蛎移植試験  
 ぬのは魚孵化蕃殖試験  
 養殖聯絡試験  
 牡蛎養殖聯絡試験  
 海苔養殖聯絡試験

七、調査及講話 ..... 八八  
 三角港ニ於ケル鮮魚集散状況調査  
 長洲町鮫鱈網漁業調査  
 鹽吹貝被害調査  
 海洋觀測  
 甲種講話  
 以上

明治四十三年度熊本縣水產試驗場業務報告

一、支出豫算

一金九千七百參拾六圓四錢

内 譯

金貳千七百圓

内

金九百圓

金千參百貳拾圓

金貳百八拾八圓

金百九拾貳圓

内

金貳千拾八圓七拾七錢

金四百七拾貳圓貳錢

水產試驗場費

俸 給

場長兼技師給

技 手 給

助 手 給

書 記 給

雜 給

場長兼技師旅費



金九百參拾九圓八拾錢	技手旅費
金貳拾壹圓五拾五錢	助手旅費
金參拾五圓九拾五錢	書記旅費
金參百拾貳圓	小使給
金四拾八圓	監視人手當
金百四拾貳圓參拾五錢	宿直辨當料
金壹圓	漁夫遭難扶助料
金貳拾五圓拾錢	勉勵慰勞
金壹圓	死亡給與
金貳拾圓	諸雇給
金四千九百九拾八圓七拾七錢	諸費
內	
金五拾壹圓五拾錢	備品費
金百八拾四圓七拾錢五厘	消耗品費
金四千參百拾參圓五拾五錢	試驗調查費

金百五拾八圓參拾五錢	通信運搬費
金百九拾貳圓五拾錢	圖書及印刷費
金九拾貳圓四錢壹厘	借地料
金六圓拾貳錢	雜費
金拾八圓五拾錢	修繕費

歲出臨時部

一金壹万千百四拾參圓六拾八錢

水產試驗場費

內

金七千七拾五圓參拾壹錢

帆船新造費

內

金貳千九百六拾參圓六拾錢

船體新造費

金貳千四百拾五圓

實馬力二十五、純馬力二十二  
石油發動機

金千四百四拾六圓七拾壹錢

船舶附屬品

金五百圓

廻航費



金五拾圓	試運轉費
金八拾圓	ののば孵化場建設費
金參千九百八拾八圓參拾七錢	移轉費
內	本廳舎移轉費
金千八百六拾八圓八拾貳錢	物置移轉費
金百六拾九圓七拾貳錢六厘	便所及渡廊下移轉費
金百八拾圓拾壹錢五厘	排水及溜樹費
金六拾八圓四拾六錢八厘	暗室移轉費
金四拾貳圓九拾七錢九厘	支場事務所移轉費
金七百參拾參圓貳拾參錢	倉庫移轉費
金參百拾七圓五錢六厘	水揚場移轉費
金六百七圓九拾六錢壹厘	
二、收入豫算	
經常部	

一金貳百九拾六圓九拾六錢 雜收入

三、職員ノ移動及擔當業務

職員ハ技師兼場長一名技手三名書記一名助手一名外ニ氣象及海洋觀測手一名養殖場監視人一名ニシテ海洋觀測手平野藤造ハ四月三十日、助手吉川廣助ハ五月三十一日夫々依願免職トナリ技手高松榮太郎廣島縣水産技師ニ轉任ニ付八月十五日黒田藤五郎其後任トシテ技手ニ任命アリ十月十三日海洋觀測手宮崎賀久太願ニヨリ解職全十四日後任江上重逸任命アリ技手飛山信治ハ朝鮮沿海へ出張中釜山ニテ死亡セリ

拜命年月日	異動年月日	擔任科	官職	氏名
明治三十五年六月七日		場長	技師和智熊太郎	熊太郎
明治三十七年八月十二日	明治四十三年七月廿六日 廣島縣水産技師任命	漁撈主任	技手高松榮太郎	高松榮太郎
明治三十八年七月廿二日		養殖主任	技手西山伊六	西山伊六
明治四十二年七月七日	明治四十三年十一月十四日 死亡	漁撈主任	技手飛山信治	飛山信治
明治四十三年八月十五日		漁撈主任	技手黒田藤五郎	黒田藤五郎
明治四十一年十二月十四日		書記	書記山口慶新	山口慶新



明治三十八年六月二十二日	四十二年八月二十四日退職	漁	撈	助	手	吉	川	廣	助
明治四十二年七月十七日	四十二年十二月十五日復職 四十三年五月三十一日退職	養	殖	助	手	宮	崎	義	雄
明治四十年五月六日	四十三年四月三十日退職	氣	象	海	洋	觀	測	手	平
明治三十四年六月十一日		八代郡觀町	養	殖	場	監	視	人	緒
明治四十三年五月二十四日	明治四十三年十月十三日退職	海	洋	觀	測	手	宮	崎	賀
明治四十三年十月十四日		全	江	上	重	逸			

四、廳舎移轉及漁撈支場廢止

本場ハ明治三十三年ノ創設ニ係リ之ヲ本縣下沿岸線ノ畧中央部タル天草郡大矢野島北端登立村ニ置キ三十四年度又漁撈支場ヲ天草郡牛深町ニ養殖支場ヲ玉名郡橫島村ニ建設シ爾來年々閱スルコト十星霜時勢ノ變遷ニ伴ヒ適切ノ施設ヲナシ、本支場相俟テ普ク縣下水産業ノ進歩開發ニ多大ノ裨補ヲ與ヘツツアリト雖モ今ヤ本場ヲ天草郡登立村ニ置クハ水産行政ノ統一上不便尠カラザルノミナラズ年々ノ經常費ニ於テ不經濟ニシテ之ヲ縣廳構内ニ移サンニハ上述ノ患ナカラシムルノミナラズ事業上何等支障ヲ感スルコトナク却テ縣治ノ中樞ニ位置スルコト萬般ニ於テ便益ナルベキヲ悟リ同時ニ牛深ナル漁撈支場ハ同地ノ現狀及試驗施行上ニモ既ニ存置ノ必要ヲ感ゼザルニ至リシヲ以テ、爰ニ廳舎移轉及漁撈

支場廢止ノ議ヲ決シ、明治四十三年四月一日本場ハ先ヅ事務所ヲ物産館内ニ移シ全月三十一日ヲ以テ漁撈支場ヲ廢止シ、登立村ニ於ケル本廳舎一棟及物置一棟ヲ縣廳構内ニ移シ事務所及物品收納庫ニ充テ、牛深漁撈支場ニ於ケル事務所一棟水揚場一棟倉庫一棟ヲ宇土郡際崎縣有敷地ニ移築シ漁撈部作業場及漁具船具收納庫ニ使用スルコト、シ八月二十四日廳舎ノ移築成ルヤ直ニ是ニ移レリ

五、補助機關付帆船新營

一、新營ノ趣旨

本縣沿海各地ニ使用スル在來日本形漁船ハ其構造簡易輕便ニシテ從ツテ價格モ亦廉ナレ共構成ノ不全ニシテ外洋航海ハ勿論僅少ナル波浪ニモ往々堪フルコト能ハズ先年鹿兒島縣及本縣鯉漁船並ニ長崎縣男女群島ニ於ケル珊瑚網船遭難被害ノ如キ實ニ慘狀ヲ極ムルモノアリ之實ニ在來漁船ノ不完全ナルヲ證シテ餘リアリト云フベシ今其不完全ナル點ヲ改良シテ生命財產ノ固ヲ計リ益漁業ノ開發ヲ期待セシニハ船体帆裝共ニ總テ之ヲ洋式ニ更メ以テ線纜ノ便ヲ圖リ又在來漁船ハ風風クノ日又ハ逆風ノ時ハ漕航多ク人力ニ待タザルベカラズ從テ輕快ヲ欲センニハ勢ヒ多人數ノ壯丁ヲ乘組マシムルノ要アリ蓋シ人力ニハ自ラ限リアリ長途ノ漕航ハ得テ望ムベカラザルヲ以テ縱令目前ニ漁機ヲ控ヘナガラ逆風又ハ無風ノタメニ妨ケラレ亦奈何トモ爲スニ由ナク空シク漁利ヲ逸シ商機ヲ失スルコトアル等ハ當事者



ノ毎ニ辛カキ經驗トナス所ナルベシ今之ヲ補フニ帆船ニ補助機關ヲ設備スル時ハ逆風若クハ無風ノ際航行ヲ自在ナラシムルヲ以テ操業上便ナルノミナラズ漁場往復ノ時間短縮ノタメ出漁ノ回數ヲ増加シ且ツ漁獲物ノ新鮮ナルモノヲ市場ニ供給スルコトヲ得テ收益ヲ増加スルコトヲ得ベシ曩ニ茨城縣及靜岡縣水産試驗場ノ如キ西洋形漁船ニ補助機關ヲ設備シ殊ニ靜岡縣ハ之ヲ經營業ニ應用シテ客年一朝巨大ノ收益ヲ見タル以來時運ノ變遷ハ漁業ノ發展ニ伴ヒ之ガ費用ヲ促進シ今ヤ神奈川高知岡山愛知宮崎各縣ノ如キ組合團體ニ又ハ個人ノ經營ニヨリテ此種ノ漁船築造セラル、モノ既ニ八十餘隻ニ達シ遠ク滿韓海上ニ横行スルニ至レリ

本縣ノ如キハ近年遠洋の出漁船逐次増加シ就中團體ヲ編成シテ秩序アル出漁ヲナスモノ遠ク滿韓ニ亘リテ約參百餘隻アリ且經營業ノ如キハ近海漁場不振ナルニ伴ヒ漸次遠洋ニ漁場ヲ索メントスルノ傾向アリ

其他何レノ漁場ト雖モ今ヤ革新ノ域ニ達シ長速ノ進歩ヲ示セリ以是本場ハ諸般ノ試驗調査施行上時日ノ節約ト作業ノ敏活ヲ期センカタメ左記ノ仕様書ニ依リ補助機關付帆船ヲ新造シ一面韓海方面ニ出漁スル本縣出漁者ノ指導保護ニ任ゼントスルモノナリ

二、船體設計仕様書

本船ノ重要寸法左ノ如シ

遠洋漁船検査規程ニ依ル長サ

全 上 幅 拾參呎

全 上 深サ 六呎參吋

第一數 壹貳、七五

第二數 參六、五六、貳五

長ト深ノ割合 七、貳

長ノ幅ノ割合 參、七六

計畫總噸數 約拾九噸

一、材 料

材料ハ可成乾燥シタルモノヲ用ヒ木目ノ貫通シタルモノヲ撰擇シ割目、腐蝕シタルモノ等ハ一切用フベカラズ

敲釘及打込釘ハ特ニ明記セサルモノ、外ハ亞鉛鍍鉄釘トス敲着ノ場合ニ用フル座金ハ凡テ敲釘ト同質ナルヲ要ス凡テ材料ハ監督者ノ承認ヲ經テ使用スベシ若シ不正工事ト認ムルトキハ其價額ニ應シテ船價ヨリ差引クモノトス

一、工 事



工事ハ熟練ナル職工ヲ使用シ親切丁寧ニ建造スヘシ  
一、材料ノ名稱及固着法

第一 龍骨 椶材

深サ八吋幅六吋貳分ノ壹トス嵌接ノ長サ四拾吋以上ニシテ徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ兩端ニ貳本宛  
中間ハ拾貳吋以内ノ心距ニ敲着スヘシ尙適當ノ場所ニ水留メ栓ヲ打ツベシ  
嵌接ハ鈎形水平嵌接トナス可シ嵌接ハ内龍骨ノ嵌接及龍骨翼板ノ嵌接ト五呎以上及艙口ト適當ニ避  
距スヘシ

第二 内龍骨 椶材

深サ六吋八分ノ五高サ六吋八分ノ五トシ嵌接ハ平面水平嵌接トス嵌接ノ長サハ參拾參吋四分ノ一以  
上トナシ徑拾六分ノ八吋「ナットボルト」ヲ以テ龍骨ノ嵌接ノ如ク接合スヘシ但シ内龍骨ヨリ肋骨ヲ  
貫通シテ龍骨下部ニ敲着スル敲釘ノ來ル部分ハ兼用スルモ差支ヘナシ  
徑拾六分ノ拾吋敲釘ヲ以テ肋骨毎ニ肋骨龍骨ヲ貫通シテ敲着スヘシ

第三 船首材 椶材

厚サ六吋貳分ノ壹深サ拾吋龍骨トノ 接ノ長サヲ參拾六吋以上トナシ徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ龍  
骨ノ嵌接ノ如ク接合シ適當ノ位置ニ水留栓ヲ打込ムヘシ

第四 船尾材 椶材

幅六吋貳分ノ壹深サ八吋トシ上部ハ甲板迄達セシメ下部ハ筈ヲ作出シテ龍骨ニ嵌メ込ミ根曲材ヲ以  
テ龍骨ト堅固ニ結合セシメ舵柱材ニ於ケルト等シク黃銅製鳩尾形金具ヲ兩面ニ付スヘシ

第五 舵柱材 椶材

幅六吋貳分ノ壹深サ九吋下部ハ筈ヲ作出シテ龍骨ニ嵌込ミ上部ハ甲板迄セシメ黃銅製鳩尾形金具ヲ  
以テ龍骨ニ兩面ヨリ取付ケ徑拾六分ノ八吋黃銅敲釘ヲ以テ固着スヘシ其敲釘ハ各材ニ參本宛トス

第六 船尾縱翼材 椶材

深サ根部ニ於テ九吋上部ニ於テ參吋四分ノ壹厚サハ根部ニ於テ四吋上部ニ於テ參吋四分ノ壹トス船  
尾材及舵柱材ヲ挟ミ椶材ノ填材ヲ入レ徑拾六分ノ拾吋敲釘貳本宛ヲ以テ船尾材及舵柱材ニ敲着シ尙  
ホ全徑敲釘ヲ以テ船尾材、填材、舵柱材ヲ貫通シテ敲着スヘシ

第七 肋骨 椶材

單材トシ根部ニ於テ深サ五吋幅四吋トシ次第ニ大サヲ減シ頂部ニ於テ參吋四分ノ壹角トス接合ハ衝  
接部ト同截面ヲ有スル添材ヲ付シ其長サヲ參拾吋以上タラシメ徑拾六分ノ六吋敲釘貳本宛合計四本  
ヲ以テ緊着スベシ  
肋骨ノ心距ハ拾六吋トス徑拾六分ノ六吋打込釘ヲ以テ龍骨ニ固着ス



第八 側内厚板 松材

厚ハ貳吋四分ノ壹幅七吋トス肋骨毎ニ徑拾六分ノ六吋敲釘ヲ以テ固着ス嵌接ノ長サ貳拾壹吋以上トシ徑拾六分ノ六吋敲釘參本ヲ以テ接合ス

第九 彎曲部縦通材 松材

厚ハ貳吋貳分ノ壹幅七吋貳枚通トス徑拾六分ノ六吋敲釘及全徑打込釘ヲ以テ肋骨一本置キニ固着シ其他ノ肋骨ニハ全徑打込ミ釘貳本宛ヲ以テ固着スヘシ

嵌接ノ長サ貳拾壹吋以上船体中央部ニ於テ出來得ル場所ハ徑拾六分ノ六吋敲釘參本ヲ以テ敲着シ其他ノ場所ハ全徑打込釘ヲ用フルモ妨ケズ

第十 梁受材 槻材

厚サ貳吋貳分ノ壹幅七吋トシ肋骨毎ニ徑拾六分ノ六吋敲釘及全徑打込釘ヲ以テ固着ス嵌接ノ長サハ貳拾壹吋以上徑拾六分ノ六吋黃銅敲釘參本宛ヲ以テ敲着ス但シ敲釘ハ舷側厚板迄テ貫通スルヲ要ス

第十一 甲板梁 槻材及米松

普通甲板梁 松材 五吋角

機關室及艙口兩端梁 槻材 五吋角

橋梁 松材 五吋八分ノ壹角

機關室及艙口縱梁

槻材 四吋四分ノ壹角

半梁

松材 四吋四分ノ壹角

甲板梁ハ成ルヘク肋骨ノ位置ニ取付ケ梁受板上鳩尾形孔ニ嵌メ込ミ徑拾六分ノ六吋敲釘ヲ以テ梁受板ニ敲着スヘシ甲板梁ノ心距ハ肋骨心距ノ二倍トス

第十二 舷側厚板 槻材

槻材

厚サ貳吋二分ノ壹幅九吋嵌接ノ長サ貳拾七吋以上徑拾六分ノ六吋敲釘參本ヲ以テ敲着シ徑拾六分ノ六吋敲釘及全徑打込釘貳本ヲ肋骨毎ニ固着スヘシ但シ梁受材ノ敲釘ヲ兼用スルモ妨ゲナシ

第十三 龍骨翼板 槻材

槻材

厚サ貳吋二分ノ壹幅九吋トシ徑拾六分ノ六吋敲釘參本ヲ以テ嵌接ヲ接合シ嵌接ノ長サ貳拾七吋トス而シテ全徑敲釘一本全打込釘一本ヲ以テ肋骨毎ニ固着スヘシ嵌接ハ兩舷ニ於ケル翼板ト肋骨心距ノ三倍以上又タ龍骨及内龍骨ノ嵌接ト適當ニ避距スヘシ

第十四 外板 檜赤身

檜赤身

外板ハ全部檜材トス  
厚サ壹吋四分ノ參幅八吋トス肋骨一本置キニ徑拾六分ノ六吋敲釘一本及全徑打込釘ヲ以テ其他ノ肋骨ニハ全前打込釘各貳本ヲ以テ固着ス



外板ノ接目ハ外板三條ヲ距ツルニアラザレバ同一肋骨上ニ置クヘカラズ

第十五 船 鐸 椽 材

厚サ貳吋貳分ノ壹幅八吋貳分ノ壹トシ徑拾六分ノ六吋敲釘ヲ以テ甲板梁及梁受材ニ貫通固着ス又タ全徑敲釘ヲ以テ船檣柱毎ニ貫通敲着シ肋骨ノ中間ニ於テハ全徑敲釘及打込釘ヲ以テ舷側厚板ニ交互ニ固着スヘシ嵌接ハ長サ貳拾五吋貳分ノ壹以上徑拾六分ノ六吋敲釘三本及全徑打込釘ヲ以テ固着スヘシ

第十六 甲 板 檣

厚サ貳吋幅五吋トシ徑拾六分ノ六吋打込釘貳本宛ヲ以テ梁毎ニ固着ス隣接セル甲板ノ接目ハ甲板三條ヲ距ツルニアラザレバ同一梁上ニアラシムヘカラズ

第十七 船口椽材 椽 材

厚サ貳吋四分ノ參高サ甲板梁上拾貳吋トス四隅ハ切組ミ接合トシ徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ拾貳吋心距ヲ以テ梁及椽梁ニ敲着スヘシ

第十八 内張板 杉 材

活魚艙内ハ厚サ壹吋四分ノ參幅八吋トシ四圍隔壁トモ充分水密工事ヲ要ス  
其他ノ内板ハ厚サ壹吋トス

釘ハ總テ拾六分ノ五吋打込釘ヲ以テ固着スヘシ

第十九 柁心材 椽 材

頭徑七吋トス矧板ハ椽厚サ適當トス徑拾六分ノ拾吋黃銅敲釘ヲ以テ心距拾八吋以内ニ敲着スヘシ  
椽番ハ貳組トシ眞鍮製トス壺金ノ厚サ四分ノ參吋柁針ノ徑一時貳分ノ壹深サ貳吋四分ノ壹トス徑拾六分ノ拾吋ノ黃銅敲釘ヲ以テ圖示セル如ク敲着スヘシ

第二十 舷檣柱

肋骨壹本置キニ之ヲ延長シテ舷檣柱トナス上部ニ椽材厚サ壹吋四分ノ參幅五吋貳分ノ壹ノ手摺材ヲ取付ケ舷檣板ハ杉厚サ壹吋トシ拾六分ノ五吋打込釘ヲ以テ舷檣柱ニ固着スヘシ

第二十一 梁曲材 椽 及 鐵

艙内ニハ椽船首尾室内ニハ鐵梁曲材ヲ圖ニ示セル場所ニ取付クベシ其寸法左ノ如シ

椽梁曲材 全橫梁曲材 鐵製梁曲材

腕ノ長サ 拾貳吋 適 當 拾貳吋

側腕ノ長サ 拾八吋 適 當 拾八吋

咽喉部ノ厚サ 五 吋 四吋貳分ノ壹 壹吋貳分ノ壹

腕端ノ厚サ參吋貳分ノ壹、參吋貳分ノ壹 八分ノ參吋



幅 參吋貳分ノ壹、參吋貳分ノ壹 貳吋

梁曲材ハ其咽喉部ヲ除クノ外徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ梁腕側腕共各貳本ヲ用ヒ固着スヘシ縱梁曲材取付敲釘ノ内一本ハ梁壓材(船鏝)迄貫通スルヲ要ス

第二十二 檣 根 鐵 製

檣根ハ圖示セル如ク甲板上ニ止メ厚二十分四吋鋼板及嵌材三吋、三吋二十分ノ四吋ヲ以テ作り檣ノ起倒ヲ自在ナラシムル構造トシ下部ハ槻厚サ貳吋貳分ノ壹ノ臺ヲ置キ甲板梁ニ徑拾六分ノ拾吋「ナットボルト」六本ヲ以テ充分ニ緊着シ且ツ橫梁曲材ヲ以テ甲板梁ヲ堅牢ニナスヘシ

第二十三 活魚艙

魚艙隔壁板ハ杉赤身厚サ壹吋四分ノ參幅適當トシ縫釘ヲ以テ固メ外部ニハ槻材貳吋四分ノ參角ノ防撓材ヲ適當ニ取付ク船底ニハ内徑四吋黃銅製換水孔ヲ裝置ス兩魚艙ニテ拾六個ヲ取付ク其外方ニハ金鋼ヲ付シ船内ニテハ水密ノ螺旋蓋ヲ備ヘ甲板上ヨリ開閉自由ナル鐵製螺旋ヲ附スヘシ

第二十四 船首尾肘材 槻 材

船首貳個船尾壹個トス腕ノ長サハ肋骨貳本以上ニ跨ルヲ要ス咽喉部ノ截面積貳拾參平方吋兩腕端ニテ四吋角トス徑拾六分ノ拾吋敲釘ヲ以テ拾貳吋以内ノ心距ニ肋骨外板ヲ貫通シテ敲着ス船尾材及船首材ニモ同徑敲釘ヲ用ヒテ固定ス

第二十五 船首尾力材 槻 材

厚サ六吋貳分ノ壹高サハ斜助骨ノ下部ヲ取付クルニ適當ナラシメ徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ拾八吋以内ノ心距ニ龍骨、船首材、船尾材及管胴材ニ敲着スヘシ

斜助骨ト力材ノ固着敲釘ハ徑拾六分ノ八吋トス

第二十六 管胴材 槻 材

拾吋角トス上部ニ槻根曲材ヲ取付ケ徑拾六分ノ八吋敲釘二本宛ヲ以テ船尾材及管胴材ト固着シ尙ホ徑拾六分ノ八吋敲釘ヲ以テ船尾力材ヲ貫通シテ龍骨ニ固着スヘシ但シ前項ノ敲釘ヲ兼用スルモ妨ケズ

第二十七 槇 架

上等「ホラコン」ヲ四本打チトス「ピッチ」ヲ流シ込ミ充分水密トナスベシ外板水線上部ハ「ボテ」ヲ以テ外板ノ縦椽及釘頭ヲ丁寧ニ填隙スヘシ

第二十八 船尾室

室内ハ槻材及鹽地材ヲ以テ造リ上等「ワニス」ヲ塗り實用ト裝飾ヲ兼備セシメ附屬品トシテ引出シ付テ「テーブル」一脚姿見鏡一個帽子掛三個疊ミ椅子五脚及寢臺ニハ適當ナル藁蒲團ヲ布キ且ツ「カーテン」ヲ裝置シ「ローリングランプ」一個ヲ附スヘシ



尙ホ床ハ「スクリユー」シャフト」ヲ檢シ得ル様適當ナル場所ヲ揚ケ板トナスベシ

第二十九 船首室

米松ヲ用ヒ寢臺ニハ上等ナル莞蔴ヲ敷キ且ツ「ランブ」一個食卓一臺腰掛二臺ヲ附スヘシ  
前部ヲ「チン」箱トス適當ナル材料ヲ以テ構成スヘシ

第三十 機關室

機關室内ハ全部亞鉛板ヲ以テ張り詰メ燒燃物ノ露出ヲ防キ火災ノ恐レナカラシムベシ  
機關臺ハ椶材ヲ以テ充分堅牢ナル構造トナスベシ其厚サ八吋以上トシ徑拾六分ノ十二吋敲釘ヲ以テ  
十二吋以内ノ心距ニ肋骨ヲ貫通シテ敲着スヘシ

機關室内ニハ物入レヲ作り寢臺ヲ作成シ藁蒲團ヲ備フヘシ

第三十一 厨 房

船首室ノ一部ヲ賄室トス鑄鐵製甕ヲ備エ五升焚釜及鍋各一個ヲ有シ煙突ヲ具ヘ荒天ノ際ハ甲板上ヨ  
リ取外シ得ル装置トシ水密蓋ヲ有シ料理器具食器ヲ收納スルニ適當ナル棚或ハ戸棚ヲ備ヘ厨房ノ前  
部ハ機ニ應シ板子ヲ敷キテ假寢臺トナシ得ル構造タラシムヘシ

第三十二 飲料水槽

活魚箱ノ一側ニ約五石入ノ水槽ヲ設ケ鉛管ヲ以テ厨房ニ導キ適當ナル位置ニ「コック」ヲ設ケベシ水

槽ハ總テ「ヒバ」材赤身ヲ以テ構成シ内部ハ燒キ水ノ腐敗ヲ防ギ掃除口及甲板上ニ注水管ヲ設ケ水密  
装置ヲ施スベシ

第三十三 錨 鎖 庫

錨鎖庫内部ハ椶材又ハ盤地材ヲ以テ敷キ詰メ徑五分七拾五尋ノ錨鎖ヲ容ル、ニ充分タラシメ錨端ハ  
堅牢ニ船体ニ取付ケ適當ナル大サノ鎖管二個及兩除ケヲ付スヘシ

鑄鐵製「ホースパイプ」各一個ヲ兩舷ニ裝置ス

第三十四 ビルポールド

厚サ貳拾分ノ三吋銅板ヲ「カットヘッド」幅二呎ニ兩舷ニ張詰スベシ

第三十五 船底包板

船底ニハ「ター」ヲ塗リ毛紙ヲ敷キ詰メ住友製上等銅板十四オンスノモノヲ吃水線上六吋ノ高サ迄ヲ  
張り詰メ吃水線下ニ露出スル金具ハ總テ黃銅製ナルヲ要ス

第三十六 バラスト

適當ナル位置ニ上等鐵層八噸ヲ積ミ込ミ「セメント」ヲ以テ固定ス

第三十七 艙 口

艙口ニハ「バツテン」「クリート」「リングポールド」ヲ付シ荒天ニ際シ水密的閉環ニ完全ナラシムベシ



第三十八 セメントチング  
機關室及賄室ハ上等「セメント」ヲ敷キ流動物ノ滲透ヲ防クヘシ

第三十九 出入口

總テ椶材ヲ用ヒ上部ハ滑リ戸前部ハ差シ板トシ且ツ荒天ニ際シ覆布ヲ懸ルニ差支ナキ金具ヲ取リ付クヘシ

第四十 通風

船首室及船尾室ニ各一個ノ「カウルベツトベンチレーター」内徑八吋ノモノ各一個ヲ具ヘ荒天ノ時ハ取外シ得ル様構成シ丈夫ナル蓋ヲ具フ

第四十一 放水口

鉛製内徑參吋ノ放水口ヲ兩舷ニ三個宛適當ナル位置ニ裝置スヘシ

第四十二 デツキグラス

上等「ブリズム」型長八吋巾三吋ノモノヲ適當ノ位置ニ取リ付クヘシ且ツ黃銅製押ヘ金具ヲ付シ充分水密ナル工事ヲ施スヘシ其數ハ五個以上トス

第四十三 ビルジポンプ

適當ナル位置ニ鐵製ビルヂポンプ二個ヲ裝置スヘシ

第四十四 操舵機

「クロスヘッド」ヲ以テ舵柱ニ取付ケタル螺旋操舵機ヲ取付クベシ尙ホ豫備トシテ鐵製操舵柄ヲ具フヘシ

第四十五 揚錨機

堅牢ナル齒車付「ハンドウインドラス」壹個ヲ具フベシ

第四十六 塗料並ニ裝飾

船体ハ總テ極上白色ベンキ三回仕上ケトナシ「シャールモルデング」一部ノ船側厚板ハ上等ナル藍色ベンキヲ施ス船首ニハ羅馬字及漢字ノ船名ヲ兩舷ニ船尾ニハ船名及船籍港名ヲ漢字及羅馬字ニテ現ハシ上等金箔塗リトス

船首尾ニハ吃水標ヲ銅板製亞刺比亞數字ニテ明白ニ附スヘシ

第四十七 カットヘッド

椶製根曲材ヲ以テ兩舷ニ取付ケ舷外ニ少ナクトモ三十吋突出セシメ錨ノ引揚ゲニ便ナル様裝置シ附屬金具ヲ付スヘシ

第四十八 ファイブレル 椶材

メンマスト兩舷ニ長サ七呎幅六吋厚サ貳吋貳分ノ壹ノモノ及ビ「スバンカーマスト」兩舷ニハ長サ四



呎ニシテ同大ノモノヲ舷橋柱毎ニ徑拾六分ノ拾吋敲釘ヲ以テ敲着スヘシ其他「スカイライト」ハ厚箱子ヲ嵌メ込ミ黃銅徑三分ボートヲ以テ一時毎ニ硝子保護トシテ取付ケ甲板上下「ボートライシン」用「リングボルト」「アイボルト」「クリート」「ビット」等ハ監督者ト合議取付ケヘシ

「パウルビット」ハ椶材ニシテ頭部ニ於テ六吋角トス下部ハ力材ニ嵌込ミ上部ハ甲板梁ト敲釘ヲ以テ緊着スベシ

第四十九 諸圓材 杉 材

メンマスト	徑拾吋	長サ參拾六呎
メンブーム	全六吋二分ノ一	全 貳拾七呎
メンガーフ	全四吋二分ノ一	全 十八呎
スバンカーマスト	全六吋二分ノ一	全 貳拾六呎
スバンカーブーム	全五吋	全 拾六吋二分ノ一
スバンカーガーフ	全四吋	全 拾參呎二分ノ一
パウスブリット	全八吋	全 拾貳呎
ガフトツブスチツク	全四吋	全適當ノ竹ヲ用フ

第五十 端艇一艘

長サ二十呎幅五呎深サ壹呎十吋「シャープスタン」「スピリット」裝帆トス

端艇ニ就テハ明治四十二年十月逕信省令第四十二號漁船検査規程第四十九條第一、第二、第三項ノ條件ヲ具備スルヲ要ス

第五十一 便 所

便所ハ船尾ニ木製掛ケ便所一個ヲ付シ取片付ニ便ナラシムベシ

三、石油發動機特ニ「くろな」式撰定ノ次第

一般ニ石油發動機ヲ船用推進機トシテ使用スルハ其効率ニ於テ蒸氣機關ニ及バサルヲ遠シト雖モ起動ノ迅速ナルト燃料積載及機關据ニ附ケニ多クノ容積ヲ費サス其取扱平易ニシテ別ニ火夫等ヲ要セズシテ小型ノ船舶ニモ用ユヘク且今日如何ナル寒村僻處ノ漁浦ニ於テモ容易ニ燃料タル石油ヲ得ラル、ノ便アルヲ以テ茲ニ石油發動機ヲ採用セル所以ニシテ其特ニ東京成田鐵工所製「くろな」式ヲ撰ビシハ本場ノ要求スル左ノ要件ヲ近ク具備スルヲ以テナリ

記

- 一、起動敏速ニシテ比較的高速ナルヲ
- 一、今日如何ナル僻地ニテモ補給スルヲ得ベキ石油ヲ用フルヲ
- 一、機械ノ取扱簡便ニシテ比較的堅牢ナルヲ



- 一、機械ノ容積過大ナラズシテ狹隘ナル機關室ヲ以テ足ル
- 一、石油及機械油ノ消費量比較的少ク且ツ機械ノ燒熱少キ

以上

四、ぐろな一式石油發動機仕様書

- 一、本機關ハぐろな一式石油發動機ニシテ貳拾五馬力ナルモノトス
- 一、本機關ハ良好ナル材料ヲ以テ堅牢ニ製作スルモノトス
- 一、本機關ハ「プロペラー」壹時間參百回轉ニシテ平均七哩以上トス
- 一、本機關ハ石油ノ消費料壹時間壹馬力ニ對シ參合迄トス
- 一、本機關ハ「クランクベアリング」等ニハ「マクネリア」ヲ使用ス
- 一、本機關ハ「スラストベアリング」等ニハ新配合ナル「ガンメタル」ヲ使用ス
- 一、本機關ハ「クランクプラス」ニハ「マクネリア」ヲ使用ス
- 一、本機關ノ「ガジヨンビンメタル」ニハ新配合ナル「ガンメタル」ヲ使用ス
- 一、本機關ハ摩擦部分ニハ新配合ナル「ガンメタル」ヲ使用ス
- 一、本機關ハ特別配合ナル真鍮製「プロペラー」ヲ附屬ス
- 一、本機關ハ「プロペラシャフト」ヲ鋼鐵製トス

- 一、本機關ノ「プラス」ハ新配合ノ砲金製トス
- 一、本機關ハ「スターンチープ」ハ砲金製ヲ使用ス
- 一、本機關ハ製造地ニ於テ試験官ヨリ検査ヲ了シ造船地ニ送付シ機關ノ据付ヲ了シ海上試運轉ノ上完全ナルモノヲ授受スルモノトス
- 一、本機關ニハ左ノ豫備品附屬品ヲ添付スルモノトス
  - 電氣着火 壹組
  - エキゾースバルブ 貳本
  - エアージェットバルブ 壹個
  - サクシヨンバルブ 貳本
  - ガジヨンビンボールト 貳本
  - クランクビンプラスボールト 貳本
  - 三分四分五分六分メネジ 各貳本宛
  - 三分四分五分六分ボールト 各貳本宛
  - ハンマー及タグネ 貳個
  - 木ネジ廻 壹丁



燒ランプ

以上

五、船体製造見積書

重要寸法

検査規程ニ依ル長四五呎〇吋

全 幅壹參呎〇吋

全 深 六呎參吋

計畫總噸數 約壹九噸

壹個

一龍骨	椴材 六吋二分ノ一	金貳拾九圓參拾參錢
一下龍骨	松材 六吋二分ノ一	金參圓五拾錢
一船首材	椴材 六吋二分ノ一	金參圓九拾六錢
一船尾材	椴材 六吋二分ノ一	金貳圓八拾七錢
一船尾縱翼材	椴材 九吋四分ノ一	金五圓七拾錢
一船尾管胴材	椴材 十吋	金貳圓五拾錢
一舵柱	椴材 六吋二分ノ一	金貳圓五拾四錢

一力材	椴材 六吋二分ノ一	金拾圓
一肋骨	椴材 六吋二分ノ一 <small>椴材根四吋 五分頂三吋 四分ノ一角</small>	金貳百六拾八圓
一內龍骨	椴材 六吋八分ノ五	金貳拾五圓參拾八錢
一側內厚板	松材 七吋四分ノ一	金七圓參拾八錢
一梁受材	椴材 七吋二分ノ一	金拾九圓貳拾錢
一副梁受材	椴材 七吋二分ノ一	金拾八圓四拾六錢
一彎曲部縱通材	松材 七吋二分ノ一	金四拾七圓貳拾七錢
一甲板梁	松材 五吋五分 五吋五分 <small>(機關室及船口梁)</small>	金貳拾圓七拾五錢
一梁壓材	椴材 九吋	金貳拾四圓
一龍骨翼板	椴材 九吋	金貳百五拾七圓四拾錢
一舷側厚板	椴材 九吋	金貳拾四圓
一外板	檜材 一吋四分ノ三 巾八吋以內	金參拾圓四拾五錢
一外部腰板	椴材 八吋二分ノ一	金百貳拾七圓貳拾六錢
一船鏢	椴材 八吋二分ノ一	
一木甲板	檜材 巾五吋以內	



一 船口椽材	椽材 二吋四分ノ三	金拾壹圓四錢
一 手摺材	椽材 一吋四分ノ三	金拾參圓八拾四錢
一 甲板梁曲材	椽及鐵材	金四拾六圓
一 船首肘材	椽材 貳	金貳圓
一 船尾肘材	椽材 壹	金壹圓
一 內張板	杉材 一吋四分ノ三	金四拾參圓七拾錢
一 舷檣板	杉材 一吋	金八圓九拾錢
一 梁柱	樺材 四吋角	金壹圓
一 檣孔厚板		
一 船首大立	椽材	金貳圓
一 ダビット		
一 カットヘッド	椽材	金參圓
一 舵	椽材 直徑七吋	金六圓
一 檣	杉材	金貳拾五圓
一 斜檣	杉材	金參圓

一 其他圓材	杉材	金五圓五拾錢
一 船員室諸材	金拾參圓	金拾參圓
一 隔壁板及床板	金貳拾圓	金貳拾圓
一 活魚艙隔壁板	赤杉材 一吋四分ノ三	金四拾五圓
一 機關臺	椽材 八吋	金拾壹圓
一 船尾立物	椽材	金壹圓
一 船口及天窓 一 昇降口ノ覆板	椽材	金拾圓
一 オークン	金拾九圓	金拾九圓
一 プッチー及ビッチー	金六圓五拾錢	金六圓五拾錢
一 ファイブレル	椽 2½×6"	金參圓八拾錢
一 檣根鐵	金貳拾五圓	金貳拾五圓
小計金壹千貳百參拾貳圓貳拾參錢		
職工ノ部		
一 大工木挽	金四百拾貳圓五拾錢	金四百拾貳圓五拾錢
一 人夫	金拾五圓	金拾五圓



小計金四百貳拾七圓五拾錢

附屬金具及用釘ノ部

一 鐵釘

金九拾圓

一 亞鉛鍍鐵釘

金六拾九圓七拾五錢

一 鍊鐵製金具

金四拾四圓

一 蝶番及緊金

金參拾圓

一 鑄鐵製金具

金拾貳圓

一 天窓用硝子及黃銅金具

金拾五圓

小計金貳百六拾圓七拾五錢

合計金壹千九百貳拾圓四拾八錢也

六、機關及付屬品据付見積書

一金貳千五百七拾五圓也

内 譯

一金貳千貳百五拾圓也

一金壹百拾五圓也

成田鐵工場專賣<sup>クロナ</sup>式壹臺  
<sup>貳拾五馬力</sup>  
セントヒューカルポンプ壹臺

一金壹百拾圓也

一金壹百圓也

石油タンク貳個壹個各五石入  
機械運送費据付費

七、船体付屬品仕様書

一、錨、錨鎖、曳索

一大 錨

貳挺

壹挺ノ目方

百九拾六封度(錨桿ヲ除ク)

一中 錨

壹挺

全

五拾六封度(全 上)

一大 錨鎖

徑拾六分ノ拾吋

七拾五尋

一中 錨鎖

徑拾六分ノ六吋

四拾五尋

一 曳 索

周四吋

六拾尋

一 大 索

周貳吋貳分ノ壹

九拾尋

二、帆

一 メン ス ル

江州錨印上等四番

壹 枚

一 ス テ イ ス ル

全

貳 枚

一 ス バ ン カ ー

全

五番

壹 枚

一 ガ フ ト ツ プ

全

九番

壹 枚



一メントライスル

江州錨印上等四番

壹枚

三、静 索

一メンシユラウド

ワイヤ徑四分

一スバンカーシユラウド

全 參分

一フォースター

全 參分

一ボウスピリツトガイ

全 參分

一ボブスター

全 五分

一メンガイペンチント

全 參分

一ボートホールペンチント

全 參分

一メントツビンクリフトペンチント

全 參分

一スバンカートツビングリフトペンチント

全 參分

一スバンカーガイペンチント

全 參分

一バンクラインペンチント

全 參分

四、動 索

一メンスロートハリヤード

月島製  
網會社 參號 徑五分

一メンビークハリヤード

全 徑五分

一ステールハリヤード

全 徑五分

一スバンカーズロートハリヤード

全 徑四分

一スバンカービークハリヤード

全 徑四分

一ガフトツブスルハリヤード

全 徑四分

一ダウンホール

全 徑參分

一メンシート

全 徑六分

一スバンカーシート

全 徑五分

一フォースターシート

全 徑五分

一ライジンスルシート

全 徑五分

一バングライン

全 徑四分

一ガフトツブスルシート

全 徑四分

一シグナルハリヤード

打繩 徑參分

五、ラニヤード

一メンシユラウドラニヤード

徑六分



- 一 スバンカーシユラウドラニヤード 徑五分
  - 一 メントツビンダリフトラニヤード 徑五分
  - 一 メンガイラニヤード 徑六分
  - 一 フォーステラニヤード 徑五分
  - 一 ボウスブリットガイラニヤード 徑五分
  - 一 ボブステラニヤード 徑五分
  - 一 ボートホールベンチントラニヤード 徑五分
  - 一 メンブームスモールガイラニヤード 徑四分
  - 一 スバンカーブームスモールガイラニヤード 徑三分
- 六、ブロック
- 眞鍮ローラ入バラン卜ブロック
- 一 ハリヤード用ブロック
  - 一 シート用ブロック
- 以上ノ外ニ用アルブロックハ樫シープラ用フ滑車ハ凡テローブノ徑ニ合ハセ相當ナルモノヲ付スベシ
- 尙ホ豫備トシテ左記ノモノヲ要ス

拾吋スナツチブロック 參 個  
 六吋ブロック 參 組

メンシユラウドハブロックニ依リ緊着シ機ニ應シ取外シ橋ノ起倒ニ便ナラシムヘシ尙ホマスト  
 倒用鐵製ジンプロックヲ付スベシ

七、其他ノ準備品

- 一 アジマスサークル付羅針儀 壹 個
- 一 アルコールコンパス 壹 個
- 一 深海測鉛 徑五吋 壹 個
- 一 深海測鉛 壹 個
- 一 深海測鉛用ライン 百貳拾尋
- 一 帆 針 參拾本
- 一 帆 錐 參本
- 一 木 槌 大貳本 小參本
- 一 金 槌 貳本



- 一 フイツド 貳 個
- 一 バーム 五 個
- 一 針 扱 參 個
- 一 金スバイキ 五 個
- 一 ツワイン 一 打半
- 一 帆木綿 壹 卷
- 一 救命浮環 二 個
- 一 舷 燈 壹 對
- 一 碇泊燈 壹 個
- 一 霧中號角 壹 個
- 一 號 鐘 壹 個
- 一 信號旗 NC 貳 旗 (バンランニ巾モノ)

六、試 驗  
漁 撈 部

第四回朝鮮海出漁指導試験

本年度ハ漁船新營ノ爲メ試験時期自ラ遲滞シ僅ニ八月下旬ヨリ十月末ニ至ル間主トシテ秋季漁業ニ對シテ指導及調査ヲ行ヘリ其主ナル作業ハ韓海出漁船ノ曳引、漁者ノ施療根據地購入及ビ天草郡長委爾ノ遠洋漁業練習生五名ノ教示監督等ニシテ多ク前年度ノ繼續事業ニ屬スルヲ以テ茲ニ詳述スルコトヲ省畧セリ但シ根據地ハ來年度ヨリ經營ニ着手スルコト、ナレリ

技手 飛山 信治

製 造 部

鮮魚輸送試験

試験ノ目的

近時何レノ地方モ或種漁業ノ目的ヲ以テ石油發動機船ヲ使用スル者漸次増加シツ、アルモ其目的トスル魚ノ漁期以外ノ時期ニ於テハ徒ラニ繫留停船セシムルモノ多ク甚ダ不經濟ニシテ蓋シ之ガ利用ノ方法ヲ講ズルハ最モ緊要ノ事タルベシ故ニ本試験ハ主トシテ收利的調査ヲ遂ケ在來ノ方法ト比較對照シテ查覈センヲ目的トシ併セテ從來氷ヲ使用スルノ念慮乏シキ九州南部地方ノ漁民ヲシテ漁獲物ニ氷ヲ施シテ處理スルノ頗ル有利ナルヲ指導セントスルニ在リ

技手 黒田 藤五郎

試験ノ經過



前項ノ目的ノ下ニ第三不知火丸ハ一月三十日水、木函等ヲ搭載シ根據地際崎港出帆翌日鹿兒島縣坊ノ津ニ達シタルニ時恰モ不漁ニ際シ二月八日ニ至リ漸ク着手スルヲ得當時此ノ近傍ニ最モ漁獲多キ小鮪(沿岸一哩乃至二哩ノ所ニテ釣獲アリ)ヲ積ミ海上五十五哩ノ鹿兒島市ニ至リ全所ヨリ直航汽船ニ轉載東京魚ガシニ輸送シ十一日迄ニ二回往復シタルニ偶々機關ノ故障アリタレバ第三回目ハ試ミニ在來ノ方法ト全機馬車ニテ鹿兒島ニ出シ是ヨリ前二回ト全機ニ處理シ機關修繕成ルニ至リテ第四回ヲ施行シタリ而シテ本船ニテ氷藏輸送シタルモノト馬車又ハ馬積トシタルモノヲ見ルニ既ニ鹿兒島ニ達シタル時ニ於テ明ラカニ其色澤ニ優劣ノ差アルヲ認メタリ

從來ノ漁獲取扱方

今本試驗ノ方法等ヲ記スルニ先立チ坊ノ津近傍ノ漁獲物取扱方ヲ述ベン。仰モ魚種ノ何タルヲ問ハズ凡テ非常ノ大漁時ニアリテハ其漁獲物ニ對シ普ク叮嚀ナル處理手當ヲ施スハ容易ノ事ナラズト雖モ漁獲普通ナル時ハ少シク注意ヲ拂ヘバ魚ノ品質ヲ改善セシメ得ベカラニ尙且其勞ヲ厭ヒ措テ省ミザルガ如キハ怠慢ノ至リト云ハザルベカラズ今回ノ試驗ニ際シ坊ノ津近傍ノ漁夫等ガ其漁獲セル小鮪ノ取扱方ノ粗漫ナル直ニ此邊一帶鮮魚取扱方ニ關スル智識ノ欠如セルヲ窺ハシム彼等ハ釣リ獲タル魚ヲ無難作ニ船底ニ投グ込ミタル儘ニ任カスルモノナレバ歸着ノ時マデ魚ハ海水ト血液ノ混液中ニ在リテ船ノ動搖ト共ニ相互ニ摩擦シ甚ダシク皮膚ヲ害シ且色澤ヲ損スル等ノ事アリ是等ハ當時ノ漁獲一日一隻

三四十尾乃至五六十尾ニ過ギザル時ナレバ些少ノ勞ヲ拂ヒ日光ノ直射ヲ受ケザル船底ニ海水ノ浸潤ヲ防ギ魚ヲ順序ヨク整列シ忘リニ轉轉擦過スルコトナカラシムル裝置ヲナスハ盡シ左迄難事ノ業ニアサラルヘキナリ

歸着セル漁船ガ魚ヲ陸揚スルヲ見ルニ漁夫ハ船上ニ立チタルマ、魚ノ尾柄ヲ握ツテ船底ヨリ取り出し數間隔リタル海岸ノ砂礫上ニ向ケ力ヲ極メテ投ズルヲ常トス粗暴極マレリト云フベシ凡ソ魚ノ死スルヤ其肉ハ先ヅ強直シ次デ腐敗ニ陥ルモノニシテ其強直期ノ長短ハ魚ノ種類外氣ノ温度其他種々ノ關係ニヨリ一定ナラスト雖段々強直セル魚体ニ打撃ヲ加フルガ如キハ最モ速ニ腐敗セシムル原因タラズンバアラズ特ニ強直期比較的短キ小鮪等ニアリテハ最モ然リトス加之礫等ニ衝突シ筋肉内部ノ破裂ヲ生ジ刺身トスベキ價値ヲ下落セシムルコト甚シ試ニ彼等何故ニ斯ノ如キ事ヲナスヤト云フニ單ニ景氣ヲ添フルニアリト聞クニ至リテハ蓋シ言語同斷ナリ

既ニ上述ノ如キ有様ナルガ故ニ從來未ダ嘗テ氷ヲ使用スル者更ニ無ク其儘魚問屋ヲ經テ魚商ノ手ニ移ルモノトス而シテ坊ノ津附近ニ在リテハ魚商ノ團體ナルモノアリ其ガ定ムル相場ニヨリ買收セラル、モノトス今其ノ概要ヲ記サン

坊ノ津ニ於ケル魚ノ賣買

魚商ノ團體ハ現時十六人ヨリ成リ其團體ト漁夫トノ關係ハ漁夫ガ漁業開始ノ當初ニ於テ團體ヨリ多少



ノ前貸金ヲ貸與シ漁夫ハ之レニ對シ好意上已ガ漁獲スル魚ヲ團員ノ競買ニ應ズ而シテ其競買タルヤ當日ノ漁獲見込及需用都市ノ人氣等ヲ參酌シ豫メ團體ニテ其日ノ魚價例ヘバ一斤十六錢ト定メ置キ漁船ノ悉ク歸着スルヲ待チテ更ニ團員相互ニ入札ヲ以テ競買ス此際最高二十錢ニテ其團員ニ落札シタリトスレバ漁夫ヘハ既定ノ十六錢ノ割合ニテ代金ヲ支拂ヒ四錢ノ差ニ因テ生ズル金額ハ之ヲ團體ノ收入トシ積立或ハ配當ス如斯ハ漁夫ニ取リテハ甚ダ不利益ノ方法ニシテ往々不滿ヲ唱フルナキニアラザルモ漁夫ノ無力ナル亦奈何トモ爲シ能ハサル所ナルガ如シ

在來ノ輸送方法

扱前項ノ如クニシテ買收シタル魚ハ凡テ一旦鹿兒島ニ集中シ更ニ汽車或ハ汽船ニヨリ需用地ニ輸送セラル、モノニシテ其ノ鹿兒島市ニ到達スル迄ノ運搬ニ從來如何ナル方法ヲ取レルヤト云フニ左ノ三様アリ

- 一、駄馬ニヨルモノ
- 二、荷馬車ニヨルモノ
- 三、汽船ニヨルモノ

馬ハ一駄ニ二百斤ノ割合ニ積ミ漁獲ノ當日坊ノ津ヲ發シ夜行十時間ニシテ翌朝鹿兒島市ニ達シ直ニ處置シ得ル便アリ(坊ノ津ヨリ鹿兒島マデ陸路約十六里)賃金ハ一駄二圓五十錢乃至二圓七十錢位ナリ荷

馬車ハ一臺ニ付四百斤乃至五百斤ヲ積ミ全シク夜行十六時間ニシテ到達ス賃金ハ百斤ニ付八九拾錢トス

汽船ハ坊ノ津鹿兒島間一日一回ニシテ朝坊ノ津ヲ發シ途中各所ニ寄港シ午后鹿兒島ニ到達スルモノニシテ賃金ハ百斤ニ付四拾錢ナルハ最モ安シトスルモ其隔日ナルト及前日ノ魚ナラデハ積ミ得ズ且ツ到着時刻遅ク全日鹿兒島發ノ汽船ニ轉積スルヲ難キトノ不便アリ

以上何レモ籠ニ盛リタルマ、氷ヲ使用セズ只京坂地方等遠隔ノ地ニ輸送スルモノ、ミ鹿兒島ニ於テ始メテ氷ヲ施スナリ

試験ノ方法

本試験ニ際シテハ買收後直ニ海水ヲ以テ魚跡ニ附着セル砂ヲ洗ヒ去リ長サ三尺巾一尺八寸深サ一尺ノ木函ニ少シク鋸屑ヲ布キ腹部ヲ上向、シ一尾ヅ、覆瓦狀ニ配列シ二十尾乃至二十一尾宛入レ魚ト魚ト相接スル所及上面ニハ更ニ少シク鋸屑ヲ撒布シ其上ニ各函毎ニ二貫乃至三貫目宛ノ氷粒ヲ加ヘ蓋ヲ被ヒ船艙内ニ積ミ入ル第四回目ニ於テハ魚ヲ先ヅ撻水ノ溶液中ニ浸シ(其内五箱分ハ洗滌シタルモノヲ硫酸紙ヲ以テ包被シタリ)洗ヒ全前ノ方法ニテ荷造シタリ

積載ヲ終ルヤ直ニ拔錨鹿兒島ニ向フモノニシテ航海ハ主トシテ夜間ナルガ故ニ氣温モ比較的低ク好都合ナリ而シテ翌日鹿兒島ニ到着爰ニテ更ニ一函ニ付七貫目平均ニテ氷ヲ加ヘ蓋ヲ釘着シ嚴重ニ荷造ヲ



ナシ全日出帆東京直帆或ハ神戸汽車接續ノ汽船ニ轉載シ東京魚ガシニ向テ輸送シタリ左ニ毎回ノ魚量  
價格及水量其他ノ事項ヲ表示セン

輸送表

目次	第一回	第二回	第三回(馬車)	第四回	合計
漁獲日	二月八日	二月九日	二月十一日	二月十三日	
尾數	七四九	一、一三九	二九四	七九四	二、九七六
總重量	三〇一七、三	四六五五、〇	一二三四、八	三三四一、三	一二、二四九、四
一斤ノ價格	二〇、三	一八、〇	一六、〇	一三、八	平均 一五、八
買入價格	六二二、五二二	七七二、六〇四	一九七、五六八	四四一、一六四	二〇二、三、八四八
買入手數料 (三分五厘)	二一、四三八	二七、〇四一	六、九一五	一五、四四〇	七〇、八三四
坊鹿間水量	百二十貫	百貫		百八十貫	四百貫
全價格 五錢上	六、〇〇〇	五、〇〇〇		九、〇〇〇	二〇、〇〇〇
航海時間	七時四十八分	八時四十五分	陸行十六時間	二十二時四十分 途中假泊	
平均氣温	十一度	十五度半		十二度	

石油消費料	石油代價	函數	全上代價	一函尾數	鹿東間水量 一函ニ付七貫	全代價	荷造諸掛 一函ニ付十六錢 (豐錢)	鹿嶋棧橋賃 (豐錢)	東京着日
往五斗一升 復五斗一升	一四、七九〇	四十八	一六、八〇〇	二十尾	三百四十貫	一七、〇〇〇	七、六八〇	四八〇	十三日 十四日 賣着
五斗五升 六斗七升	一七、六九〇	四十六	一六、一〇〇	二十尾八四十三 二十一尾八十三	三百二十二貫	一六、一〇〇	七、三六〇	四六〇	
		十四	四、〇〇〇	二十一尾	六十八貫	三、四〇〇	二、二四〇	一四〇	
六斗五升 五斗一升	一六、八二〇	三十九	一三、六五〇	二十尾二十五 二十一尾十四	七貫七百九 平均三百貫	一五、〇〇〇	六、二四〇	三九〇	
三石四斗	四九、三〇〇	百四十七	五〇、五五〇			五一、五〇〇	二、三、五二〇	一、四七〇	

在來ノ方法ニ依ルト石油發動機船ニ依ルトノ運賃比較

今石油發動機船ヲ以テ專門ニ運搬ニ從事セントスルニ際シ最モ考究ヲ要スルハ其運搬スベキ原料ヲシ  
テ吐絶スルコトナカラシムルコトナリトス蓋シ原料欠乏シ徒ニ碇泊センカ乗組員給料ハ空費サレ次第  
ニ運賃率ヲ高ムルノミナレバナリ左ニ四十函(一函二十尾詰一尾平均四斤)モノ八百尾重量三千二百



斤)ニ對スル諸種ノ運賃ヲ比較セン

汽船積

從來ノ汽船積ハ既ニ前ニ述ベタルガ如ク氷ヲ使用セザルモノナルガ今假ニ鹿兒島ヨリ氷木函錫屑等ヲ取り寄セ本試験ニテナシタルガ如ク坊ニ於テ荷造シ汽船積トスルモノトセバ

鹿兒島ヨリ空函四十個運賃一函ニ付三錢宛

一、二〇〇

全 氷八十貫(一函二貫目ノ割)一貫ニ付五錢

四、〇〇〇

全錫屑(一俵ヲ四函ニ用フル割)十俵運賃一俵ニ付五錢宛

五〇〇

魚ヲ詰メ坊ヨリ鹿兒島ニ至ル運賃一函ニ付四十五錢

一八、〇〇〇

合計

二二、七〇〇

一尾ニ對スル運賃

〇、〇三〇

(二) 馱馬運賃

一馱積量二百斤(五十尾)

四五、〇〇〇

一馱運賃二圓八十五錢

〇、〇六五

八百尾(三千二百斤)ノ運賃

一尾ニ對スル運賃

〇、〇六五

(三) 馱馬運賃

一臺ノ積量五百斤(百二十五尾)

百斤ニ付運賃九十錢

一臺ノ賃銀四圓五十錢

八百尾運賃

二八、八〇〇

一尾ニ對スル運賃

〇、〇三六

(四) 石油發動機船ノ運賃

本試験ニ用ヒタル第三不知火丸ト全型(十九噸二十五馬力)船ヲ用ヒ四十函ヲ積ミ一ヶ月十回往復シタリトシ(漁獲多クレバ一晝夜一回往復スルヲ得)一回ニ要スル費用即チ運賃トナルベキモノハ左ノ如シ

乗組員給料 一ヶ月百二十圓トシ

一一、〇〇〇

一往復ニ要スル石油代(一石一斗分一石ニテ十五圓トス)

一六、五〇〇

全機械油代(三斗分一斗一圓五十錢トス)

四、五〇〇

坊鹿兒嶋間ニ用フル氷代(二貫平均八十貫◎五錢)

四、〇〇〇

合計

三七、〇〇〇



一尾ニ對スル運賃

結 論

前項示ス所ニ依リ各一尾ニ對スル各種運賃ヲ比較スルニ

汽船ニヨルモノ

三 錢

馱馬ニヨルモノ

五 錢 六 厘

馬車ニヨルモノ

三 錢 六 厘

石油發動機船ニヨルモノ

四 錢 六 厘

ニシテ馱馬ニヨルモノハ最高率ヲ示シ既ニ論究ノ價值ナリ汽船ニ依ル三錢ハ甚低率ヲ示シ一見最有利ナルガ如キ觀アリト雖既ニ前ニ記述シタルガ如ク坊ノ津鹿兒嶋間ノ汽船ハ隔日ニシテ而モ早朝坊ノ津ヲ發スルモノナルガ故ニ前日漁獲シタル原料ナラデハ積載スルコト能ハザルト途中各所寄港ニ時間ヲ要シ鹿兒嶋着後全日東京大坂行汽船ニ積載スルコト能ハザルトノ二大缺點ヲ有シ遠地輸送ノ方法トシテ到底採ル能ハズ結局馬車ニ依ルモノト石油發動機船ニ依ルモノトノ優劣如何ガ問題ニテ兩者ノ運賃率ハ一尾ニ付一錢ノ差額アリト雖前者ハ鹿兒嶋ニ到ルマデ氷ヲ使用セズ全地ニ於テ荷造變更ノ際既ニ魚ノ色澤品質等後者ニ劣ルヲ認メタル位ナレバ是ガ遠隔ノ市場ニ到達ノ後其實價モ亦從テ甲乙アルハ勿論ナリ現ニ本試驗ニ於テ石油發動機船ニ依リ輸送セル魚ハ東京市場ニ於テ販賣ノ際一尾ニ付優ニ二錢

乃至五錢他ノ方法ニヨリ輸送セルモノヨリモ高價ナリシコト事實ナリ是ニ依ツテ是ヲ見ルモ漁獲當初ヨリ氷ヲ施シ輸送スルト否ラザルトハ原料ニ及ボス良否ノ影響至大ナルコト及ビ發送地ノ原料豊富ナルニ於テハ之ヲ營利事業トスルモ收利充分ナルコト明ナリ

養 殖 部

牡蛎養殖試驗

技手 西山 伊 六

本年度施行ニ係ル稚蛎附着材料試驗養育適地査定試驗ハ共ニ數年來ノ繼續事業ニ屬シ稚蛎附着材料試驗ハ前年度報告書ニ記載ノ如ク營業者自ラ進ンデ之ヲ施行スルニ至リシヲ以テ本年度ニ於テハ本場ハ單ニ其方法ヲ指導スルニ止メ主トシテ養育適地査定試驗ヲ施行セリ左ニ兩試驗ノ狀況ヲ記スベシ

稚蛎附着材料試驗(第四回)

試驗地 八代郡鏡町地先

稚蛎附着材料トシテ蛎殻ヲ撒布スルハ本地先ニ最モ適切ノ方法ナルコトヲ認知セルモ未ダ營業者全般ニ通ジ之ヲ實施スルノ運ニ至ラズ本年度ハ僅ニ五名ノ有志相謀リテ之ガ試驗ヲ施行セリ而シテ其成績ハ何レモ大同小異ニシテ著シキ優劣ヲ生ゼザリシヲ以テ其内緒方某施行ニ係ル終始中庸ノ結果ヲ示シタルモノニ就キ順次記述セントス



試驗地ハ其具備スベキ要件其他床造リ殻撤入方法等總テ前年報告セシ如クニシテ試驗開始當時ノ經費左ノ如シ

名稱	數量	單價	小計	備考
撤床構成入夫	一	〇、三五〇	三、八五〇	殻ノ座リ及潮ノ通路ニ便セシ爲メ撤床ヲ構成ス長五十二間五合船二間
船漕兼撤付入夫及船料	四	〇、六〇〇	二、四〇〇	五月十一日撤付ク一艘ニ付一人乗組
撤付手傳入夫	四	〇、三五〇	一、四〇〇	船漕兼撤付入夫ノ外ニ此手傳入夫ヲ要ス
水打入夫	二	〇、三五〇	〇、七〇〇	稚蠅附着前後ニ當リ撤床ニ深泥ノ堆積ヲ防グ爲ニ本人夫ヲ要ス
船借入料	一	〇、二五〇	〇、二五〇	水打其他ニ臨時借入レタルモノ
蝸殼代	一六五	〇、〇六〇	九、九〇〇	四床ニ撤付ク床面四二〇坪潮通路共七三五坪
計			一八、五〇〇	

撤入後五月二十五日ニ至リ既ニ稚蠅ノ附着スルモノアリ爾後毎月其成長度ヲ調査セシニ左表ノ如シ

成長度測定表  
月 日 最大形殻高 最小形殻高  
五月二十五日 〇、〇二一 〇、〇二一

六月二十日 〇、一五  
七月二十二日 〇、四七  
八月二十日 一、一〇  
九月二十日 一、五〇  
十月十八日 一、七〇

例年秋期ニ至レバ撤床ニ浮泥堆積シ養育中ノ稚蠅ヲ被フニ至ルモ本年度ハ降雨ノ度數多カリシノミナラズ六月十七日暴風雨起リテ蝸ヲ少シク飛散セシ爲メナランカ同期ニ至ルモ未ダ埋没スルモノナカリシヲ以テ床換ヲ見合ハセ其儘養育セシガ爾後調査ヲ怠リ成長度不明ナルモ冬期ハ一般成長鈍ク四十四年三月ニ至リ最大殻高二寸一分トナリ浮泥稍堆積シテ殻形長方形ニ變ゼシヲ以テ直チニ床換ヲナセシニ船數十一艘ヲ要シタリ

以上ノ成績ト既往數回試驗ノ成績トヲ對照シテ今後ノ支出高並ニ生産高ヲ推測スルニ左記ノ如シ

名稱	數量	單價	小計	備考
船借入料	一	〇、六〇〇	六、六〇〇	前記三月中床換ニ要セシ船ニシテ入夫一人乗組(春季手入)
全右	一	〇、六〇〇	六、六〇〇	秋季手入ニ前同様手數ヲ要ス
計			一三、二〇〇	四十四年冬期取揚ケニ至ルマテニ要スベキ總金額



即チ今後ノ見込支出高金拾參圓貳拾錢前掲試驗着手當時ノ經費金拾八圓五拾錢ナルヲ以テ支出總高金參拾壹圓七拾錢ナリ而シテ養蠅見込收穫高壹萬參千七百五拾斤内死介殼或ハ稚蠅ヲ撰別除去シ壹萬壹千斤ヲ養殖地ニ於テ百斤ニ付金六拾錢ニ賣渡セバ收入合計金六拾六圓トナリ差引益金參拾四圓參拾錢ニシテ使用養殖地面積築場ハ七百三十五坪實入場同上計千四百七十坪ナルヲ以テ坪當リ四錢五厘餘ノ益金ヲ得ベキ豫定ナリ

本試驗施行ニ就テハ先キニ本場ニテ試驗セシ事項ヲ親シク營業者ニ摸倣自營セシメタルニ外ナラズシテ本年度實施ノ五名ハ本養殖方法ノ適切有利ナルヲ確知シ進ンデ來年度再施ヲ出願スルニ至リ大体ニ於テ豫期ノ目的ヲ達セシガ故ニ更ニ今後二ケ年同一試驗ヲ繼續シ同時ニ營業者一般ニ之ヲ實施セシムル方針ナリ

養育適地査定試驗(第四回)

本年度撰定セシ試驗地ハ八代郡鏡町地先ニ於ケル本場養蠅試驗地築場ヨリ遠カラザル同一洲中ニ區劃シ三十六年度建設ノ築ニ附着セル古蛎ヲ四月中ニ撤布セリ元來本所ノ土質ハ砂三分泥七分ノ割合ニ混入シ地盤ハ固ク緊縮シ潮流ノ疎通良好ニシテ食餌豐富ナルノミナラズ撤布ノ牡蛎ハ容易ニ泥中ニ埋没セズ從テ成育良好ナルコトハ既ニ悉知セラル、モ毎年暴風ノ爲メ養育中ノ牡蛎ヲ飛散シ其損害尠シナラズ依テ風害豫防ノ爲メ養育地ニ竹簀ヲ廻ラシ其成績如何ヲ查覈セリ竹簀ハ徑一寸内外ノ淡竹ヲ三尺

切リトシ之ヲ荒ク編ミテ五月二十六日養育場ノ一方風下ニ三箇處曲線ヲ畫キテ建設セシニ六月十七日ヨリ七月十日ニ至リ數回ノ暴風アリ極メテ強烈ナリシニ係ハラズ能ク牡蛎ハ留止シ十月ニ入りテ肉身充實セシヲ以テ販賣ヲ開始シ竹簀ハ除去シテ陸上ニ保存セリ  
本試驗地ハ運搬、撤入、採取等極メテ便利ニシテ竹簀ヲ廻ラセバ暴風ノ害ヲ防キ貝ノ成育ヲ良好ナラシムルコトヲ知レリ依テ他日別ニ適當ノ箇所ヲ見出サザル限リハ暫ク本所附近ヲ飼育場ニ充ツルコト、シ以テ試驗ヲ終了セリ

蠶養殖試驗

種苗蕃殖保護試驗(第九回)

本年施行ノ試驗地ハ前年使用セシ唐人川口ノ試驗地及ビ同處ヲ距ル僅カ壹里餘ナル玉名郡橫島村九番入江地先ニ撰定シ九月種貝ヲ移植セシニ十月上旬ニ至リ烈シキ被害出現シ撤入種貝ノ全部死滅セリ該被害狀況ハ兩三年有明海ニ棲息セル蠶ヲ斃死セシメタルト全ク同一ニシテ其原因ニ關シテハ水産局ノ指導ヲ仰キ長崎、福岡、佐賀ト四縣聯合研究中ニ屬ス今年度施行セシ試驗ノ狀況ヲ述ブレバ左ノ如シ  
養殖試驗地中九番入江地先ノ試驗地ハ橫島村字明丑開沖堤防ヲ距ル南ニ約八十間明豐開西堤防ヲ距ル西ニ六十間ノトコロ恰モ九番入江ヨリ流下スル小湊側ニ位シ面積二千百坪大潮時ニ於ケル水深約一丈アリ土質ハ上層砂泥ニシテ中層ハ介殼ヲ混ジ二尺以下ハ固ク緊縮セル泥質ナリ此處ニ縱橫各十間面



積百坪ノ小區劃ヲ南北三區東西七區ニ配列シテ總計二十一區トシ各區間ニハ幅壹間ノ通路ヲ設ケタリ  
 唐人川口ノ試驗地ハ唐人川口渡船場ヨリ北東ニ上ルコト壹百間前年施行セシ試驗地ニ接續シ面積參百  
 五拾坪ヲ定ム而シテ大潮時ニ於ケル水深同ジク約壹丈アリ土質ハ軟泥深クシテ貳尺五寸ニ及ビ以下稍  
 緊縮セリ區劃方法ハ前年同様長貳拾間面積百坪トシテ參區半ヲ構成シ各區間ニハ幅壹間ノ通路ヲ設ケ  
 タリ

種貝ハ佐賀縣佐賀郡南川副村字犬井道地先産ノモノヲ購入シ左表ノ如ク撤入セリ而シテ原産地ニ於ケ  
 ル種貝ノ採取方法及運搬方法並ニ試驗地ニ於ケル種貝ノ撤入方法等ハ總テ前年度ト同様ナリ

撤入 月日	最大形			最小形			撤入 全上 人夫 區書 材書 撤入 時死 ノ入 撤 法方	備 考
	長 巾 厚 重	肉 量	殼 量	長 巾 厚 重	肉 量	殼 量		
廿二日	1.80	0.60	0.40	1.20	0.35	0.20	14.40	1.0 全
十九日	1.80	0.60	0.40	1.20	0.35	0.20	17.85	1.0 全 九 番 入 江
十八日	1.80	0.60	0.40	1.20	0.40	0.20	15.90	1.0 全 唐 人 川
九月 十四日	1.80	0.50	0.40	1.20	0.40	0.20	15.45	30 瀉 九 番 入 江
平均	1.77	0.58	0.37	1.04	0.37	0.23	14.40	

計	平 均	廿全	廿全	廿全
		八 日	六 日	五 日
	1.77	1.70	1.80	1.75
	0.58	0.55	0.60	0.60
	0.37	0.35	0.35	0.35
	2.00	1.80	2.00	1.70
	1.40	1.30	1.40	1.40
	0.60	0.50	0.60	0.50
	2.13	2.00	2.33	2.11
	1.50	1.50	1.50	1.50
	0.50	0.50	0.50	0.50
	0.30	0.30	0.30	0.30
	1.10	1.30	1.00	1.20
	0.78	0.90	0.80	0.80
	0.40	0.40	0.40	0.40
	1.90	2.25	2.00	2.00
	1.20	1.30	1.25	1.20
	0.38	0.40	0.40	0.40
	0.25	0.25	0.25	0.25
	0.84	1.00	0.80	0.80
	0.55	0.70	0.50	0.50
	0.28	0.30	0.30	0.30
	1.96	2.33	1.66	1.66
104.68		13.12	12.60	15.36
24.50		350	300	350
46		6	7	6
14				
1				
101				
200				
	1.2	1.0	1.0	1.0
		瀉 全	潮 全	全 全

撤入當時ノ經費左ノ如シ

- 一金參百八拾壹圓參錢五厘
  - 一金拾參圓八拾錢
  - 一金四圓貳拾錢
  - 一金壹圓
  - 一金貳拾錢
  - 計金四百圓貳拾參錢五厘也
- 但鯉種貝百四石六斗八升代一石ニ付金參圓六拾四錢宛
  - 全撤入費四十六人分一人ニ付金參拾錢宛
  - 全撤入場構成成人夫十四人分
  - 全撤入場區劃用小竹二百本代一本ニ付金五厘宛
  - 全船借入料一艘分



被害ノ狀況 撤入後二十餘日ヲ經テ十月八日各貝ノ潛入狀況ヲ調査セシニ其時既ニ斃死セシモノ多ク内ニハ肉身腐敗シタルマ、介殼ニ止マルモノアリ或ハ水管ノ縮力ヲ失ヒテ衰弱ノ初期ニアル如キ狀態ノモノアリ前年度ニ於ケル死狀ト全ク同一ニシテ其時ノ死數略左ノ表示圖ニ於ケル如キ結果トナレリ而シテ甲處ニテハ北側一列區ノミ割合健全ニシテ前後ノ狀況ヨリ推測スルニ全月五日以降被害起リ九日以後殊ニ甚シク十月十一日ニ至リテ北側區三百坪以外ノ部ハ悉ク死滅シ尙殘存貝モ衰弱シテ十月二十三日ニ至リ全部斃死セリ然レドモ其原因ハ尙不明ニ屬スルヲ以テ單ニ參考トナル事項ヲ列記シ後日調査綜合ノ場合ニ便スルニ外ナラズ

第一 十月三日午後七時前後北ノ強風アリシモ之ガ爲メ浮泥ノ堆積セシ如キコトナシ且ツ養殖場ハ同一程度ニ風害ヲ被ル位置ニアル等ヲ推測セバ別ニ煙ノ障害トナラザリシコトヲ認ム

第二 前年度斃死ヲ始メシ時ノ海水温ハ攝氏十八度ニシテ本年度ハ十九度ナリトス依テ普通十月中ノ海水温二十度ヨリ二十三度ノ間ヲ昇降スル場合ハ別ニ煙ニ障害ナキモ全月中急ニ二十度以下ニ降ルトキハ其成育ヲ妨ケ稍危険ナラザルヤト思考ス

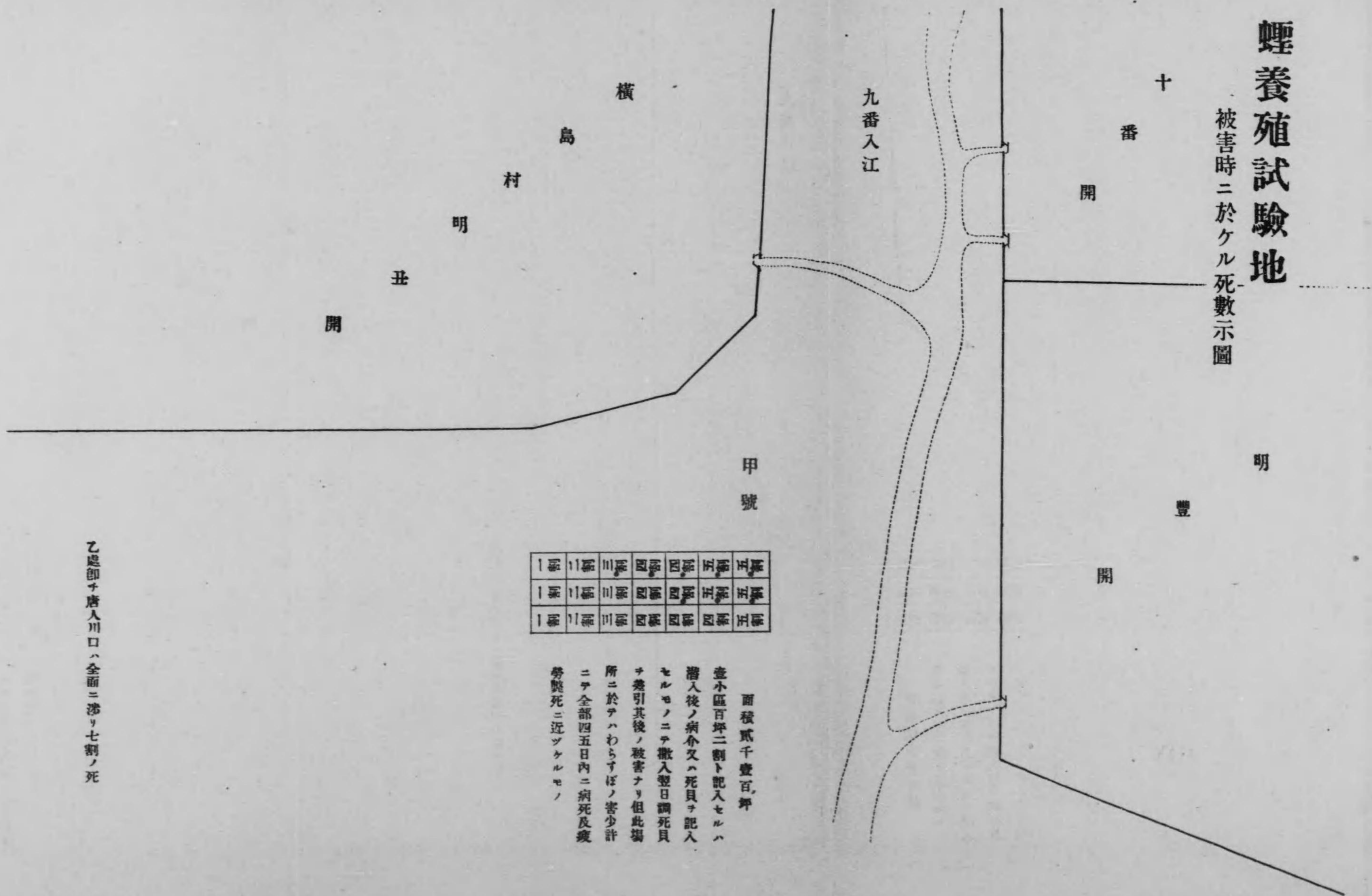
第三 本年度モ亦前年ニ記載セシ「ヂストマ」寄生ス即チ腮ノ全部及ビ吸入水管ノ内壁ニ多ク着生シ一個ノ貝ニ就キ撤入當時五十内外ナリシモノ斃死期十月中旬ニハ少シク其數ヲ増セシ傾向アルヲ認ム

第四 通常九月下旬ヨリ毎年産卵ヲ始ムルモ十月九日ニ至リ尙放産シ盡サマルモノアリシヲ認ム依リ



# 煙養殖試験地

被害時ニ於ケル死數示圖



1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1

面積貳千壹百坪  
 壹小區百坪ニ割ト記入セルハ  
 潛入後ノ病介又ハ死貝ヲ記入  
 セルモノニテ撤入翌日調死貝  
 ナ差引其後ノ被害ナリ但此場  
 所ニ於テハわらすぼノ害少許  
 ニテ全部四五日内ニ病死及疲  
 勞斃死ニ近ツケルモノ

乙處即チ唐人川口ハ全面ニ涉リ七割ノ死



ヲ斃死當時運搬、産卵等ノ爲メ介ハ稍々衰弱シ居リシモノタルコトハ確カナリ  
 第五 わさり、しほふき其他魚類ニハ別ニ異狀ヲ認メズ又寄生蟲ナク唯輕ノミ斃死セリ  
 海苔養殖試験

菊池川口海苔養殖事業第五回保護試験

本年度施行海苔養殖試験ハ前年度ノ繼續ニ屬スレドモ専ラ菊池川口海苔養殖事業ニ對スル保護試験ノ  
 ミトセリ而シテ其方法ハ前年ト同ジク當業者建設篋ニ就キ胞子ノ發生及成育經過ノ狀況ヲ調査シ又別  
 ニ民營養殖場ヲ距ル北方約八百間滑石村共和新地沖堤防ヲ距ル西方全ジク八百間ノ處菊池川支港ニ接  
 シテ試験地ヲ撰定シ此處ニ試験用トシテ篋女竹千本ヲ建設シ以テ篋間隔ノ粗密ニ關スル優劣及ビ當業  
 者分トノ成育比較ヲナセシニ左ノ如キ成績ヲ得タリ

事項	項目	當業者	試驗篋(甲)粗	試驗篋(乙)密
篋建設月日	九月四日		十月四日	十月四日
篋ノ種類	女竹		全上	全上
一反歩内建設本數	六百本		四百本	六百本
篋建設方法	各篋横距三尺 縦距一間斜立		各篋ノ間隔縦横共一 間斜立	全上縦一間横三尺斜立
胞子ヲ認メタル月日	十月二十七日		十一月一日	十一月一日



摘採開始期	十二月下旬	四十四年一月九日	一月十二日
藻流失數及月日	不明	十一月十日 五本	十一月十日 十一本
摘採最盛期	四十四年一月上旬	一月二十五日	一月二十五日
被害ヲ認メシ月日	一月十七日	一月二十八日	一月二十八日
終末期	一月下旬	二月二十五日	二月二十五日

右ノ成績ニヨレバ試験用籠ノ粗密共ニ終始狀況畧同一ニシテ被害ノ時期ニモ遲速ヲ生セズ之加優劣ヲ區別スルコト能ハザレドモ粗立テノ方ハ籠一本ヨリノ最收量ニ於テ拾勿餘ノ增收アリ畢竟發生海苔ノ伸長速カナリシモノナリトス尙試験用ノモノヲ營業者分ト比較スルトキハ製造期日ニ於テ約二倍セルヲ認ム之ヲ營利上ヨリ打算セバ非常ナル軒輕ヲナスモノニシテ試験地ガ斯カル良好ノ成績ヲ示シタルハ全ク淡水混加割合多キヲ以テ常ニ水温低度ニアルノミナラズ附近一帶展開セル爲メ潮流ノ疏通良好ナリシニ因ルモノトス

次キニ民營養殖場全面ニ涉リ成育期間即チ三潮期ヲ合算シ海苔胞子附着及發育ノ優劣等級ヲ査定セシモノハ左表ニ示スガ如シ

表均平況狀育發着附

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
5	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	
4	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	
3	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	
2	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	
1	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	1'00	

右表ニヨリ本年度ノ成績ハ10、11最良ニシテ1、2、3等之ニ次グヲ知ルベシ但シ表ノ作製法ハ前年ト同一ナリトス

佐賀産牡蛎移植試験

本年度亦既往移植セシモノニ就キ稚蛎發生如何ヲ査定セリ而シテ八代郡鏡町地先ニ於ケルモノハ益ト好況ヲ呈シテ親貝ハ成育迅速トナリ稚貝ハ前年度同様ノ固形物ニ着生シ特ニ氷川口野崎新地ノ北堤防



ニ接セル部ニ割合多ク發生セリ玉名郡唐人川口ニ於ケルモノハ本年度ニ入りテヨリ成育上別ニ障害ナク依然トシテ成長スレドモ其數量少ナキ爲メ未ダ著シキ稚蛎ノ發生スルモノナシ其移植當時ヨリ今日ニ至ルマデノ成長度左表ノ如クニシテ尙稚蛎發生上ノ適否ニ就キテハ決シテ前處ニ劣ラザルニヨリ來年度亦兩所ニ夫々種蛎ヲ撒入シ以テ試驗ヲ繼續セシコトヲ期ス

唐人川口移植佐賀産大蛎成育調査表

調査月日	大	形	小	形	摘要
五月四日	長高二六、〇〇	二六、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	調査斷ハ大及小各五個宛
六月二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
七月六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
八月一日	二六、〇〇	二六、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	
九月一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十月一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十一月七日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十二月一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十一月廿四日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
二月廿六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
三月廿五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
四月廿六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
五月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
六月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
七月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
八月二十日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
九月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十一月廿四日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十二月十七日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
一月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
二月十五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	

調査月日	大	形	小	形	摘要
一月廿四日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	調査斷ハ大及小各五個宛
二月廿六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
三月廿五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
四月廿六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
五月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
六月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
七月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
八月二十日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
九月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十一月廿四日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十二月十七日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
一月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
二月十五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
三月廿五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
四月廿六日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
五月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
六月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
七月廿二日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
八月二十日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
九月廿一日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十一月廿四日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
十二月十七日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
一月十九日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	
二月十五日	二五、〇〇	二五、〇〇	二四、〇〇	二三、〇〇	







二組外水種等ニシテ之ヲ納ムベキ小屋ハ九坪ノ平屋造リニシテ屋根ハ麥藁葺トシ壁ハ三方板張ニシテ一方ニ硝子窓ヲ設ク尙内部一坪ハ番人詰所トナシニ疊敷トセリ

親魚ノ捕獲及ビ採卵

採卵ニ適スル親魚ノ捕獲方法ハ未ダ完全ナラズ多クハ産卵場ニ出デタルモノ即チ魚ガ物ニ驚愕スルコト少ナキ場合ニ至リ始メテ投網ヲ使用シ捕獲スルヲ以テ或ハ既ニ放産セシモノアリ一般ニ雄魚多ク雌魚ハ極メテ少數ナリトス加フルニ漁業者少ナク本年度ハ恰モ採卵時期ニ當リテ洪水アリ其他流木作業ノ爲メ捕獲ヲ妨ケラレ終ニ豫定數ヲ收納スルコト能ハス漸ク村役場ノ助力ヲ仰キ出漁者ヲ督勵シテ捕魚ニ務メシモ辛フシテ左表ノ如キ卵數ヲ得タルニ過キス

採卵月日	採卵數
十月八日	二〇〇 <small>尾</small>
全三十一日	五〇〇
全二十四日	一、三〇四
全二十六日	六六七
十一月二日	一〇〇
計	二、七七一

右ニ使用セシ親魚ノ數等左ノ如シ

親魚數	雌二十五尾		雄十一尾		体長(吻端ヨリ尾柄マデ)	体高	体重
	最小	最大	最小	最大			
	一、〇五	一、二三	一、〇五	一、二三			
	、五〇	、一一	、九八	、二一			
	、六〇	、一八	、六〇	、一八			
							九〇*
							二〇
							八五
							三八

卵ノ發育狀況

卵ハ撿取後全所ニ育養セシニ別紙觀測表ノ通り水温攝氏十五度乃至十六度ニシテ九日目ニ發眼セリ依リテ十一月初旬出水村ノ孵化場ニ搬致シ育養セシニ水温十四度二分乃至十八度九分ノ間ヲ昇降シ發眼後二十日目ニ孵化ヲナセリ然ルニ既述ノ如ク採卵時ニ優良ノ親魚ヲ得ルコト能ハス從テ不健全ノ卵精ヲ採用セシ爲メ左ノ如ク死數ヲ生ジタリ

採卵後間モナク死シタルモノ	三〇〇 <small>尾</small>
發眼前ニ運搬セシモノ(全部死)	一〇〇
孵化前ニ死シタルモノ	六二五
孵化後放流迄ニ死シタルモノ	一、六九六



孵化後約二十日ニシテ臍囊消失セシヲ以テ爾後雛卵黃ヲ投與シ其後一週間目ヨリ蛹粉ヲ以テ飼育セリ  
四十四年一月二十三日ニ至リ次第ニ斃死減數シテ生存數僅カニ五十尾トナリシガ体長一寸二分体高一  
分二厘ニ成長セシヲ以テ之ヲ池中ニ放養セリ

試驗ニ對スル意見

本試驗施行當初ノ計畫ハ前記五木村ニテ卵粒十萬ヲ收得スベキ豫定ニテ孵化場其他總テノ設備ヲナセ  
シガ既述ノ如ク洪水及ビ流水作業ニ妨ケラレテ豫定ノ親魚數ヲ採ルコト能ハズ加フルニ可成卵數ノ多  
キヲ欲シ幼魚ニ至ルマデ總テ採卵セシ爲メ死卵兒多ク極メテ多量ノ減耗ヲ生シテ不成績ニ終レリ然レ  
ドモ若シ完全ニ採卵スル時ハ之ガ移殖ハ實行シ得ベキヲ知リシニ依リ來年度ハ採卵地ヲ増加シ優良ノ  
親魚ノミヲ採用シテ豫定計畫ヲ誤ラザルコトヲ期シ本試驗ヲ施行セントス

球磨郡五木村採卵場ニ於ケル灌漑表

月日	天候		外氣温	室内温	河水温	育水温	育水温	
	風位	風力					最高	最低
四十三 年 十月二十二日	曇	—	二四、二、一七、二、一六、四	二五、七、二五、七、二五、七	二五、七	二五、二、五、八、五、五、五	二五、二、五、八、五、五、五	二五、二、五、八、五、五、五
十月二十三日	晴	—	二二、七、二、八、八、二、七、二、八、九、八、一	二二、七、二、八、九、八、一	二五、三	二五、二、五、八、五、五、五	二五、二、五、八、五、五、五	二五、二、五、八、五、五、五
十月二十四日	雨	—	二五、五、七、五、七、五、七、五、七	二五、五、七、五、七、五、七、五	二五、一	二五、六、一、五、七、五、七、五、七	二五、六、一、五、七、五、七、五、七	二五、六、一、五、七、五、七、五、七
十月二十五日	南和	晴	二二、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三	二二、三、三、三、三、三、三、三、三、三、三	二六、〇	二五、〇、一、五、三、五、三、五、三	二五、〇、一、五、三、五、三、五、三	二五、〇、一、五、三、五、三、五、三

月日	天候		外氣温	室内温	河水温	育水温	育水温	
	風位	風力					最高	最低
十月廿六日	東南	晴	八、七、〇、三、七、六、二、五、五	八、七、三、〇、七、〇、五、五	二四、六	二四、七、五、八、一、五、六、二、五、三、六、〇、二、四、〇	二四、七、五、八、一、五、六、二、五、三、六、〇、二、四、〇	二四、七、五、八、一、五、六、二、五、三、六、〇、二、四、〇
十月廿七日	—	晴	八、二、七、〇、一、五、三、三、三、四、七、七、三、八、三、四、五	八、二、七、〇、一、五、三、三、三、四、七、七、三、八、三、四、五	二四、四	二四、九、一、五、四、一、五、七、一、五、三、六、〇、三、九	二四、九、一、五、四、一、五、七、一、五、三、六、〇、三、九	二四、九、一、五、四、一、五、七、一、五、三、六、〇、三、九
十月廿八日	南和	曇	九、三、八、〇、一、八、二、五、一、九、三、八、一、八、五、五、三	九、三、八、〇、一、八、二、五、一、九、三、八、一、八、五、五、三	二四、七	二五、〇、一、五、六、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、〇、一、五、六、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、〇、一、五、六、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇
十月廿九日	南西	晴	二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二	二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二、二	二四、七	二五、一、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、一、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、一、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇
十月三十日	—	晴	二、一、五、九、七、二、六、八、二、六、〇、二、一、四、九、七、七、〇、〇、六、〇	二、一、四、九、七、七、〇、〇、六、〇	二四、五	二四、七、一、五、五、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二四、七、一、五、五、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二四、七、一、五、五、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇
十月卅一日	—	晴	六、四、三、〇、四、一、五、九、四、二、六、五、五、〇、二、六、一、二、四、一	六、四、三、〇、四、一、五、九、四、二、六、五、五、〇、二、六、一、二、四、一	二四、二	二五、七、一、五、三、三、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、七、一、五、三、三、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、七、一、五、三、三、五、三、六、〇、二、五、〇
十一月一日	—	曇	二、〇、六、七、四、八、七、五、五、〇、七、七、四、八、七、五、五、六	二、〇、七、七、四、八、七、五、五、六	二四、〇	二四、三、一、四、九、一、六、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇	二四、三、一、四、九、一、六、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇	二四、三、一、四、九、一、六、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇、一、五、〇
十一月二日	北	雨	三、三、六、三、八、八、七、八、〇、三、六、二、三、六、二、三、六、二、三、六、二	三、三、六、二、三、六、二、三、六、二、三、六、二、三、六、二、三、六、二、三、六、二	二四、七	二五、二、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、二、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇	二五、二、一、五、七、一、五、三、六、〇、二、五、〇

飽託郡出水村孵化場ニ於ケル観測表

月日	天候		外氣温	室内温	河水温	育水温	育水温	
	風位	風力					最高	最低
四十三年 十一月六日	北	和	一一、二	一一、一	一七、六	一七、三	一八、四	一六、〇
十一月七日	—	晴	一一、三	一四、一	一六、七	一六、六	一八、四	一六、四
十一月八日	南	和	一三、二	一五、七	一八、一	一七、六	一八、〇	一六、〇
十一月九日	北	軟雨	一四、七	一五、九	一七、八	一八、〇	一八、二	一七、二



十二月廿七日	十二月廿六日	十二月廿五日	十二月廿四日	十二月廿三日	十二月廿二日	十二月廿一日	十一月三十日	十一月廿九日	十一月廿八日	十一月廿七日	十一月廿六日	十一月廿五日	十一月廿四日
西	西	西	南西	西	西	北西	南西	南西	南	南	西	西	北
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
曇	曇	曇	曇	晴	晴	晴	雨	晴	微雨	晴	晴	晴	晴
七、九	八、一	七、一	八、二	五、三	八、七	一五、五	一五、一	一一、七	九、二	九、七	九、五	一〇、〇	一四、四
八、八	九、六	九、〇	九、八	八、一	八、七	一六、六	二五、八	一五、六	一一、八	一五、二	一〇、七	一一、五	一五、〇
一八、一	一八、一	一七、九	一九、〇	一八、〇	一七、六	一八、一	一八、二	一八、二	一八、〇	一八、一	一八、〇	一八、〇	一八、二
一七、〇	一六、九	一六、九	一七、一	一六、六	一六、三	一八、〇	一八、〇	一七、七	一七、四	一七、五	一七、二	一七、四	一七、七
一七、五	一七、五	一七、五	一七、六	一七、三	一七、〇	一八、二	一八、二	一八、五	一八、〇	一八、〇	一七、六	一八、五	一八、二
一二、五	一五、五	一五、五	一五、六	一五、〇	一六、〇	一七、二	一七、二	一六、〇	一五、二	一六、五	一六、〇	一六、〇	一七、五

十一月十日	十一月十一日	十一月十二日	十一月十三日	十一月十四日	十一月十五日	十一月十六日	十一月十七日	十一月十八日	十一月十九日	十一月二十日	十一月廿一日	十一月廿二日	十一月廿三日
西	西	南西	西	西	南西	南西	西北	北西	北西	南	南	南	北西
强	强	和	和	和	和	和	軟	和	和	和	和	和	軟
雨	雨	曇	晴	晴	曇	曇	曇	曇	晴	晴	晴	晴	晴
一四、九	一二、一	一四、六	一三、二	一二、四	一三、八	一二、一	九、七	七、五	八、〇	七、九	一〇、一	一一、五	一六、三
一六、二	一四、四	一四、四	一三、四	一三、〇	一四、九	一四、四	一〇、一	九、二	九、一	九、二	一一、四	一二、四	一六、四
一七、七	一八、〇	一七、五	一八、二	一七、六	一八、〇	一七、七	一七、五	一八、二	一七、六	一八、一	一八、二	一八、一	一八、五
一七、四	一七、〇	一七、五	一七、六	一七、四	一七、八	一六、九	一五、四	一六、八	一六、七	一七、四	一七、五	一七、六	一七、五
一八、五	一八、一	一八、五	一八、〇	一八、三	一八、六	一八、〇	一七、五	一七、五	一八、〇	一八、五	一八、〇	一八、二	一八、五
一六、〇	一六、八	一七、〇	一七、〇	一六、〇	一六、〇	一五、五	一五、五	一五、五	一五、五	一五、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇



十二月廿二日	十二月廿三日	十二月廿四日	十二月廿五日	十二月廿六日	十二月廿七日	十二月廿八日	十二月廿九日	十二月三十日	十二月卅一日	四十四年 一月一日	一月二日	一月三日	一月四日
東	南	西	西	西	西	南	北西	西	北	西	西	西	西
和	和	和	和	和	和	和	和	和	軟	和	和	和	和
晴	晴	晴	晴	晴	雨	晴	晴	晴	晴	曇	晴	晴	晴
七、三	八、三	六、四	七、七	七、七	八、〇	六、九	五、三	八、〇	七、七	三、六	四、四	四、八	八、二
九、〇	一〇、〇	七、八	九、〇	八、九	九、四	八、八	七、四	九、七	九、五	五、四	六、四	六、一	九、八
一七、九	一七、八	一七、九	一七、九	一七、六	一八、〇	一七、六	一七、九	一八、〇	一七、四	一七、九	一七、九	一七、九	一八、〇
一六、七	一六、二	一六、五	一六、六	一六、九	一六、七	一六、五	一六、六	一六、九	一六、三	一六、〇	一六、五	一六、六	一七、一
一六、七	一六、七	一六、八	一六、八	一七、五	一七、七	一六、八	一七、〇	一七、二	一七、〇	一六、五	一七、〇	一七、〇	一八、〇
一五、五	一五、〇	一五、五	一五、五	一六、三	一五、二	一五、五	一四、八	一六、〇	一六、〇	一四、八	一六、〇	一五、〇	一六、〇

十二月廿一日	十二月二十日	十二月十九日	十二月十八日	十二月十七日	十二月十六日	十二月十五日	十二月十四日	十二月十三日	十二月十二日	十二月十一日	十二月十日	十二月九日	十二月八日
南西	南西	西	東	北西	西	西	北	北	北	北西	北西	西	南西
和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
曇	雨	曇	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	曇	曇	曇	晴
八、四	一〇、二	六、三	五、三	五、四	五、六	六、一	五、三	三、八	三、八	三、四	四、五	四、八	六、八
一〇、三	九、一	七、八	六、七	五、一	七、一	九、七	六、八	五、七	五、七	六、二	六、六	六、三	九、一
一七、九	一八、一	一七、九	一八、〇	一八、〇	一七、六	一八、〇	一七、九	一七、七	一八、〇	一七、九	一七、九	一七、九	一八、一
一七、〇	一六、八	一六、九	一六、九	一六、九	一六、九	一七、二	一七、〇	一七、三	一六、六	一六、四	一六、八	一六、八	一七、四
一七、三	一七、三	一七、二	一七、八	一七、五	一七、五	一七、七	一七、〇	一八、二	一七、二	一七、〇	一七、〇	一七、〇	一八、〇
一六、〇	一五、八	一五、九	一三、九	一五、五	一六、五	一五、〇	一五、三	一五、〇	一五、〇	一五、五	一三、九	一六、〇	一五、〇



一月五日	北西	軟	雨	一一、一	一一、三	一八、〇	一七、〇	一七、五	一六、〇
一月六日	北西	和	晴	五、七	七、五	一七、九	一五、九	一七、〇	一五、〇
一月七日	西北	和	晴	七、三	七、九	一七、七	一六、七	一七、〇	一六、二
一月八日	西	和	雨	一〇、五	九、六	一八、〇	一七、一	一七、五	一六、五
一月九日	西	和	雨	一〇、〇	一一、一	一八、〇	一七、五	一八、〇	一六、〇
一月十日	西	和	雨	八、五	九、六	一八、〇	一七、一	一七、五	一五、五
一月十一日	東	和	晴	七、五	八、九	一八、一	一七、一	一七、五	一五、五
一月十二日	北	強	曇	三、一	四、九	一七、五	一六、一	一七、五	一五、七
一月十三日	西北	和	晴	二、六	五、三	一七、七	一六、五	一七、〇	一五、五
一月十四日	北	和	曇	三、六	四、六	一七、七	一六、四	一七、五	一五、八
一月十五日	北	和	晴	四、三	八、一	一七、七	一六、三	一六、七	一五、五
一月十六日	北	和	晴	五、六	七、七	一七、九	一七、〇	一七、五	一五、五
一月十七日	北西	和	晴	五、九	七、〇	一八、〇	一七、一	一七、七	一五、五
一月十八日	北西	和	曇	六、八	八、三	一七、九	一七、〇	一七、五	一六、五

一月十九日	南西	和	晴	六、八	八、一	一七、六	一六、五	一七、四	一六、四
一月二十日	北	和	晴	七、二	一〇、四	一七、九	一六、九	一七、三	一六、四
一月二十一日	西	和	雨	七、三	九、三	一七、五	一六、三	一七、五	一五、五
一月二十二日	北	和	雨	六、一	七、六	一七、二	一六、四	一七、〇	一五、六
一月二十三日	北	和	曇	五、四	六、三	一七、四	一六、二		一五、八

養殖聯絡試験

牡蛎、海苔、鯉ノ三種ニ就キ試験セシガ其内鯉ノミハ養殖試験ノ部ニ既述セシ如ク短期ニ死滅シテ其成績ヲ收得スルコト能ハズシテ止ミ牡蛎及ヒ海苔二種ノ成績ヲ查收セリ左ニ其狀況ヲ述ベンニ

牡蛎養殖聯絡試験

本年度施行牡蛎養殖聯絡試験ハ前年ト全ジク試験地ヲ不知火及有明ノ兩海區ニ分チテ前年使用ノ地ニ接續セシメ方法亦指定ノ要項ニ準據セシヲ以テ養殖場ハ甚シキ異趣ヲ生セス其養成結果左ノ如シ

不知火海區試験 牡蛎苗附着及成長表

建設月日	四月二十三日	五月二十三日	五月六日	五月七日	五月八日	五月九日	五月十日	五月十一日
	四月二十三日	五月二十三日	五月六日	五月七日	五月八日	五月九日	五月十日	五月十一日
検査日	四月二十三日	五月二十三日	五月六日	五月七日	五月八日	五月九日	五月十日	五月十一日
附着数	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
高	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
長	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
幹	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
枝	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
幹	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
枝	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
幹	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
枝	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘	八厘
五月廿三日	六	二	八	厘	八	厘		



六月廿三日			三分	二分	一分一厘	五二〇																
七月廿二日			五分	三分	二厘	五三																
八月二十日			一寸	六分	八厘	一三七																
九月十五日			一寸一分	七分	五厘	二八二																
十月十八日			二寸	一寸	一分	五三																
十一月十七日			二寸二分	一寸二分	二分																	ナシナシ

備考 一、附着數ハ簗一本ノ幹枝ニ對スル平均數ヲ以テス

二、七月二十二日建設ノモノ成績優良ナリ

三、蛎ノ形大ヲ檢測セシモノハ地上一寸三分幹ニ附着セシモノナリ

全區 氣象日表

月 日	觀測時	天 候	風 向	風 力	氣 温	水 温	濕 比 重
四月十六日		曇					
全 十七日		晴					
全 十八日		雨					

全 十九日		晴										
全 二十日		全										
全 廿一日		雨										
全 廿二日		曇										
四月廿三日	午後一時	晴	北		一五			一五	一、〇二〇			
五月十六日		曇										
全 十七日		晴										
全 十八日		全										
全 十九日		全										
全 二十日		曇										
全 廿一日		晴										
全 廿二日		全										
五月廿三日	午後一時	全	西		二八			一三	一、〇二〇			
六月十六日		雨										



全 十二日	全 十一日	全 十日	全 九日	九月 八日	八月 二十日	全 十九日	全 十八日	全 十七日	全 十六日	全 十五日	全 十四日	八月 十三日	七月 廿五日
					午後 一時								午後 一時
全	全	全	全	曇	全	全	全	全	晴	曇	雨	全	全
					北								西北
					軟								和
					二八								三五
					三〇								三〇
					一、〇一八								一、〇一五

全 廿一日	全 二十日	全 十九日	全 十八日	全 十七日	全 十六日	七月 十五日	全 廿三日	全 廿二日	全 廿一日	全 二十日	全 十九日	全 十八日	全 十七日
							午後 一時						
晴	曇	晴	全	雨	全	晴	雨	全	雨	全	曇	晴	曇
							西						
							軟						
							二八						
							二五						
							一、〇二〇						



全十三日									
全十四日	午後一時	雨							
九月十五日	午後一時	曇	北						
十月十一日		雨		和		二〇		二〇	一〇一三
全十二日		曇							
全十三日		晴							
全十四日		全							
全十五日		全							
全十六日		曇							
全十七日		晴							
十月十八日	午後一時	曇	北	軟		一七		一七	一、〇一五

有明海區試驗

一 試驗地

試驗地ハ熊本縣玉名郡橫島村唐人川口ニアリ

一 試驗地土質及濬ノ巨離

土質ハ軟泥ニシテ深サ二尺五寸濬ハ試驗地ヲ去ル六尺餘ノ處ニアリ巾十間餘干潮時ノ水深貳尺餘アリ

一 潮干満ノ差及潮流ノ方向

干満ノ差ハ壹丈二尺餘ニシテ潮流常ニ北ヨリ南ニ南ヨリ北ニ干満ス

一 夏期及冬期ニ於ケル卓越風向

夏期ハ南又南西風ニシテ冬期ハ概テ北西風ナリ

一 養蛎シタル事ノ有無

明治三十七年以降本縣水産試驗場養蛎試驗ヲ施行セリ

一 附着器及設置期日

附着器ハ長三尺切ノ枝付竹篋ニシテ建設期日ハ四月ヨリ十月ニ至ル各月大潮時ニ建設セリ

一 附着器建設法

篋ハ一株五本建トシ毎月五拾株宛一列ヲ貳拾五株トシ二列ヨリ成ル一行ヲ設ケ株間三尺列間六尺トシ尙九尺ヲ隔デ、他ノ行ヲ作ル一株ノ建設法ハ株ノ上部ヲ開カシメ根部二尺ヲ地中ニ挿入ス  
一 篋ノ大サ地上ニ露出スル枝節數



建設順	建設月日	幹最大	幹最小	平均	節數	枝數
第一回建	四月二十四日	五寸	一寸五分	三寸二分	三五〇	三〇〇
第二回建	五月二十二日	五寸	一寸五分	三寸二分	四〇〇	二五〇
第三回建	六月二十二日	六寸	一寸五分	三寸七分	五〇〇	一二〇
第四回建	七月二十二日	六寸	一寸六分	三寸八分	五〇〇	—
第五回建	八月二十日	六寸	一寸五分	三寸七分	三五〇	三〇〇
第六回建	九月二十一日	六寸	一寸五分	三寸七分	三五〇	二九〇
第七回建	十月十九日	五寸五分	一寸五分	三寸五分	三五〇	三〇〇

一簇ノ流失

第一回建	第二回建	第三回建	第四回建	第五回建
六月二十五日 三十一本				
二五〇	二一九	二五〇	二五〇	二五〇

第六回建	第七回建
十月十日 四十本	
二一〇	二五〇

新苗附着及成長表

建設月	調査月	大巾長	III	V	VI	VII	VIII	IX	X	XI

備考

簇ノ建設四五月ノモノ附着量少ナク且月ヲ經ルニ從ヒ數ヲ減少セルハ全期フセ附着量多



ク勢力又強ク蛭ヲシテ外部ニ露ハル、コトヲ得サラシムルト全時ニ全期ハ暑熱甚タシク着生ノ蛭苗熱死剝脱スルモノ多キニヨル

氣象日表

月日	觀測時	天候	風向	風力	氣温	水温	比重
四月十七日		晴					
全 十八日		雨					
全 十九日		晴					
全 二十日		全					
全 廿一日		雨					
全 廿二日		曇					
全 廿三日		晴					
全 廿四日	午前八時	全	西	軟	一七	一四	一、〇二三
五月十五日		雨					
全 十六日		曇					

全 十七日		晴					
全 十八日		全					
全 十九日		全					
全 二十日		曇					
全 廿一日		晴					
全 廿二日	午前八時	全	南	軟	一七	一八、五	一、〇二〇
六月十五日		雨					
全 十六日		全					
全 十七日		曇					
全 十八日		晴					
全 十九日		曇					
全 二十日		全					
全 廿一日		雨					
全 廿二日	午前十時	全	南西	疾	二四	二四、五	一、〇一〇



全 十八日	全 十七日	全 十六日	全 十五日	全 十四日	八月十三日	全 廿二日	全 廿一日	全 二十日	全 十九日	全 十八日	全 十七日	全 十六日	七月十五日
						午前九時							
全	全	晴	曇	雨	晴	全	晴	曇	晴	全	雨	全	晴
						南東							
						和							
						三〇五							
						三〇一、〇一一							

全 十九日	全 二十日	九月十四日	全 十五日	全 十六日	全 十七日	全 十八日	全 十九日	全 二十日	全 廿一日	十月十二日	全 十三日	全 十四日	全 十五日
	午前九時半								午前十一時				
全	全	曇	晴	曇	晴	全	雨	晴	曇	全	晴	全	全
									北				
									和				
	二七、五								二二				
	二八								二〇、五				
	一、〇一四								一、〇一〇				



全 十六日	全 十七日	全 十八日	全 十九日
曇	晴	曇	午前十時 晴
			北
			軟
			一七
			一八
			一〇二〇

海苔養殖連絡試験

本年度使用試験地ハ最良場最悪場共前年使用セシ場所ト全一ナルヲ以テ其説明ヲ畧シ以下養成ノ結果ヲ記述スベシ

第二養成結果

事項	年月日	本年年月日	前年年月日	摘	要
海苔建設時期	十月四日	十月四日	十月十二日	晴	
全種苗發生期	十一月一日	十一月一日	十一月十三日	曇	
全換移植期	—	—	十二月二十六日	—	
全初摘時期	一月九日	一月九日	一月十二日	曇	
全發生最盛期	一月二十五日	一月二十五日	一月二十五日	晴	
全終末期	二月二十五日	二月二十五日	三月二日	曇	

最良場	最悪場
全種苗發生期	全種苗發生期
十一月六日	十一月六日
全初摘時期	全初摘時期
一月四日	一月四日
全發生最盛期	全發生最盛期
一月十日	一月十日
全終末期	全終末期
一月三十日	二月二十日
全摘	全摘

築建設場此重及水温

月日	水温候	比重	月日	水温候	比重	月日	水温候	比重
十月一日	晴	一九、〇	十一月十一日	晴	一七、五	十二月十一日	曇	九、〇
十月二日	晴	一九、〇	十一月十二日	晴	一七、五	十二月十二日	曇	九、〇
十月三日	晴	一九、〇	十一月十三日	曇	一五、五	十二月十三日	曇	九、〇
十月四日	晴	一九、〇	十一月十四日	曇	一五、五	十二月十四日	曇	九、〇
十月五日	晴	一九、〇	十一月十五日	曇	一五、五	十二月十五日	曇	九、〇
十月六日	晴	一九、〇	十一月十六日	曇	一五、五	十二月十六日	曇	九、〇
十月七日	晴	一九、〇	十一月十七日	曇	一五、五	十二月十七日	曇	九、〇
十月八日	晴	一九、〇	十一月十八日	曇	一五、五	十二月十八日	曇	九、〇
十月九日	晴	一九、〇	十一月十九日	曇	一五、五	十二月十九日	曇	九、〇
十月十日	晴	一九、〇	十一月二十日	曇	一五、五	十二月二十日	曇	九、〇
十月十一日	晴	一九、〇	十一月二十一日	曇	一五、五	十二月二十一日	曇	九、〇
十月十二日	晴	一九、〇	十一月二十二日	曇	一五、五	十二月二十二日	曇	九、〇
十月十三日	晴	一九、〇	十一月二十三日	曇	一五、五	十二月二十三日	曇	九、〇
十月十四日	晴	一九、〇	十一月二十四日	曇	一五、五	十二月二十四日	曇	九、〇
十月十五日	晴	一九、〇	十一月二十五日	曇	一五、五	十二月二十五日	曇	九、〇
十月十六日	晴	一九、〇	十一月二十六日	曇	一五、五	十二月二十六日	曇	九、〇
十月十七日	晴	一九、〇	十一月二十七日	曇	一五、五	十二月二十七日	曇	九、〇
十月十八日	晴	一九、〇	十一月二十八日	曇	一五、五	十二月二十八日	曇	九、〇
十月十九日	晴	一九、〇	十一月二十九日	曇	一五、五	十二月二十九日	曇	九、〇
十月二十日	晴	一九、〇	十一月三十日	曇	一五、五	十二月三十日	曇	九、〇



最 惡 場						
十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	四月
一九二七日 一〇二八	一六三日 一〇一九	一三二日 一〇二〇	九六日 一〇三三	二二八日 一〇二二	七三日 一〇三三	一一二日 一〇三三
	一七〇日 一〇一〇	八五日 一〇三三	八十五日 一〇二二	二〇四日 一〇二〇	一四〇日 一〇二〇	一七八日 一〇二四
	一五〇日 一〇二〇	九〇日 一〇一九	一〇二五日 一〇三三	一〇〇日 一〇二〇	一〇〇日 一〇一九	一六〇日 一〇三三
	一五〇日 一〇二〇	九〇日 一〇二四			七〇日 一〇二八	

築建設場ニ注入スル河川ノ水温

池 菊				
十月	十一月	十二月	一月	二月
二七日 一七五	三日 一五〇	二日 二二〇	六日 八〇	八日 一〇〇
	十二日 一四〇	九日 七〇	十五日 七〇	十四日 一三五
	十六日 一四〇	十九日 八〇	二十四日 八〇	二十四日 九〇
	二十六日 一三〇	二十四日 八〇		

第三養成特別報告

海苔附着深淺ノ度  
最 良 場

川	
三月	四月
三日 五〇	二日 二〇
十一日 一三〇	九日 一五〇
二十日 九〇	二十日 一六〇
二十八日 七五	

最 惡 場

場所/事項	水 深	海苔附着面寸尺	海底ヨリ距離	摘	要
滑石地先	一丈	三尺五寸	五寸	波強ク干滿急ナリ	

海苔伸張遲速  
最 良 場

場所/事項	水 深	海苔附着面寸尺	海底ヨリ距離	摘	要
横島地先	一丈	三尺五寸	五寸	波強ク干滿稍々鈍ナリ	

場所/事項	本 年 度	前 年 度
滑石地先	伸張普通ニシテ十二月下旬ニ摘探シ得ルニ至リ一月下旬被害アリ二月中旬流失ス	前年々同様十二月下旬ニ摘探スルニ至リ二月上旬被害アリ



最 惡 場

場 所	事 項	本 年 度	前 年 度
横 島 地 先	伸張普通ニシテ十二月下旬ニ摘採シ得ル ニ至リ一月中旬被害アリ下旬流失ス		前年ハ伸張鈍ク一月上旬ニ摘採スルニ至 リ一月中旬被害アリ二月中旬流失ス

築建設ノ粗密ニヨル附着ノ状況及周圍ノ状況

築建設方法何レモ同様ニシテ之ガ比較ヲナスコト困難ナレドモ本年試験ノ成績ニヨレハ粗ナルハ伸張速ニシテ密ナルハ鈍キガ如シ

七、調査及講話

三角港ニ於ケル鮮魚集散状況調査

技手 黒田 藤五 郎

本縣天草島近傍一帯ノ海面ヨリ揚グル鮮魚介ハ殆ド全部三角港際崎ニ集合シ鐵道便ニヨリ熊本及其他各地方ニ輸送セラル今左ニ項ヲ分チテ其状況ノ梗概ヲ述ベシ

(一) 漁場ヨリ三角港ニ達スル迄ノ状況

漁獲物ガ漁場ヨリ三角ニ輸送スル迄ノ状況ニ左ノ三様アリ

- (1) 漁船自ラ運ビ來ルモノ
- (2) 買船ニ依ルモノ

(3) 汽船ニ依ルモノ

- (1) 三角近在ノ漁夫ガ自己ノ漁獲物ヲ他ノ手ヲ籍ラズシテ直ニ運ビ來ルモノナリ
  - (2) 専ラ鮮魚ノ運搬ニ従事スル舢舨船ニシテ到ル所ノ漁村此買船魚商(方言ふるんだてト唱フ)ナルモノアリ漁夫ヨリ其漁獲物ヲ買集メ三角ニ運ビ來ルモノナリ
  - (3) 買船ノ大サハ大抵長サ六尋半巾四尺五寸深サ三尺五六寸ニシテ三千斤位ノ積載力アリ乗組二人ニテ押送シ牛深近傍ヨリ普通約二十時間ニシテ三角ニ達スト云フ
- 買船魚商ガ各漁業地ニ於ケル買收魚價ハ前日三角ニ於ケル相場(三角ノ相場ハ毎日電報等ニテ熊本ヨリ通信アルガ故即チ熊本ト全様)ニ照ラシ天候漁況其他諸種ノ事情ニヨリ魚價ノ昇降ヲ考察シ多少ノ加減ヲナスモノニシテ前日ノ相場ト甚ダシキ相違アル事ナク緩慢ナル昇降率ニ依リテ定ム而シテ之ガ爲往々ニシテ意外ノ利益ヲ得ルコトアリ例ヘバ鯛ノ相場前日拾貳圓ニシテ漸次昇騰ノ氣運ナルガ故ニ拾四圓ヲ以テ漁夫ヨリ買ヒ集メ三角ニ運ビ來ルニ三角ニ於ケル相場ハ他地方等ノ影響ヲ受ケ拾八九圓ニ暴騰シ居ル等ノコトアルハ亦敢テ珍ラシカラス然レ共之ヲ其半面ヨリ之ヲ考フレバ其降下ノ氣運ニ在ル時ニ際シテハ又時トシテ意外ノ損失ナキヲ保セサルナリ
- (3) 各地漁村ニ於ケル魚問屋ヨリ若クハ前記買船魚商ガ自己所有ノ買船ニテ積送スル外時宜ニ應ジテ沿岸汽船ニ托送スルモノナリ



荷造及運搬量

羽魚ヲ除クノ外ハ氷ヲ使用スルコトナク大抵生魚ニテ運搬スルガ故一隻分二十貫内外ヲ限度トシ冬季ハ多量ニ積ムモ腐敗スル等ノ憂ナクレバ死魚一隻分四五貫乃至百四五貫ヲ積送シ得  
汽船積ノモノハ凡テ死魚ニシテ長サ三尺深サ一尺二三寸巾約二尺ノ竹籠(めこト稱ス)二十貫乃至十三四貫宛ヲ盛リテ之レニわんべらヲ掩ヒ細ニテ縛シ魚ノ溢出セザル様シタルノミ  
以上種々ノ方法ニヨリ盛漁期ニ千五百貫位ノ魚介三角ニ輻湊スルコト往々ナリ

(二) 魚問屋及仲買人

斯クテ買船魚商ハ豫テ取組ミアル魚問屋ニ是等鮮魚介ヲ持込ムヤ魚問屋ハ仲買人トノ中間ニ立チテ魚價相場ノ按定ヲ計リ仲買ヲシテ魚ヲ買ハシメ代價ヲ立テ替ヘ口錢ト稱シテ賣手ヨリ五分仲買人ヨリ五厘ノ手数料ヲ徴收ス而シテ仲買人ハ更ニ一籠ニ付貳拾六錢(荷造費運賃共)ノ割合ニテ輸送方ヲ魚問屋ニ托ス

(三) 荷造及鉄道輸送

鉄道輸送ニ際シテノ荷造ハ京阪地方等ニ向フモノノミ特ニ木函ヲ用ヒ通常小荷物扱トスルコト有レモ九州線各驛ニ至ル物ハ凡テ前述ノ竹籠ニ盛リタルヲ其儘ニ通常貨物(斤扱)トシテ貨車ニ積ミ込ムモノニシテ貨車ニ於テモ鮮魚運搬上特ニ設ケタル裝置等ナシ發送后其貨物ニ對スル凡テノ責任ハ仲買人ノ

負フベキモノニシテ輸送中事變ニ遭遇シ或ハ魚價暴落スル等ノ事アル時ハ仲買ノ損失タル事ハ勿論ナレドモ仲買人ナル者ハ元來自ラ金錢ヲ所有セズシテ單ニ口頭ヲ以テ買入レ代價ハ問屋ヲシテ立テ替ヘシメ貨物ノ先方ニ着シ先方ヨリ仕切書到着ヲ待チテ之ヲ支拂フガ如キモノナルガ故ニ如上ノ損害アルヤ恐慌ハ直ニ魚問屋ノ頭上ニ投下スルコト必セリトス  
荷造ニ用ユル竹籠ハ一個ノ代價約貳拾錢ニシテ魚問屋カ仲買ヨリ徴收スル運送料ハ籠代荷造費及手数料等ヲ合シテ貳拾六錢ナルハ一見利ヲ見ザルガ如キ觀アレドモ是等籠ニハ各問屋ノ屋號或ハ印標ヲ附シアリ到着地ヨリハ返送シ來ルベキモノニシテ勿論其内幾分ノ損失アルハ免レザルモ假令バ其半數ヲ損失スルト見做スモ一籠ノ鉄道運賃熊本マデ僅ニ八錢八厘ナルニ對シ寧ロ暴利ノ感ナキヲ得ス  
三角ニ於テ問屋七仲買十人アリ尙時トシテ臨時ニ他方ヨリ來ル仲買人アリト云フ

(四) 直接輸送

買船魚商或ハ漁夫ハ仲買人トノ間ニ魚ノ價格ニ軒輊ヲ生ジ賣買調ハザル事アリ、斯カル場合ニ於テハ買船魚商又ハ漁夫ハ直接發送方ヲ魚問屋ニ依頼シ魚問屋ハ貳拾六錢ノ料金ヲ徴收シテ之ヲ承諾ス此場合ニ於テハ發送後ノ責任ハ魚商或ハ漁夫ニ存シ仕切書モ先着地ヨリ是等發送主ニ對シ直接來リ代價ハ之ヲ見テ始メテ知ルヲ得、故ニ漁夫等ハ大抵ノ場合仲買人ニ賣拂ヒ直ニ代價ヲ受取ルヲ便ナリトナスモノ、如シ



(五) 三角驛取扱鮮魚量月次表  
 昨年十一月ヨリ本年十月三日迄ノ輸送量左ノ如シ但シ本表ハ多少ノ鹽干魚ヲ含ムモ皆鮮魚トシテ記入  
 シタルモノニ因リ又小荷物扱ハ凡テ京阪地方ニ出スモノニ限ル

年 月	通常斤扱	小荷物扱	貨物扱
四十二年十一月	二二九、九六三 <sub>斤</sub>	二、七九三 <sub>斤</sub>	一四 <sub>斤</sub>
十二月	一六三、六三〇	七、九八〇	三五
一月	四二九、八六三	一三、九〇六	一三
二月	三一一、五四九	七、七七〇	五八
三月	五六七、三五四	二〇、七二三	三二
四月	六六二、八六〇	七〇、五七二	一八
五月	四三六、三八四		
六月	二二四、六三四		
七月	八一六、七八〇		
八月	二五五、〇八二		
九月	二四八、五一三		

十月 (三日迄) 一三、七八六

之レニヨリテ見ルニ最モ輸送量多キハ春季ニ在リ

(六) 仕 向 地

鮮魚仕向地ハ十一月ヨリ翌年三月頃マデノ嚴寒ノ候ニ際シ鯛、ゑび鱒、いか、等ノ京阪地ニ出スモノ多  
 少アレドモ大抵ハ九州各驛特ニ熊本市ニ到ルモノ多シ

(七) 鮮魚價格

主ナル魚ニ付三角ニ於ケル鮮魚價格ヲ表示スレバ次ノ如シ

魚 名	價 格 (十貫ニ付)			主ナル産地	備 考
	最 高	最 低	平 均		
鯛	一四、〇〇	八、〇〇	一四、〇〇	鬼池、島原冲	夏季高價
黒鯛	一四、〇〇	七、〇〇	一〇、五〇	大矢野附近	
羽魚	一八、〇〇	七、〇〇	三、五〇	牛深、樺島、串城等	
鱒	一二、〇〇	四、五〇	八、二五	冬春、富岡、牛深	
鱈	一四、〇〇	五、〇〇	九、五〇	大矢野附近	



羽 鱈	鳥 賊	鮑	鱈	せ し こ	小 鱈	大 鱈	鱈	鮭	蛸	鰯	鱈	鱈	鱈
九、〇〇	八、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇	五、〇〇	一〇、〇〇	一七、〇〇	三、五〇	一一、〇〇	五、〇〇	三、〇〇	一八、〇〇	七、〇〇	一一、〇〇
四、五〇	二、五〇	七、〇〇	八、〇〇	二、五〇	四、〇〇	六、〇〇	一、五〇	四、五〇	二、〇〇	〇、八〇	七、〇〇	三、〇〇	五、〇〇
六、六五	五、二五	一〇、五〇	一一、〇〇	三、七五	七、〇〇	一一、五〇	二、五〇	七、七五	三、五〇	一、九〇	一二、五〇	五、〇〇	八、〇〇
牛深、島樺	大矢野トバシリ	二江附近	全	大矢野附近	全	牛深、二江	全	大矢野附近	二江附近	牛深、晒本、樺島	二江、口津	牛深、樺島	島原、大矢野附近
				夏季甚ダ高價ヲ示ス	全	臈脂頭等ヲ去リタルモノ				故ナリ	冬季京阪地方ニ出シ高價ニシテ春夏ノ交ハ熊本近傍ニ供給シテ安シ		

以下集散ニ關スル諸表ヲ揚グベシ

鱈	鱈	あら	ス ワ ン	車 蝦	し せ あ び
九、〇〇	九、〇〇	一七、〇〇	一一、〇〇	二〇、〇〇	一一、〇〇
三、五〇	四、五〇	七、〇〇	六、〇〇	四、〇〇	四、〇〇
六、二五	六、七五	一一、〇〇	八、五〇	一一、〇〇	七、五〇
大矢野島	五月九月三角近傍后嵐口近傍	二江、富岡	嵐口、牛深、深海	大矢野附近	牛深、二江
					冬季京阪地方ニ出ズルモノ高價ニシテ十一月以降二〇圓トナル

(八) 重要集散鮮魚介

魚名	初 季		盛 季		終 季		見 積	積 額
	周 年	週 年	週 年	週 年	週 年	週 年		
鱈	十一月末	八月中旬	十一月	十一月	四月	四月	二五、五〇〇	二四、二二五
鱈	十一月末	八月中旬	十一月	十一月	四月	四月	二一、〇〇〇	一六、八〇〇
羽魚	八月中旬	八月中旬	十一月	十一月	正月末	正月末	二一、七五〇	二六、一〇〇
黑鯛	全	全	九	九	月	月	三六、五〇〇	三六、五〇〇
鯛	周	周	三	三	四	四	六〇、〇〇〇	八四、〇〇〇



種類	盛漁季中輸送見積數量	一日平均輸送量	備考
鱈	十一月 三四月	五	一八、七五〇
鰯	九月 三四月	五	一五、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	三三、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	六、六〇〇
鰯	九月 三四月	五	九、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	二二、五〇〇
鰯	九月 三四月	五	一五、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	七、八〇〇
鰯	九月 三四月	五	四、二〇〇
鰯	九月 三四月	五	二八五、五〇〇
鰯	九月 三四月	五	二五二、七二五

(九) 盛漁期中鐵道輸送鮮魚量

種類	盛漁季中輸送見積數量	一日平均輸送量	備考
鱈	十一月 三四月	五	一八、七五〇
鰯	九月 三四月	五	一五、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	三三、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	六、六〇〇
鰯	九月 三四月	五	九、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	二二、五〇〇
鰯	九月 三四月	五	一五、〇〇〇
鰯	九月 三四月	五	七、八〇〇
鰯	九月 三四月	五	四、二〇〇
鰯	九月 三四月	五	二八五、五〇〇
鰯	九月 三四月	五	二五二、七二五

本表ハ凡テ通常斤扱トシテ輸送セルモノニ就テ記スモノニシテ既ニ前ニモ述ベタルガ如ク當地ヨリ輸送セラル、魚類ハ雜種ニシテ特ニ多量ト稱スベキ程ノ種類ナク小荷物扱速達扱等ハ時宜ニ因リ行フコトアリト云フマデナリ噸扱ノ如キモノ一種ノ魚ノ甚ダシク大漁アリタル時之レニ依ル例ヘバ先年鱈ノ大漁アリタル時ノ如キモノニテ是等ハ豫メ期スルヲ得ザルナリ

長洲町鮫鱈網漁業調査

長洲近傍状況

長洲近傍陸地ハ一帯ニ平坦ニシテ稻田ニ適シ町ハ海岸ニ接シテ南北ニ延長ス南西約七海里ニシテ島原半島ノ突出スルアリ島原海灣ハ之ヨリ北西ニ向テ一大灣入ヲナス海面甚ダ靜謐ナリ

技手 黒田 藤五郎

鰯	一五、〇〇〇	一〇〇	十一月—三月五ヶ月以外五十貫
羽鰹	六、〇〇〇	一〇〇	三四兩月以外四五十貫
鱈	六、〇〇〇	一〇〇	三四兩月以外三十貫
鰯	一一、〇〇〇	二〇〇	三四兩月以外一〇〇貫
鰯	三、〇〇〇	五〇	八九二ヶ月以外ハ三十貫
烏賊	一八、〇〇〇	三〇〇	三四二ヶ月外一〇〇貫



海岸一帯一ノ岩礁モナク遠淺ニシテ底潮時ニハ約一海里ノ砂洲ヲ露出ス海岸ニ近ク之ニ平行シテ約一町余ノ防波堤ヲ築造シ荒天時漁船ノ避難ニ便ス下町一帯ノ海岸ハ緩ナル傾斜ヲ有スル砂濱ニシテ常時數百隻ノ鮫鱈網船是ニ引揚グラレ林立セル網乾竿頭高ク鮫鱈網ヲ乾シタル狀壯觀ナリ

長洲町ノ漁業

當町内漁業ニ従事スル戸數人員及船隻ハ明治四十二年度ニ於テ次ノ如シ

兼業	專業	戸數	
		數	人員
八八	三四二		
四三二	九二八		

漁船數二百六十四隻

右ノ内殆ンド全部ハ鮫鱈網漁業ニ従事スルモノニシテ他ニ大網(現在五組ニシテ十一月頃はたら漁ヲ目的トス)地曳網、このしろ流網、投網等アレドモ是等ハ實ニ微々タルモノナリ今四十二年年度漁獲調ヲ揚グレバ次ノ如シ

種別	數量	價	格(圓)
鱈	六五〇		二九三

貝類	其他	玉筋魚(イカナゴ)	鰻(グチ)	鱈(コノシロ)	鮭(イナ)	鯖(タチウオ)	鰹	鰯	鮪(カマス)	鱈	鮭	黒鯛	鯛
一、二〇〇	一三、〇〇〇	九五、〇〇〇	一一、五〇〇	一、六〇〇	一、五〇〇	一一、〇〇〇	二五〇	一一、三〇〇	六〇〇	一〇〇	五〇〇	一一〇	一一、四二〇
四八	六、〇七五	二、〇九五	五、七五〇	九六〇	九〇〇	七、八〇〇	三二五	二、〇七〇	一八〇	一〇〇	四〇〇	一一〇	



鳥	賊	二二、〇〇〇	八、八〇〇
鮪		六〇〇	三〇〇
鰕		二四、〇〇〇	八、四〇〇
鮓 (アミ)		一三八、〇〇〇	一六、五六〇
計		三三三、〇二〇	八二、四〇一

以上ニヨリテ見ルニ一雙一ケ年ノ收入約三百圓餘トナリ而シテ其主要ナルモノハ大抵鮓鮓網ニ依ラザルハナシ

漁場

(一) 季節ニ因ル漁場ノ移動及其漁獲物

島原海灣殆ンド全部何ノ邊ニモ本漁業ヲ行ヒ得ベシト雖モ季節目的トスル主要漁獲物網ノ種類等ニヨリ移動スルハ自然ノ事ナリ  
今次ニ一ケ年中ノ移動ト其漁獲物ヲ表示センニ

月次	漁場	主要漁獲物	備考
一月	長洲沖乃至島原深江近傍	かます	深江沖ニ至ルモノハ大抵三四十隻トス
二月	全	全	全

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
全	三角沖、島原三會沖	長洲沖	長洲沖及船津近傍	長洲沖	全	全	全	全	全
全	いか、白魚、あみ	白魚、あみ	あみ、たち魚	とべ(あみノ一種)	全	あび	全	はだら、とべ、あび	全
全	三月末頃三角沖ニ初マリ漸次北上ス此近傍たち魚ヲ主トス	長洲沖ノモノハあみヲ主トシ船津近傍たち魚ヲ主トス	長洲沖ノモノハあみヲ主トシ船津近傍たち魚ヲ主トス	之ヨリ暑中漸次漁獲減少ス					

(二) 濱岸ヨリノ距離

網ヲ布設スベキ個所ノ海岸ヨリノ距離種々ノ原因ニヨリテ異ナリ甚ダ接近セルコトアリ或ハ遠ク灘ノ中央ニ於テスルコトアレドモ普通平均

蝦鮓鮓網 五十間



振子鮫鯨網 百間  
 籠絡鮫鯨網 百五十間  
 フ隔ルモノ、如シ

(三) 深度及底質

海岸ヲ距ル遠近ニヨリ深度モ亦差アリ振子鮫鯨網ノ如キハ二尺ノ淺キニ於テモ尙之ヲ布設シ三十五尋位ノ深サニモ至ル籠絡鮫鯨網ハ普通四五十尋(此地方一尋ハ鯨四尺ナリ)マデトス而シテ是等漁場ノ底質ハ大抵砂泥混交セルモノナリ

(四) 流速

本漁業元ヨリ潮汐ノ進退ヲ利用シ海底ノ魚族ヲ流レ込マシムル装置ナレバ流速ノ大小、流レノ方向等ハ網布設ノ際考察セザルベカラザルハ勿論ナリ

漁季

此近傍平均二三哩ノ速力ニシテ島原半島ニ近キ方ニ於テハ稍急ナリト云フ  
 本業ハ周年之ヲ行フコトヲ得レドモ其漁獲ハ季節ニヨリテ豐薄アリ三月四月ノ鳥賊かますノ漁季ニ於テ最モ收益多シ而シテ晝夜ヲ間ハズ進退潮各一回操業スルモノナレバ一晝夜ニ四回之ヲ行ヒ得ベク各回ノ漁獲ハ大概相平均スレドモ夜間ハ晝間ニ優ルノ傾向アリ

漁具構成

(1) 鮫鯨網ノ種類

本網ハ之ヲ三種ニ分ツト雖モ其全体ノ構成ニ於テハ異ナル所ナク要ハ單ニ形ノ大小、網目ノ細大ニ依ルノミナリ今其名稱ト異ナル主點ヲ擧グレバ左ノ如シ

- a、振子鮫鯨網 振子織ヲ以テ構成シ海糖(アミ)ノ如キ微細ナルモノヲ用スルニ用フ
- b、蝦鮫鯨網 細目ノ網地ヲ以テ構成シ主トシテ蝦魚ニ用フ
- c、籠絡鮫鯨網 稍大ナル目ノ網地ヲ以テ大型ニ構成シ雜魚ヲ漁ス

(ロ) 網地

(1) 形状  
 本網ハ第一圖甲ニヨリテ見ル如ク方錐筒ニ圓錐筒ヲ續ギ合セタルガ如キ形状ヲナシ方錐筒ノ底面ニ相當スル所ハ網口即チ魚類ノ流レ込ムベキ所ニシテ圓錐筒ノ頂面ニ相當スル所ハ網ノ後端即チ魚取部トナル

(2) 大サ

網ノ種類ニヨリ多少ノ相違ハアレドモ普通籠絡鮫鯨網ニアリテハ網口ノ各椽各々十尋ニシテ前端ヨリ後端ニ至ル總長四十五尋位トス而シテ其内前部三十尋ハ方錐筒形ニシテ後部十五尋ハ圓錐筒形ヲ形成



ス(第一圖甲)

(3) 編成

第一圖乙ニ示ス、(イ、ロ)ノ如キ網地各二枚ヲ用ヒ(イ)ハ上下兩面ヲ形成セシメ(上ナルヲ上ふた下ナルヲ下ふたト云フ)(ロ)ハ兩側面ヲ形成ス而シテ三十尋ニ至リテ(ロ)即チはすわノ盡クルヤ上下ノモノ(イ)ヲ直接兩側ニテ縫合シ網端ニ至ルナリ

(4) 材 料

麻ヲ用ユルモノアレドモ近來ハ大抵皆綿糸ヲ用ユルニ至レリ

(5) 糸ノ太サ

全部ニ渡リテ一様ナラズ網口ニ近キ部分ハ三十號トシ之ヨリ漸次小ナルモノヲ用ヒ三十尋ノ所ニテ最小ニ達シ六號トシ再ビ次第ニ太キモノニ移リ魚取部ニ至ルヤ八號乃至十號ヲ用ユ斯クノ如クスルハ之レ前端部ニアリテハ網目モ稍小細トナリ力從テ強ク抵抗力モ大ナラザレバ糸ハ大ナルヲ要セズ然ルニ魚取部ハ魚獲物ノ重量ニ絶ヘザルベカラザルガ故ニ特ニ充分ノ力ヲ要スルガ故ニ糸モ大ナルヲ使用シタルナリ

(6) 目ノ太サ

目ノ太サハ前端ニ於テ著大ニシテ魚取部ニ至リ微細トナル即チ網口ヨリ十尋間ハ四節、次ノ一尋間ハ

四節半之ヨリ次第ニ縮小シ前端ヨリ三十尋ノ所ニテ十三節ヨリ十四節ニ移リ之ヨリ後端マテ十五尋間ニテ終ニ三十節ノ細目トナル

(7) 網目ノ種類

蛙又(方言下すぎ)本目(方言上すぎ)双方ヲ混用スルモノニシテ前方網目大ナル部分ハ悉ク蛙又編トシ二十節ニ移ルニ至リ俄ニ本目編ニ變更シ後端ニ至ルナリ之レ網目ノ細小ナル部分ヲ蛙又編トスル時ハ結節徒ニ大ニシテ水ノ漏出ニ不便ナレバナリ

(8) 掛 目 類

第二圖甲(即チ上下面ヲ構成スル網地)ノ掛目ハ前端三百目トシ三十尋其儘編キ下シ是ニ於テ圖ノ如ク左右ニ翼狀ニ各二十五目ヲ増加シはすわノ後端ニ編キ付クル様ニナシ之ヨリ後方六尋間ニテ二百目ヲ落シ百五十目トシ後端マデ其儘ニ編キ下スナリ

第二圖乙(はすわ)ハ前端二百五十目ナルヲ其後端ニ至ルマデニ二百目ヲ漸減シ五十目ニ終ル

(9) 邊緣ノ構成

網地ノ各周邊ハ網糸ヨリ稍細キ糸ヲ以テ輪編ヲ施シ上ふた下ふたノ前縁ハ第四圖甲ニ示ス如ク徑一分五厘位ノいちび網ニ本ヲ一尺五寸間ニ結束シタル椽網ノ一ニ網糸ト同大ノ糸ヲ以テ各結束間ニ約七目宛ノ割合ニ結び付ケ他ノ一本ノ椽網ニハ徑一分五厘ノいちび網ニテおんて竹乃至足間木ニ網ヲ取付ク



ルナリ(第三圖甲)

はすわノ椽網ハ徑二分ノモノト徑一分ノモノヲ一尺間ニ結束シタルモノニシテ網地ハ其大ナル方ニ前ト同様結ビ付クルナリ(第三圖乙)

(10) 尻すけ網ノ構成

尻すけ網ハ本網尾端ニ更ニ取附ケ本網ヨリ漏レ來ル微細動物ヲ悉ク受ケ染ムルニ供フルモノニシテ凡テ縋子織ヲ以テ編製シ全長普通七尋トス其構成法ハ圖ニ示スガ如ク前方ニ尋間ハ十反トシ其ヨリ中央ニ二反ヲ除クノ外斜ニ切り落シ後端一尋間ハ中央ノ二反(縋子織一反ノ巾ハ各一尺二寸位トス)トス斯ノ如キモノニ枚ヲ縫合シ袋ヲ作ルナリ縫合線ニハ徑五厘位ノ小綱ヲ縫ヒ込ミ之ヲ強固ナラシメ又其前段ハ長サ四寸位ノつばトシ本網ニ取附クルニ便ス

染 網

(1) 材料及分量

專ラ柿澁ヲ用ヒテ染ムルモノニテ柿澁ハ昨今ノ採澁期ニ漁家各自多量ニ搾取シ大瓶ニ貯藏シ置キ周年ノ使用ニ供ス昨今一升ノ代價七錢位ナリ染網一回ノ分量約二斗ヲ要ス

(2) 方法及回数

網地ヲ新調シタル場合ニハ染網前光ヅ一回白煮ヲ施シ(編網前網糸モ白煮ヲナス)乾カシテ後ニ回染ム

其後ハ一潮毎ニ必ズ一回染ムルヲ常トシ假令一回使用スルモ引續キ使用セザル場合ニ染メテ仕舞ヒ置クヲ法トス

附 屬 具

(1) 鮫 鯉 竹

網ノ上面前縁ニ附スル竹ニシテ第四圖甲ニ示スガ如ク周徑九寸位ノ竹ヲ二本其根部ヲ兩端トシテ結着シ總長十尋トス而シテ中央部ニ直徑一寸五分位ノ木材ヲ補添シタルモノアリ凡テ兩端ヨリ一尋半位ノ所ニテ各一個ノ滑車(シーブ)ノ直徑二寸ヲ附シ之レニ徑五分長サ折返シ一尋半位ノ綱ヲ通シ末端つばヲナス之ヲ肩釣なんばト云フ

(2) 足 間 木

網ノ下面前縁ニ附スル木材ニシテ第四圖乙ニ示スガ如ク最大部周徑七寸位ノ樫ヲ用ヒ普通三材ヲ結續シ總長十尋トス而シテ前全縁なんばヲ兩端ヨリ一尋半位ノ所ニ附シ又中央ニ「シーブ」ノ徑四分位ノ大滑車ヲ附シ徑八分位ノ索ヲ通ス(長サハ海深ノ二倍以上ヲ要ス)是ヲ足間釣なんばト稱ス

(3) さげ石

各九十斤位ノ重量ヲ有スル石ニ藁繩ヲ結ビタルモノ三四個ヲ備ヘ網ヲ設置スル際足間木ニ結附スルモノトス



(4) 索類

よつもの。いちび三撚徑七分長二十五尋重量一貫五百目ノモノ二本、兩端及ビ中央部ハ折リ曲ゲテつば  
トシつばノ部分ハ古網地又ハ振子織片ニテ卷キ尙兩端ヨリ三尋間ハ徑一分ノ緒網ニテせきタ  
ルモノニテ各一本宛、あんこ竹足間木ノ兩端ヨリ一尋位ノ所マデ其つばニ挿入ス

二本よつもの。いちび三撚長二十五尋重量二貫五百目ノ網一本ヲ折リ曲ゲ中央部ノつばニ結附ス  
主網。いちび三撚長二十五尋重量四貫目ノモノヲ一本トシ數本ヲ備ヘ漁場ノ深淺ニヨリ増減シテ使  
用ス前端二本よつものつばニ結ビ末端木碇ニ緊縛ス

繫船索。二本よつものト同大ノ網ニテ長サ數十尋ヲ備ヘ二本よつものノ中央ノつばニ結ビ船ノ泊ルニ用ユ  
提碇索。二本よつものト全大ノ網ニシテ木碇ノ滑車ヲ通シ兩端共ニ主網ニ結ビ揚碇ニ用ユ(以上第五圖)

(5) 木碇

凡テ樑材ヲ以テ製作シタルモノニシテ網ノ大小種類ニヨリ重量モ百斤乃至二百斤トス實査セルモノ、  
寸法第六圖ニ示スモノ、如シ

漁船

材料 杉

漁船ハ大小種々ナレドモ普通ノモノハ左ノ如シ

第一圖

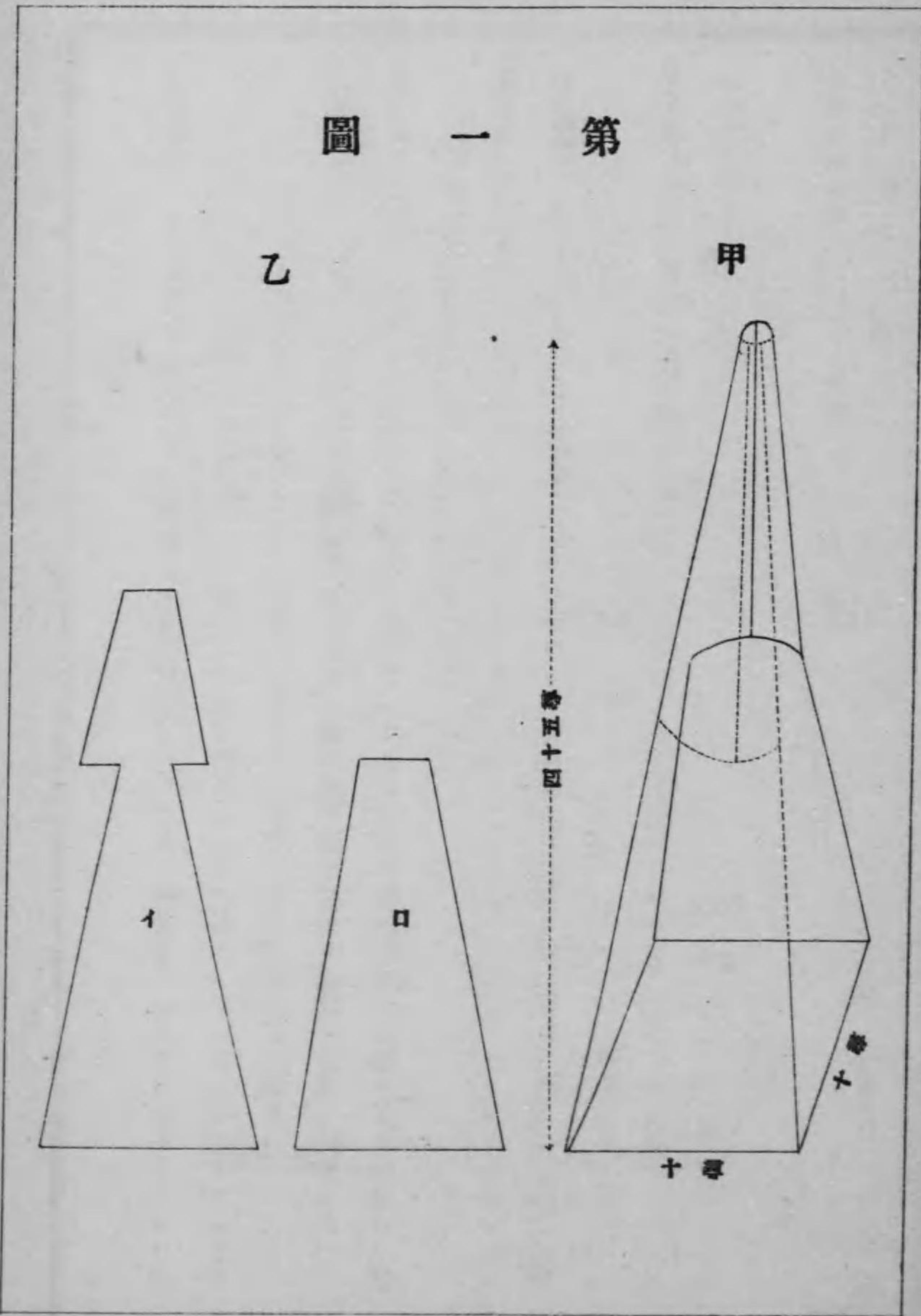
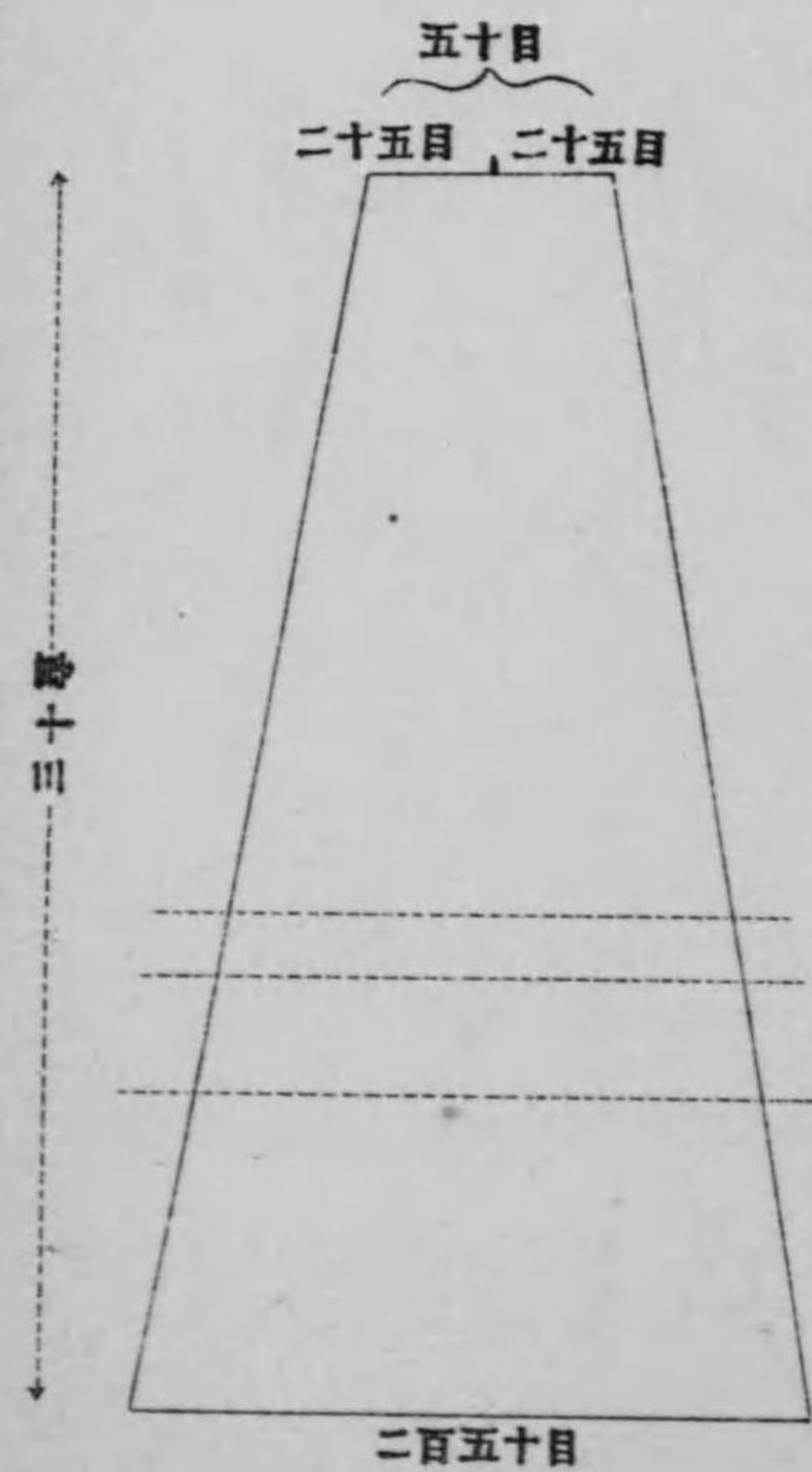


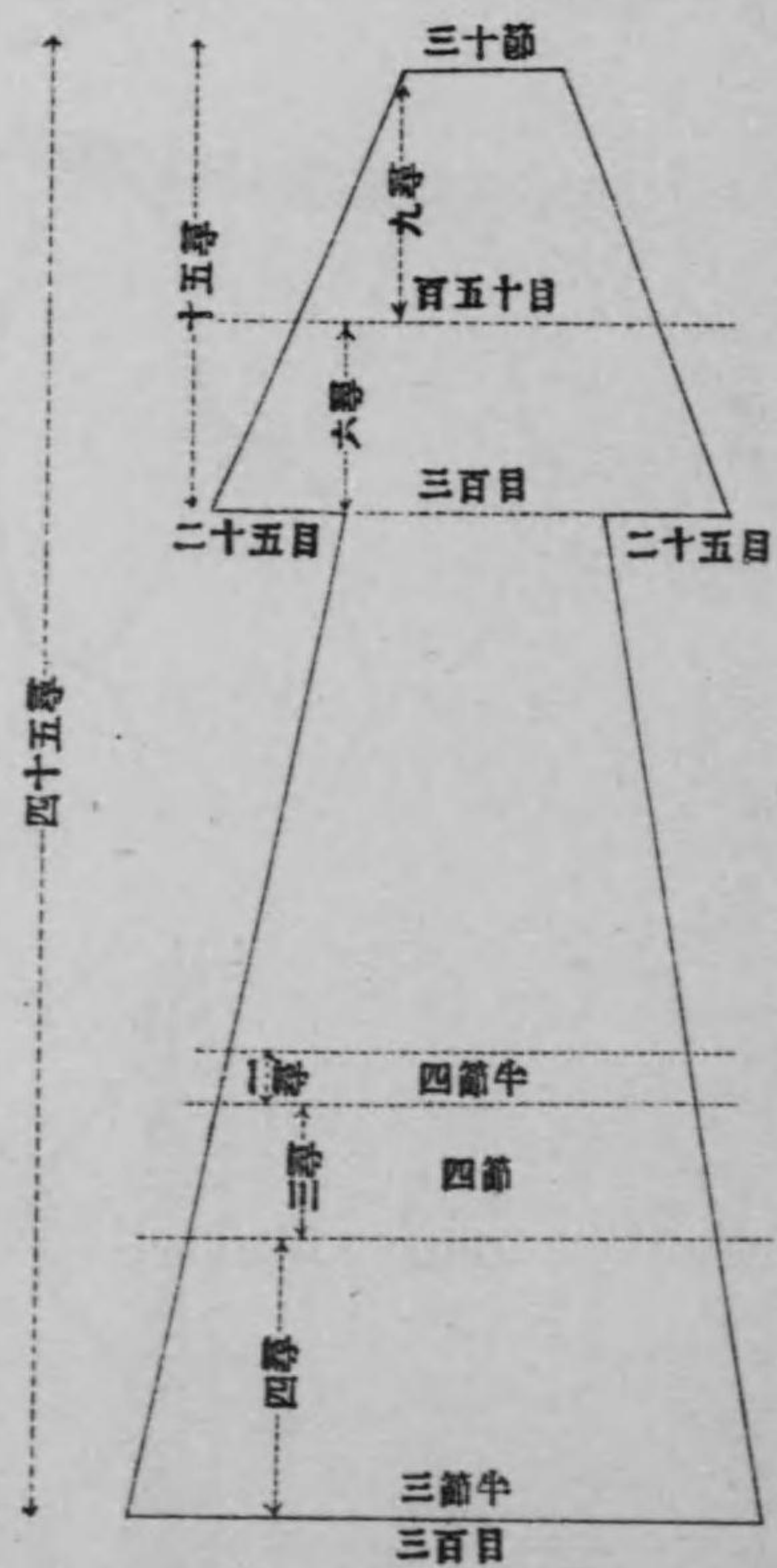


圖 二 第

乙

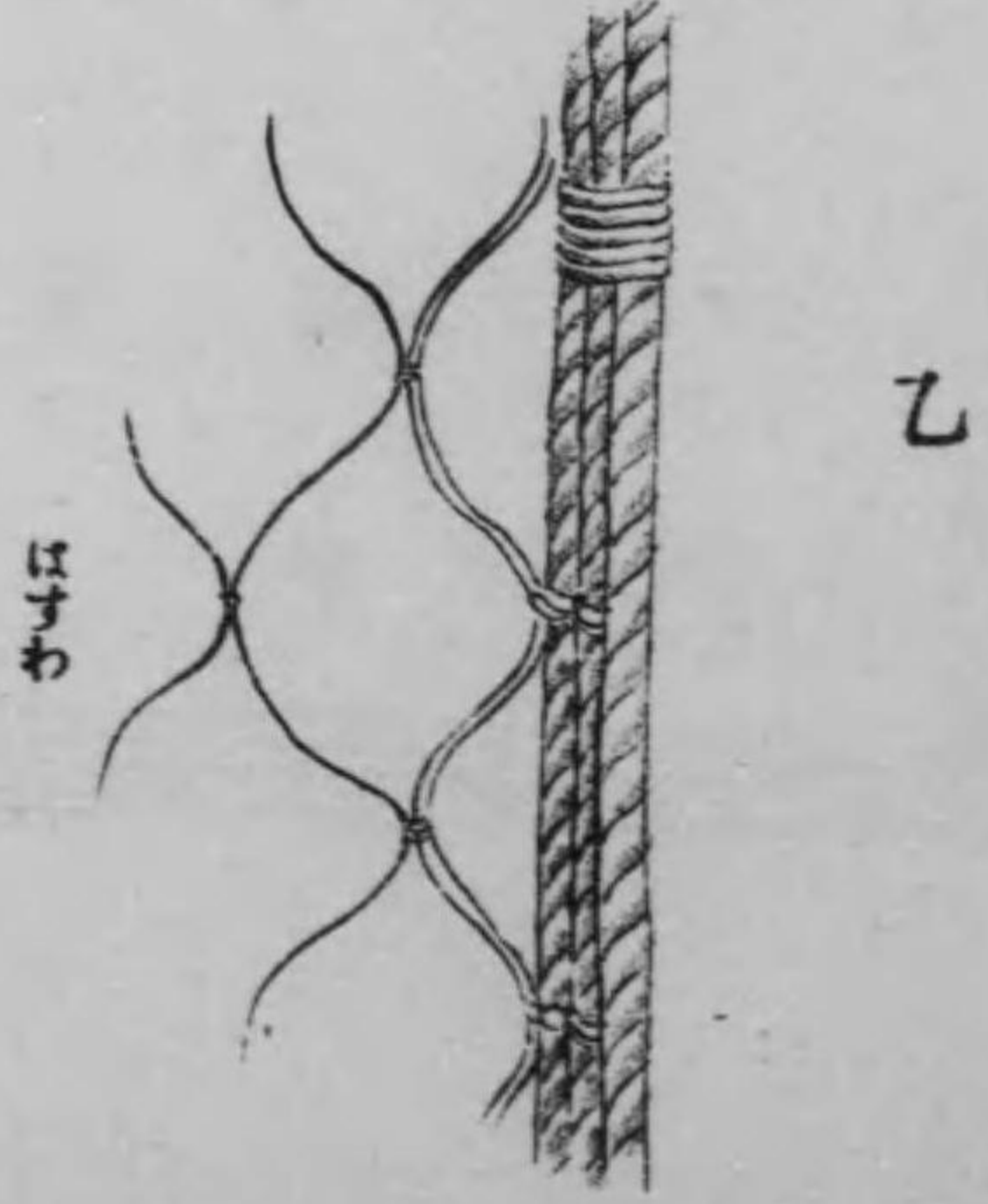
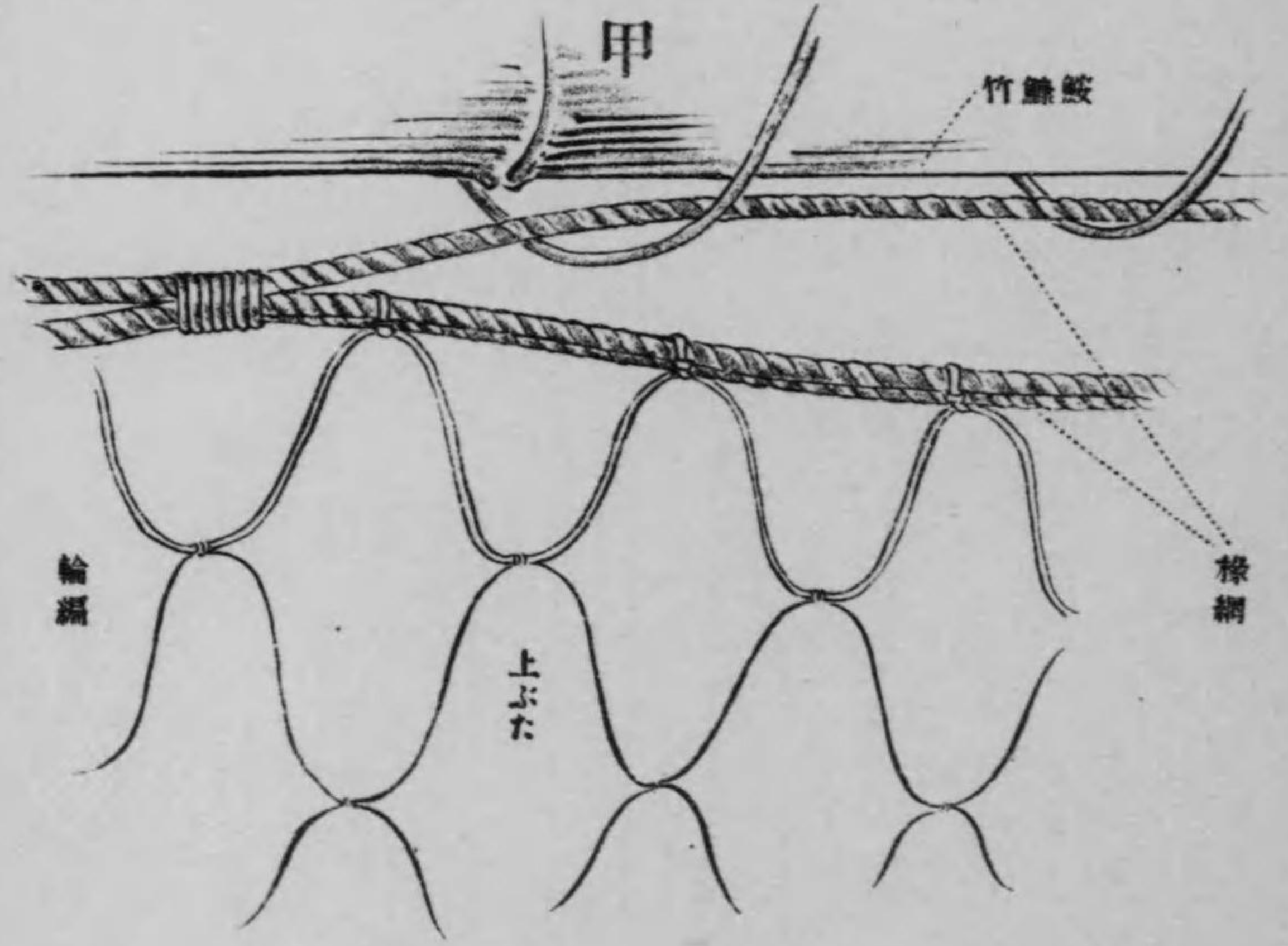


甲





第三圖  
甲





網けす尻

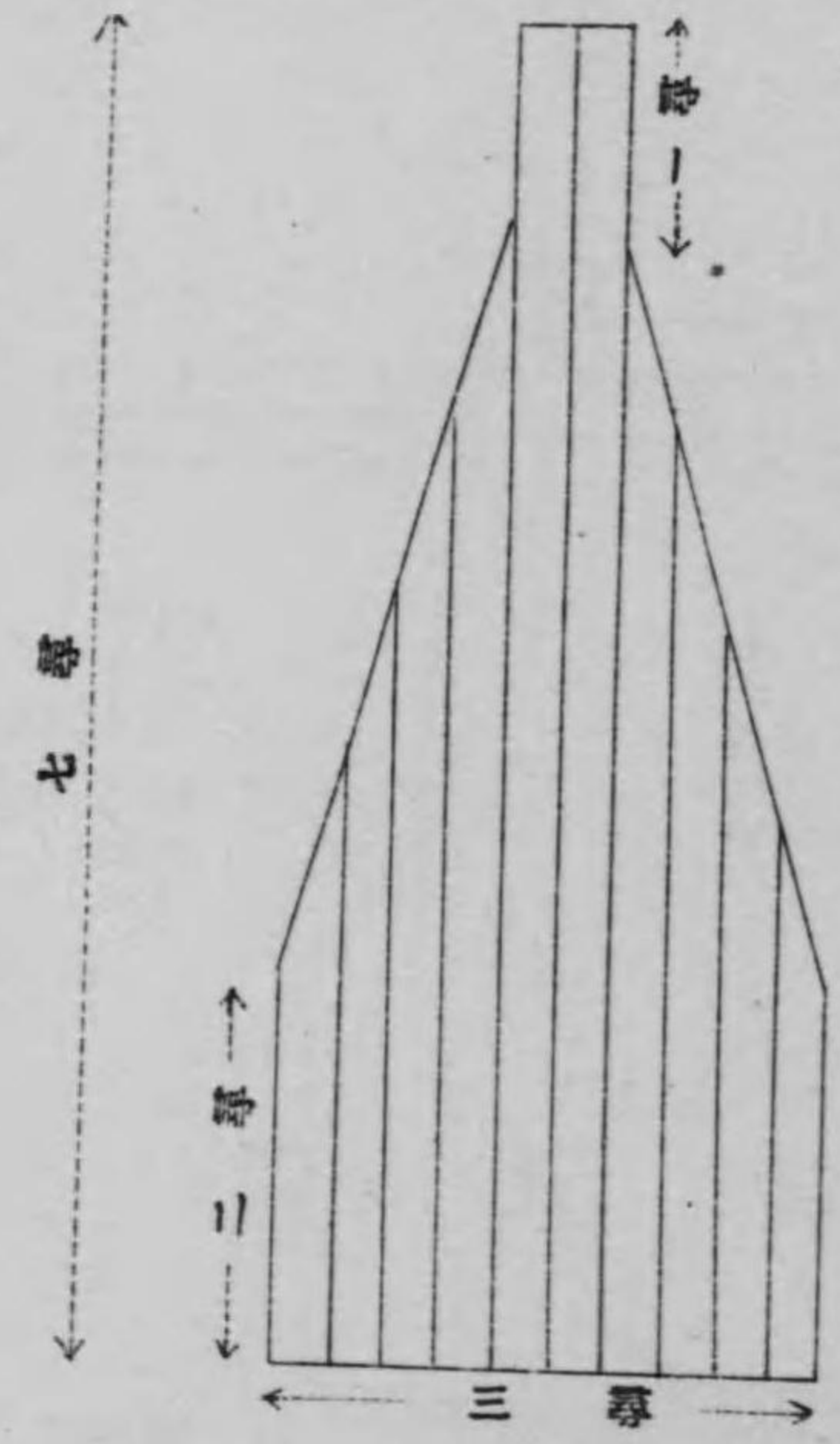
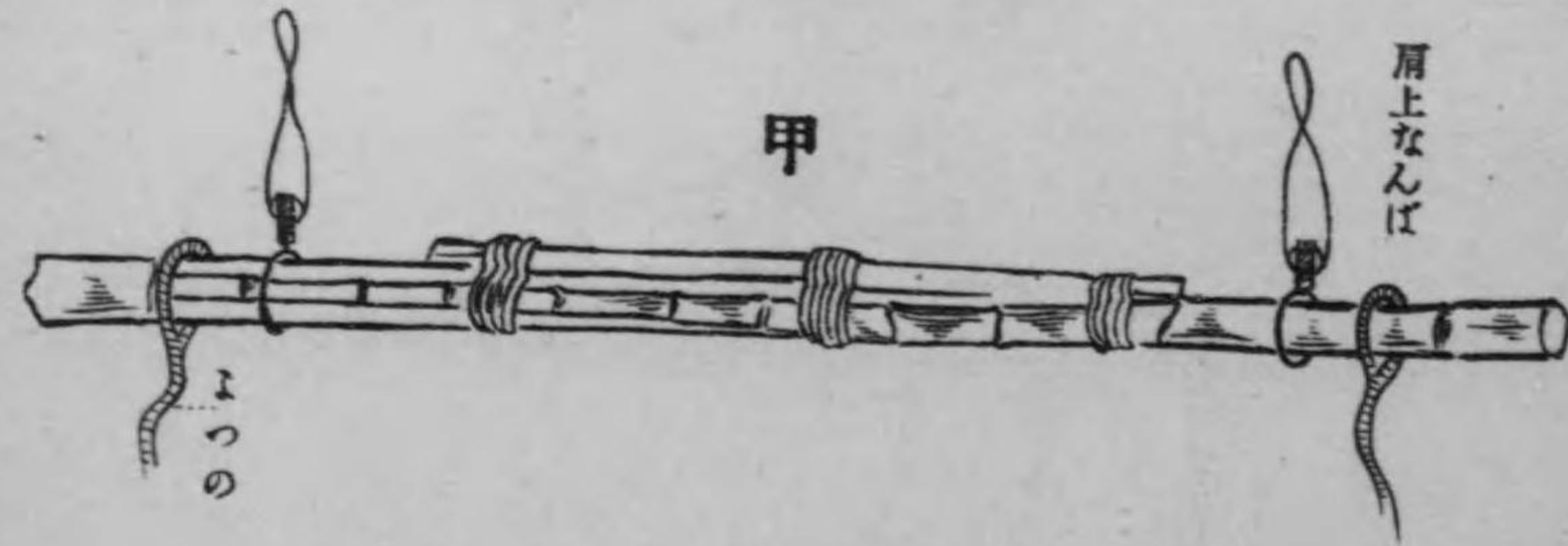


圖 四 第

甲



雨上なんば

1  
0



圖 四 第

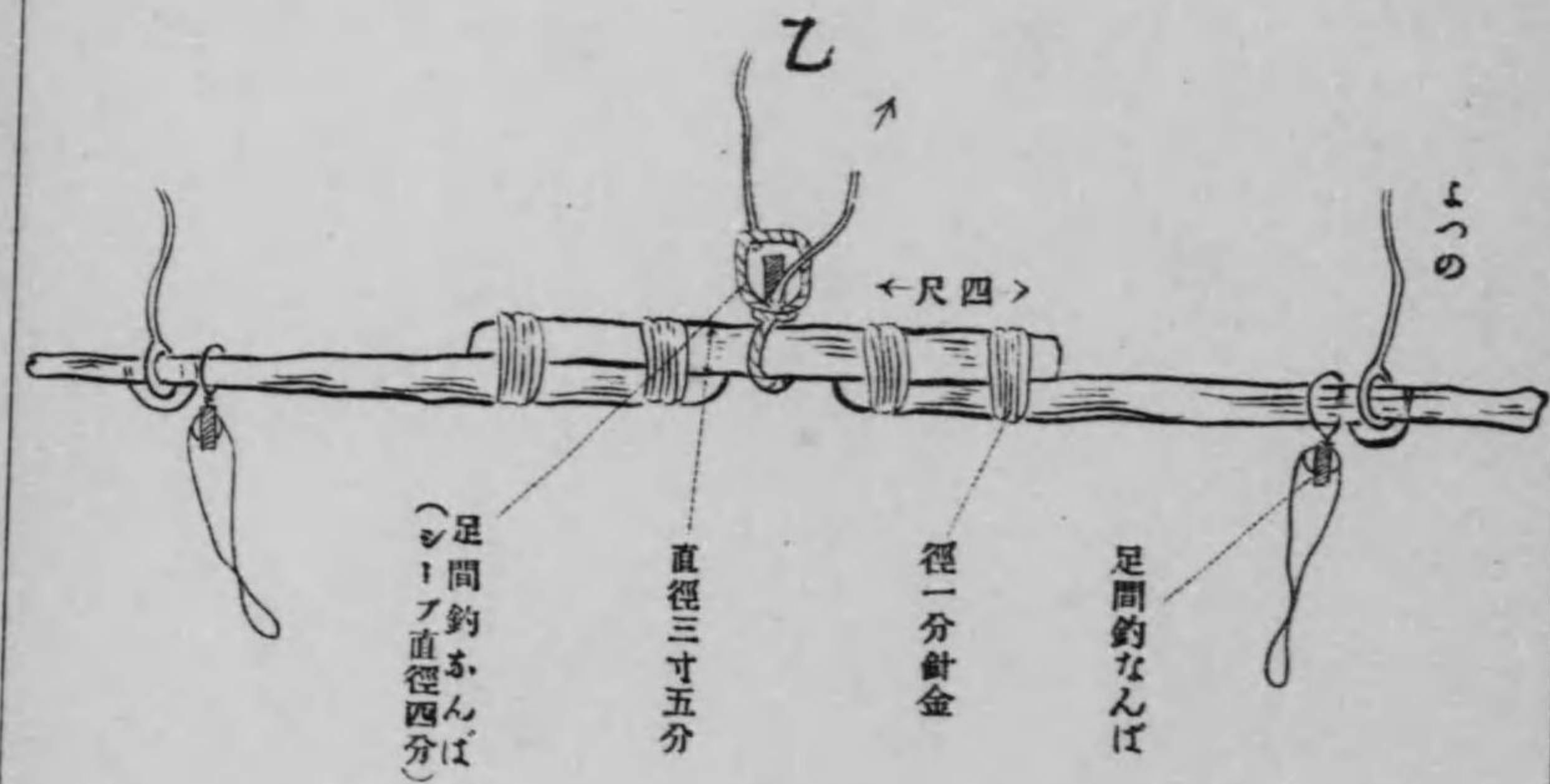


圖 五 第

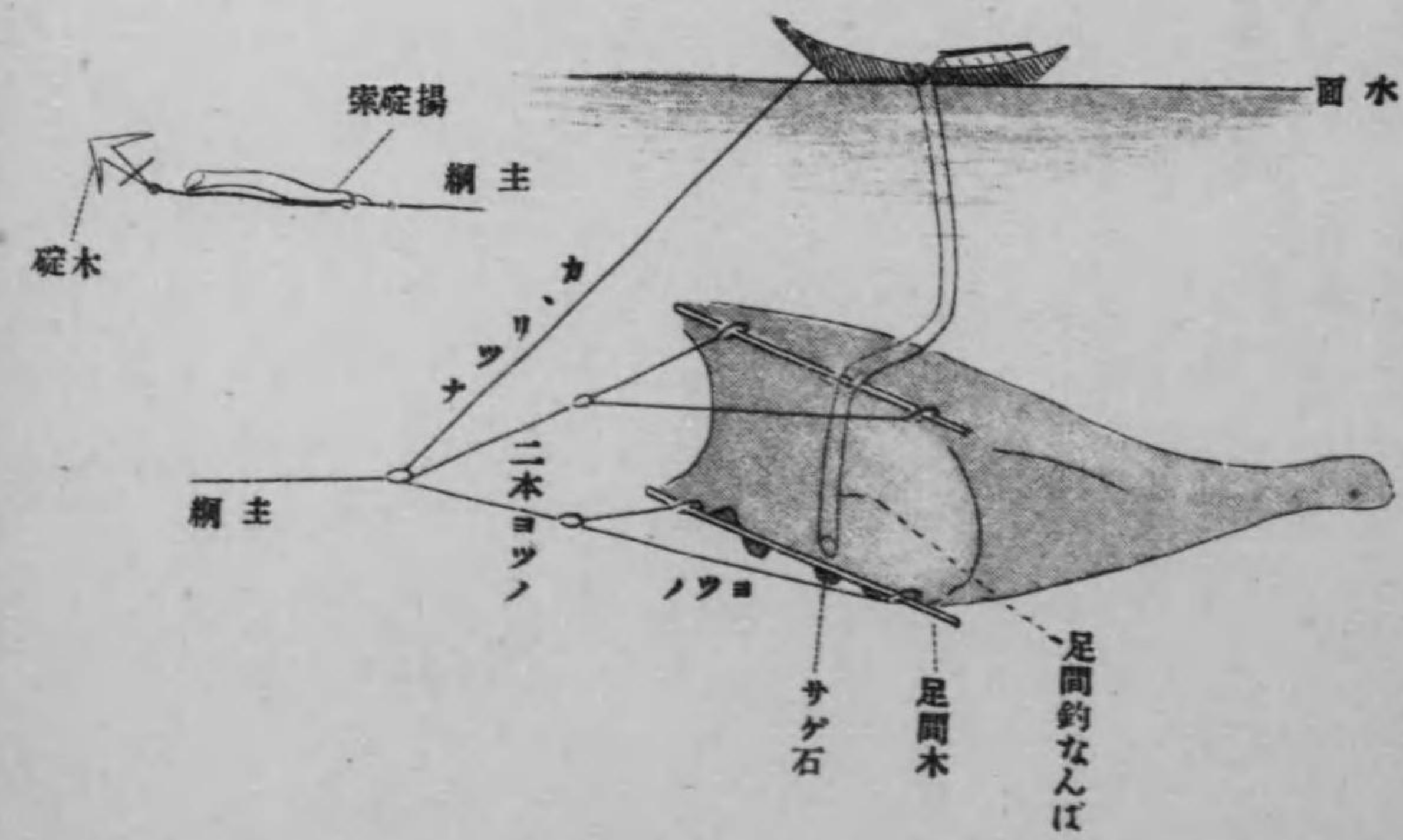
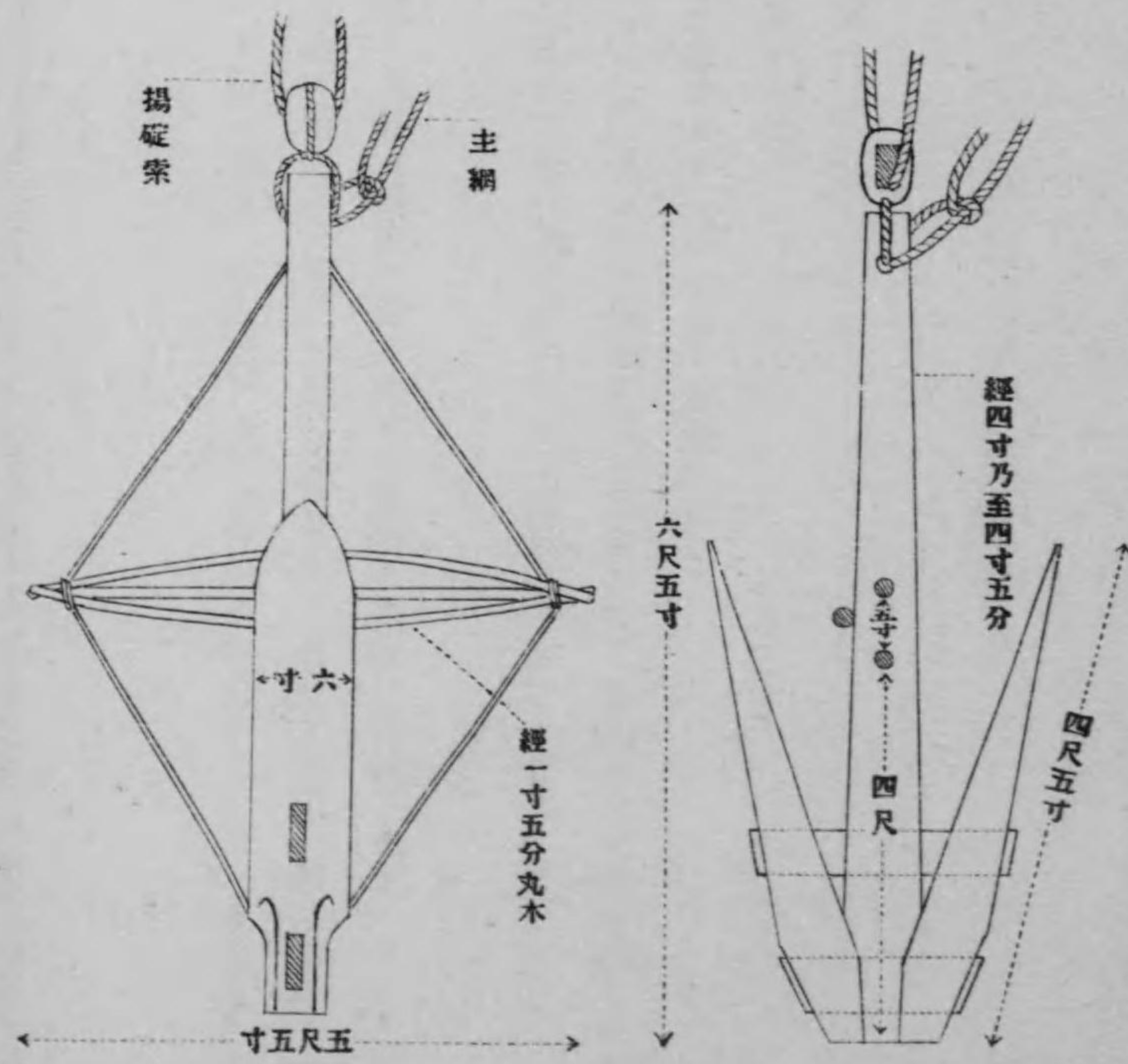




圖 六 第

乙

甲





長サ 六尋  
肩巾 六尺  
深サ 四尺  
艫數 三挺

乗組員 二人乃至三人

特種裝置トシテ顯著ナルモノ無ケレ共

- (一) 一般ニ艫部膨大シ艫尾ヲ強カラシムルガ如キ構造ヲ有シ  
(二) 船ノ後半部ハ「ラウンドアップ」甚ダシキ甲板ヲ張り稍廣キ室ヲ形成ス之レ此室内ニハ炊事場、炊事諸器具、日用器具等凡テヲ備ヘ置クモノニシテ重量特ニ大ナルガ故ナリ

出漁及漁場

潮汐ノ將ニ進退セントスル時機ヲ見計ヒ漁夫ハ種々ナル必要品ヲ積載シ出漁スルモノニシテ實査當時ノ漁場ハ長洲海岸ヨリ島原温泉岳ヲ指シテ一直線ニ五六海里ヲ出ヅ而シテ海深ハ籠絡鮫鯨ハ十一二尋ノ所トシ蝦鯨鯨ハ六七尋ノ所トス故ニ後者ニ在リテハ網ヲ布設シタル際あんこ竹ハ尙水面ニ露出シ居レリ

操業



前提。

- (一) 網ノ操作ハ必ず左舷ヨリス
- (二) 操業中船ハ潮流ト直角ノ位置ヲ保ツ
- (三) 潮流ニ向テ網口ヲ開クコト

(1) 布設法

漁場ニ達スレバ主網ニ木碇ヲ結び右舷船首ヨリ之ヲ投シ漸次主網ヲ延長シ次デ繫船索ヲ繰リ(二本よつ)のハ豫メ左舷ヨリ船底ヲ潜リテ右舷ニ取り主網ノ主端ニ結着セリ)出シ斯クシテ二本よつ及よつノ等稍緊張スルニ至リテ繫船索ヲ右舷側中央ニ止メ船ヲ潮流ト直角ノ位置ニ保チ置キ投網作業ニ移ルナリ

最初網尾ヲ結縛シ之レニ海深ヨリ稍長キ徑二分位ノ網ヲ有スル浮標(長サ五尺徑三寸位ノ竹)ヲ附シ之ヲ海中ニ投シ次デ網ヲ投ズ(尻すけ網ヲ附スモノアリテハ浮標ハ其尾端ニ結ブハ勿論ナリ)網悉ク投入シ終ルヤ船首尾ノなんばヲ外シ中央足間釣なんばノ網ヲ除クニ伸シテ網ヲ沈降セシム足間木海底ニ達スルヤ此ノ網ヲ左舷中央ニ取り繫船索ヲ船首ニ結ブ是ニテ布設ヲ終ル

(2) 布設時間

布設時間ハ二時間半乃至四時間ヲ常トシ此間漁夫ハ休憩スルモノニテ或ハ漁具索具ノ製作ニ従事スル

アリ而シテ流潮ノ將ニ渦マントスル以前ニ於テ揚網ニ着手ス

(3) 揚網法

漁夫ハ各腰蓑ヲ着シ繫船索ヲ右舷側中央ニ取り皆足間なんばノ網ニ着キ之ヲ引ク斯クスル時ハ網口ハ閉塞シ揚リ來ルガ故ニ魚類ノ逸出スルガ如キ憂ナシ鮫鱈竹足間木ノ水面ニ表ハレ來ルヤさげ石ヲトキ放シテ船内ニ取り入レ船首尾ノなんばヲ各々舳ノくわんぬき及じー等ニ懸ケテ引キ上ゲあんこ竹足間木ヲ船舷側ニ吊シはすわ前邊ヲモ引キ寄セテ船首尾ニ懸ク(はすわ前邊中央ニ葉網ヲ附シアリ引寄せニ便ス)之ヨリ網地ヲ洗ヒナガラ漸次船内ニ取り入ル而シテ尻すけ網ニ達スルヤ其紐ヲトキ放シテ本網ヲ引キ出シ網尾ノ縛網ヲ解キテ魚ヲ他ノ網地製ノ袋ニ少量宛分チ出シテ洗ヒ船内ノざるニ移ス斯クテ再ビ潮流ノ反對方向ニ移動シ始ムルヲ待チテ網ヲ下スモノアレドモ歸漕セントスル者ハ繫船索ヲ船首ニテ手繰リよつノ等ヲモ縮チ次デ主網ヲ繰リ込ミテ揚碇索ニ達スレバ一端ヲ船側ニ固定シ一端ヲ引キ木碇ヲ引キ揚ゲ直ニ歸漕スルナリ

漁獲及収益配當

漁獲物ノ種類多少ハ既ニ前ニ記シタルガ如ク季節及漁場ニヨリテ異ナレドモ之ヲ一年ニ平均スルニ一隻分約二百五十圓位ニシテ其配當法ハ船及漁具ヲ二人分ト見做シ乗組漁夫三人ヲ合セテ漁獲高ヲ五等分シ二分ヲ船主ノ收入トス今踏査當時一目ノ漁獲ヲ示セバ次ノ如シ



籠絡鮫鯨網

主網 小雜魚 四貫位

尻すけ網 微細ナル蝦(諸種ノ種雜魚ヲ含ム) 六七貫

蝦鮫鯨網

蝦(二寸位) 六貫目

歸着

歸着後直ニ漁獲物ノ陸揚ヲナシ網ヲ竹足間木等ヨリ外シテ海岸ニ設備シアル乾竿ニ吊シ上ケ乾燥ス

漁獲物價格及販路

雜魚類等ハ漁家各自ニ之ヲ乾製シ主トシテ縣内ノ需用ニ供スルモノナルガズビハ生ノマ、ニテ現今十貫目ニ付五圓ノ割合ニテ當地ノ魚商ニ賣渡シ魚商ハ之ヲ乾製シ長崎ニ積出シテ清國ニ輸出ス乾燥シタルモノハ昨今ノ小蝦ニ在リテハ生ノ六分一ノ重量ニ減シ長崎ニ於ケル相場ハ乾蝦十貫四十五圓乃至五十圓ナリト云フ

經濟

漁船新調費(漁船ノ項ニ述ブル寸法ノモノ)

一二〇〇〇

網糸代價

三〇〇〇

編網賃(自家編網ナレバ之ヲ省ク)

二五、〇〇

鮫鯨竹

二、〇〇

足間木

五、〇〇

なんば

二、〇〇

索類

二〇、〇〇

尻すけ網

一〇、〇〇

合計

二二四、〇〇

以上ノ外鹽藏用食鹽一ケ年平均二十圓ヲ要ス

網ハ周年使用スルガ故毎年新調スルヲ要スレドモ古網ト交互ニ使用スレバ甚ダ久シキニ堪ユト云フ

海外出稼

當地ヨリ海外ニ出稼スル者ハ朝鮮南岸及安東縣ノ二方面トシ韓國ニ出稼スルモノハ已ニ二十年前頃ヨリ主トシテ群山水浦ヲ根據トシ蝦漁ニ從事スルモノニシテ一昨年此地方ニ約六十隻出漁シタルガ一隻大抵三百圓位ノ漁利ヲ揚ケタリ越エテ昨年ハ三十三隻出稼シ各二百圓位ナリキ然ルニ同時ニ安東縣方面ニ出稼シタル二十八隻ハ各五百圓乃至七八百圓ノ好況ヲ呈シタルガ故本年ハ三隻群山水浦方面ニ向ヒタルモノ、外九十隻(内三隻ハ島原ヨリノ出漁者)ハ悉ク安東縣ニ出漁シタルニ不幸ニシテ甚ダ不成



績ニテ或者ハ歸國ノ旅費ニサエ窮スルノ悲境ニ陥リ已ムヲ得ズ漁船漁具ヲ賣拂ヒ其代ニテ辛フシテ歸國シタル者等アリ而シテ朝鮮南岸ニ出漁シタル三隻ハ却テ各々三百圓以上ノ利ヲ見タリ  
安東縣ノ出漁ハ四五年前ニ開始サレ毎年四五隻位ナリシニ昨年漸ク二十八隻ニ増加シ且ツ非常ノ好況ナリシ故本年順ニ同方面出稼者増加シタルニ際シ斯クノ如ク不結果ニテ漁夫ノ意氣ヲ消沈セシメタルハ大ニ嘆ズベキコトナリ

叔斯ク不成績ヲ來シタル原因如何ヲ講究スルニ恰モ安東縣ヨリ來合セ居タル某氏ノ談ニ依レバ同地方ハ周期的ニ漁獲アリ年ニヨリ豐凶交々來ルト云フ其言果シテ真ナルヤ又真ナリトスレバ其原因ノ那邊ニ存スルヤ未ダ之ヲ知ラズト雖トモ現ニ出漁セシ漁夫ノ言ヲ聞クモ本年ハ昨年ニ比シテ不漁ナリシ事ハ明ニシテ之レ第一ノ原因ナリト雖モ原因ハ尙之レノミナラズ即チ漁獲物賣却ノ經路ノ昨年ト異ナリタルモ亦其一因タラズンバアラズ從來漁夫ハ各自ノ漁獲物ヲ自由ニ清韓人ノ仲賣人、出買船等へモ賣却シ來リタルニ本年ニ至リテ大坂伊佐奈商會ハ東洋拓殖會社ト契約ヲナシ東拓會社ハ同漁場ガ自己權内ニ屬スル所以ヲ以テ漁獲物ノ買收販賣ヲ伊佐奈商會ノ專有ニ歸セシメ爲メニ魚價幾分低減ノ傾向ヲ來シ兩者相待テ本年ノ不成績ヲ生ゼシメタルモノト稱ス

鹽吹貝被害調査

披手 西山 伊 六

本貝ハ俗ニ姥貝ト稱シ玉名郡荒尾村有明村ノ地先ニ沙ル廣漠タル瀉面ニ其生産最モ濃密ニシテ農家ノ

子女之ヲ採取スルモノ年々三万圓ヲ超ユルモノアリシガ大牟田築港落成後ハ九十月ノ交ニ至リ漸次斃死ヲナシ年ト共ニ激甚トナレリ土人ハ萬田炭坑ノ排水ニ毒液ヲ含ミ築港ノ突堤遠ク二哩ノ沖ニ出テ潮水ノ疏通ヲ妨クルニ因由セリト唱フルヲ以テ本場ハ先ヅ該排水ニ對スル貝ノ抵抗力ノ各種試驗及突堤ト潮流ノ變化等ニ就キ調査セシニ炭坑排水ハ全ク之ガ死因ニアラズシテ却テ大牟田築港突堤ノ爲メ潮流ヲ遮斷シ沿岸ニ旋回シテ渦流ヲナシ而シテ此沿海ニ卵ノ發生スルモノ著シク増加シ蕃殖過多ノ結果ニ基クモノニアラザルヤト思考セリ試ミニ瀉面一尺平方ニ發生スル貝ヲ調査スルニ銀杏子大ノモノ平均二百五十個ヲ算ス之ヲ以テ見ルモ完全ニ其成育ヲ遂グル能ハザルヤ知ルベキナリ當初發生セル稚介ハ成長スルニ從ヒ漸次衰弱シ九十月氣候激變ノ交ニ當リ頓ニ斃死スルモノ、如シ尙來年度ニ於テ前記濃密ナル部ヲ間拔シテ他ニ移殖シ此發生移殖兩所ニ於ケル成育如何ヲ檢セントス

海洋觀測

從來天草郡牛深町ニ於テ海洋ノ觀測ヲナシ來リシガ今回水産局ニテ規定ヲ變更シ規模ヲ擴張シテ漁業基本調査ヲ完全ニ遂行スル計畫トナリシヲ以テ本場ハ四十三年度ヨリ全郡富岡町ニ移シ六月ヨリ觀測ヲ開始セリ未ダ短時日ノ觀測ナルヲ以テ此地先漁業トノ關係ニ就テハ知得スルコトナシ

甲種講話

前年度報告所載ノ如ク八代郡ノ計畫ニ係ル甲種講話會開催セシヲ以テ四十四年二月二十二日ヨリ六日



間本場員ヲ派シ全郡沿海各町村ヲ巡回セシメ朝鮮海出漁勸誘及養殖ニ關スル講話ヲナサシメタリ

明治四十三年度 熊本縣水産試驗場業務報告終



明治四十年度熊本縣水產試驗場業務報告

目次

一、支出豫算	一頁
經常部	一
二、收入豫算	三
經常部	三
三、職員ノ異動及擔當業務	三
四、試驗	三
漁撈部	四
第五回朝鮮海出漁指導試驗	四
一、指導試驗船第三不知火丸行動	四
二、朝鮮海本縣人出漁狀況	四
三、朝鮮西南沿岸漁業概況	四
四、本縣出漁鮫鯨網漁況	四
五、鯛漁況	四
六、鯛餌料調査	四
七、鱧漁業	四
八、鯛延網漁ヨリ鱧延網漁ニ改造使用試驗	四
九、出漁者救護事項	四
十、昌善島本縣根據地	四



<ul style="list-style-type: none"> <li>士、將來ノ希望</li> <li>第三不知火丸復舊工事</li> <li>製造部</li> <li>輸出向蝦蟇詰試験</li> <li>養殖部</li> <li>海苔養殖試験</li> <li>佐賀産牡蛎移殖試験</li> <li>鯛移殖試験</li> <li>ひのは孵化蕃殖試験</li> <li>養殖聯絡試験</li> <li>調査指導及講話</li> <li>鰯漁場調査</li> <li>沿海漁業状態調査</li> <li>鹽吹貝被害調査</li> <li>流網及びけんしゝ網業調査</li> <li>養鯉並ニ養蛎經濟調査</li> <li>海洋觀測</li> <li>鯉採卵孵化指導</li> <li>真珠介養殖指導</li> <li>八代郡内甲種講話</li> <li>葦北、天草郡内甲種講話</li> <li>以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>三四</li> <li>三四</li> <li>三五</li> <li>六四</li> </ul>
--	--

明治四十四年度熊本縣水産試驗場業務功程報告

一、支出豫算

經常部

一金九千六百八拾九圓四拾八錢

内 譯

金貳千六百五拾貳圓

内

金九百圓

金千參百九拾貳圓

金百四拾四圓

金貳百拾六圓

金千六百貳拾四圓四拾參錢

内

金四百六圓八拾壹錢

水産試驗場費

俸 給

場長兼技師給

技 手 給

助 手 給

書 記 給

雜 給

場長兼技師旅費



金八百八拾圓五拾五錢	技手旅費
金拾壹圓九拾六錢	助手旅費
金四圓五拾五錢	書記旅費
金百五拾六圓	小使給
金參拾六圓	監視人手當
金九拾五圓拾六錢	宿直辨當料
金壹圓	漁夫遺難扶助料
金貳拾參圓四拾錢	勉勵慰勞
金壹圓	死亡給與
金八圓	諸雇給
金五千參百九拾四圓五拾五錢	諸費
內	
金四拾六圓參拾錢	備品費
金百四拾四圓九拾五錢	消耗品費
金四千八百六拾七圓參拾七錢	試驗調查費

金九拾四圓七拾五錢	通信運搬費
金百六拾四圓七錢	圖書及印刷費
金貳拾貳圓貳拾錢	借地料
金五拾四圓九拾錢	雜費
一金拾八圓五拾錢	修繕費
一、收入豫算	
經常部	
一金百八拾參圓八錢	
三、職員ノ異動及擔當業務	
職員ハ技師兼場長一名技手三名書記一名助手一名外ニ海洋觀測手一名ニシテ五月八日場長技師和智熊 太休職トナリ六月十日海洋觀測手江上重逸退職ニ付全日赤崎二十二後任トシテ任命八月四日宮崎盛技 手ニ任命十一月十八日技手黒田藤五郎依願免職トナル	
拜命年月日	異動年月日
明治三十五年六月七日	全四十四年五月八日
	休職
	擔任科
	官職
	氏名
	場長 技師 和智 熊 太



明治四十四年十一月廿一日  
 全三十八年七月廿二日  
 全四十四年十一月十八日  
 全四十四年八月十五日  
 全四十四年八月四日  
 全四十四年七月十五日  
 全四十二年七月十七日  
 全三十四年六月十一日  
 全四十四年六月十三日  
 全四十四年六月十日

場 長 技師 久木田 寬 仁  
 養殖主任 技手 西山 伊 六  
 漁撈主任 技手 黒田 藤 五 郎  
 漁撈 技手 宮 崎 盛  
 主 會 計 務 書 記 山 口 慶 新  
 養殖支場 助 手 宮 崎 義 雄  
 八代鏡町 監視人 緒 方 千 万 人  
 養 殖 場 監 視 人 緒 方 千 万 人  
 全 赤 崎 二 十 二

四、試 驗

漁 撈 部

第五回朝鮮海出漁指導試験

前年度ニ引キ續キ本場新營ニ係ル所屬船第三不知火丸ヲ購シ朝鮮海出漁指導試験ニ付帶シテ本年度ハ天草郡長ヨリ二名ノ遠洋漁業練習生ヲ委嘱セラレタルヲ以テ之ヲ便乗セシメ五月十四日主任技手監督指導ノ許ニ縣地出發爾來九月十日ニ至ル前後約百二十日間專ラ本縣出漁者ノ聚集セル蘆台島ヲ中心ト

技手 黒田 藤 五 郎

シ東ハ釜山近海ヨリ西ハ嶺子島ニ至ル沿岸約二百哩ノ間ヲ巡歴シ以テ各地漁業實査ヲナセルノ外餌料產地ノ探検網延繩對鱧延繩ノ得失關係及之ガ轉業作爲ノ研究等ヲ爲シ以テ親シク本縣出漁者ノ便宜開發ニ任セリ尙試験期中ニ當リ恰モ昌善島ニ於ケル本縣根據地家屋建營スルニ至リシヲ以テ之ガ工事ヲ監督補佐スル所アリタリ今左ニ出張中其ノ採ルル行動ヲ錄シ尙項ヲ分チテ其ノ各地ニ於ケル漁況及之カ意見ヲ披陳スベシ

一、指導試験船第三不知火丸行動

月 日	發着地名	記 事
五月十四日	際崎發桃島着	此日午後二時十五分際崎出帆渡鮮ノ途ニ就ク夜ニ入り桃島假泊
全 十五日	全島發平戶着	午前七時五分拔錨風浪ノタメ平戶着
全 十六日	全地發釜山着	午前五時五十五分拔錨此日天氣快晴海上亦靜穩午後十二時無事釜山ニ入港南濱ニ投錨
全 十七日	碇 泊	練習生ヲ伴ヒ釜山水產會社魚市場及朝鮮海水產組合ニ至リ調査スル所アリ
全 十八日	碇 泊	午前中練習生ヲシテ長崎縣鯖流網漁船ニ就キ網ノ構成法及使用方法ヲ調査セシメ午後水產組合本部ヲ訪問ス
全 十九日	全地發巨濟島 長承浦着	入佐村長崎福岡兩縣移住根據地經營狀況ヲ調査シ本島附近ノ鯖漁業ニ付テハ特ニ精細調査ヲナス



全 十六日	全 十五日	全 十四日	全 十三日	全 十二日	全 十一日	全 十日	全 九日	全 八日	全 七日	全 六日	全 五日	全 四日	全 三日
碓 泊	碓 泊	木 着	全 着	全 着	於 着	竹 着	碓 泊	碓 泊	群 着	全 着	碓 泊	碓 泊	木 着
全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地

魚市場ヲ調査シ又水産組合ヲ訪ヒテ附近ノ漁況ヲ聞ク  
 石油及糧食ヲ補充ス  
 蠒島ノ北東部灣ニ假泊ス當地石首魚漁業ニツキ調査ス  
 群山ニテ朝鮮海水産組合仁川支部長前田氏及全羅北道手下村  
 氏來船ス  
 朝鮮海水産組合群山支部ヲ訪ヒ附近ノ漁業狀況ヲ質ス  
 群山ニ於ケル福岡長崎佐賀各縣根據地經營狀況ヲ視尙此地ニ於  
 ケル魚類ノ販路ニ就キ調査シ有望ナルヲ知ル  
 竹島ニテ鯛釣鮫鰈網流網漁業ヲ調査ス  
 於青島ノ主要漁業贛延繩網漁業調查ニツキ調査セリ  
 途中孤島鹿島煙島ニ立寄り漁況ヲ調査シ尙本縣宮田村漁船一隻  
 ヲ漁場マデ曳引ス  
 午前中群山ニアリテ鮮人ノ架木網ヲ調査シ又餌料產地ヲ調査ス  
 強風雨ノ爲メ碓泊ス  
 機關ノ解剖掃除ヲナス

全 二日	全 卅一日	全 卅十日	全 廿九日	全 廿八日	全 廿七日	全 廿六日	全 廿五日	全 廿四日	全 廿三日	全 廿二日	全 廿一日	五月 二十日
小 着	嚴 着	海 着	麗 着	碓 泊	碓 泊	三 着	欲 着	蘆 着	碓 泊	昌 着	馬 着	全 着
全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地	全 地

練習生ト共ニ水産組合馬山支部ニ到リ管内漁業ニツキ調査ヲナ  
 シ午後本縣人移住漁民團ヲ慰訪ス  
 統營ニテハ岡山島根山口高知四縣ノ根據地經營狀況ヲ調査ス此  
 日豫テヨリ待チ設ケタル本縣水産組合出漁者監督員南氏乘船ス  
 船ハ機關故障起リ総員其ノ掃除ニ從事シ夕ニ至リテ完成ス  
 本縣根據地豫定地ヲ踏査ス  
 午前中愛媛縣午後ヨリ大分縣根據地朝鮮海水産組合三千浦出張  
 所ヲ訪ヒ漁況ヲ聞ク  
 蘆台島ニ於ケル釜山水産會社出張所ヲ訪ヒ又本縣漁夫谷口某ノ  
 妻罹病セルニ會シ施藥ス  
 欲知島ニテ本縣崎津ノ漁夫鯖漁業ニテ失敗シ鰻漁業ニ着手セン  
 トスルニ會シ援助ヲ與フ  
 途中佐賀縣根據地ヲ訪ヒ鯖網漁及鯛延繩漁業ニ就キ調査ス  
 船具漁具ノ手入ヲナス  
 荒天ノタメ碓泊ス  
 途中河東(ハドン)ニテ本縣鰻漁業者ヲ慰訪シ且ツ其漁業狀況ヲ  
 調査ス  
 途中治島ニテ鰻漁業調査ヲナス  
 海倉澳ニテ蛸繁殖狀況ヲ視察ス  
 途中養浦ニ入り香川縣漁船ノ鰻延繩漁況ヲ調査シ尙本縣長洲鰻  
 延繩船ニ會ヒ示教スル所アリタリ



六月十七日	全	嶺子地	着發	鯷漁業鯷漁業及烏賊漁業ニ就キ調査ス 荒天ノタメ碇泊シ本縣牛深町中川善藏ニ會シ全人ノ營メル鯷及 烏賊漁業ノ狀況ヲ質ス
六月十八日	全	巨文島	着發	巨文島ニ於ケル鯷大刀及鯛延繩漁業ニ就キ調査ス
六月十九日	全	養浦島	着發	養浦ノ鯷漁業ハ過ル六月二日ハ盛況ナリシモ近時漸ク閑散トナル
六月二十日	全	麗水地	着發	麗水ニテ本縣津奈木村新立長次ナルモノニ會セシニ全人ハ突山 島ニテ漁船及漁具ヲ盜マレ困却ノ模様ナレバ本船モ其ノ搜索ヲ 援助センコトヲ約ス
六月廿一日	全	三千浦	着發	機關掃除ヲナシ又本縣人植原政五郎池田武八ノ水産組合加入手 續ノ世話ス
六月廿二日	全	碇泊	泊	鮫梁島沖ニ打瀬網試驗ヲナス結果長シカラズ
六月廿三日	全	碇泊	泊	練習生ヲ愛知縣水産試驗場付屬打瀬網船ニ便乗セシメ練習セシム
六月廿四日	全	碇泊	泊	網具乾燥手入ヲナシ又飲料水ヲ積ミ込ム
六月廿五日	全	碇泊	泊	布山ハ鯷漁業盛ニシテ本縣人藤木某此地ニアリテ蒲鉾ノ製造ニ 從事シ居レリ仍テ之ヲ視察ス
六月廿六日	全	碇泊	泊	石油ヲ補充ス
六月廿七日	全	碇泊	泊	統營ニテ香川縣打瀬網船ニ就キ詮議ス大体ニ於テ冬期ハ豐漁ナ ルモ夏期ハ不良ナリト
六月廿八日	全	碇泊	泊	
六月廿九日	全	碇泊	泊	

六月三十日	全	嶺子地	着發	佐賀縣根據地監督員ト共ニ島島ノ釜山水産株式會社出張所ヲ訪 問シ日鮮人ノ鯷漁業比較調査ヲナセシニ鮮人遙ニ優レムヲ知レリ
七月一日	全	三千浦	着發	國分技手ト光陽灣ニ同行ノ約アリシヲ以テ碇泊シ又餌料活船ヲ 製作シ愛媛縣根據地ヲ再調査ス
七月二日	全	碇泊	泊	本場ト打ち合セノ都合アリ碇泊
七月三日	全	碇泊	泊	光陽灣ニテ鮮人海苔養殖狀況ヲ調査ス又此附近餌料「ツナシ」 「ジャコ」ヲ産スルコト及建干網ノ好望ナルヲ認ム
七月四日	全	碇泊	泊	前渡金受領ノタメ泗川ニ至ル
七月五日	全	三千浦	着發	強風雨ノタメ碇泊
七月六日	全	碇泊	泊	全
七月七日	全	碇泊	泊	全
七月八日	全	碇泊	泊	全
七月九日	全	碇泊	泊	全
七月十日	全	碇泊	泊	全
七月十一日	全	碇泊	泊	全
七月十二日	全	碇泊	泊	全上、此日鹿兒島縣漁夫濱常太郎及本縣人菊本菊藏ノ漁船投錨 効ヲナサス當ニ海岸ニ打ち付ケラレントスルヲ救ヒ出セリ
七月十三日	全	碇泊	泊	暴風雨尙息マズ碇泊
七月十四日	全	碇泊	泊	全
七月十五日	全	碇泊	泊	全



全 廿八日	全 廿七日	全 廿六日	全 廿五日	全 廿四日	全 廿三日	全 廿二日	全 廿一日	全 二十日	全 十九日	全 十八日	全 十七日	七月十六日
碇泊	馬山地着發	全營地着發	着發	全地發大分村 ヲ經テ巨濟府	全地發大分村 着發	碇泊	全地發大分村 着發	全地發大分村 着發	碇泊	碇泊	全地發大分村 着發	全地發大分村 着發
望ナルコトヲ知得ス	水産組合支部ヲ訪ヒ 鎮海灣漁業ニツキ 調査シ大刀延繩漁業ノ有	統營ニテ石油ヲ補充ス	巨濟府ニテ郡廳ヲ訪ヒ 附近ノ漁業狀況ヲ調査ス	竹島西端ニテ試験シ餌料ハ鹽藏物ヲ用ヒ相當ノ成績ヲ揚ゲタリ	鯛繩ヲ體繩ニ改造シ之ガ試験ヲナス漁船ニ肩五尺ノモノヲ借り 入ル	練習生ノ歸港ヲ待ツ	練習生ニ名ヲ同地早川組體繩船ニ乗組マシメ實習セシム	練習生ノ歸港ヲ待ツ	蛇梁島ニ於ケル體繩業ニ就キ鯛延繩ヨリ轉業ノ難易ヲ研究ス	全地發大分村 着發	全地發大分村 着發	餌料產地調査ノタメ出發ノ途中飛鳥露梁津ニ「シャコ」泗川郡ノ 沿岸ニ「タコ」海倉澳知定里ニ「蛤」ヲ産スルヲ知ル

全 十五日	全 十四日	全 十三日	全 十二日	全 十一日	全 十日	全 九日	全 八日	全 七日	全 六日	全 五日	全 四日	全 三日	全 二日	八月一日	全 卅一日	全 三十日	全 廿九日	
碇泊	碇泊	昌善島着發	全地發大分村 着發	三千浦ニ向フ 着發	三千浦ニ向フ 着發	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊	碇泊
建築事務ノ手傳及墓地購入ニ付鮮人トノ間ニ交渉ヲ重ヌ	瓦石材等船底ノ荷モ皆揚ゲ終ル	寶悅丸ヲ根據地ニ曳キ建築材料陸揚ヲ始ム	寶悅丸モ此日入港ス	本船水夫一名ヲシテ寶悅丸ノ水先案内タラシメ茲ニ出帆ス	寶悅丸來着稅關手續ヲ果ス	宮崎技手來着乗船ス	全	全	全	新任宮崎技手ト本縣根據地材料積載船寶悅丸ノ來ルヲ待ツ	機關修繕及船用品購入ヲナス	練習生歸縣ノ途ニ就ク	大雨ノタメ碇泊ス	此日練習生及島根縣水産講習所生徒一同ト林技師ノ講話ヲ聞ク	練習生ニ講話ヲ受ケシメン爲メ林技師ヲ待チシモ遂ニ會セズ	佐伯根據地建築請負師ガ建築材料ヲ運搬スルニ會シ打チ合セラ ナス	南監督員馬山ニテ下船ス	



八月十六日	三千浦往復	建築事務ノ手傳及墓地購入ニ付鮮人トノ間ニ交渉ヲ重ス
全 十七日	三千浦往復	全
全 十八日	三千浦碇泊	愛媛縣事務官補來船ス
全 十九日	全地 蘆台島 着	宮崎技手乗組ニ付漁場視察ノタメ出發ス
全 二十日	全島 蘆台島 着	蘆台島本縣網漁業者ハ目下ノ不漁ニ困シ居ルヲ勵マス
全 廿一日	全島發養浦ヲ 經積金島着	養浦ニテ鱧漁業ヲ調査シ積金島ニテ赤魚漁業ヲ調査ス
全 廿二日	全地發沿島ヲ 經麗水着	沿島ニテ鱧漁業ヲ調査ス
全 廿三日	全地 三千浦 着	途中格浦角ニテ本縣人蝦製造場ヲ視察ス
全 廿四日	全地 昌善島 着	根據地工事監督補佐
全 廿五日	碇泊	全
全 廿六日	碇泊	全
全 廿七日	碇泊	全
全 廿八日	碇泊	根據地工事監督
全 廿九日	碇泊	全
全 三十日	碇泊	全
全 卅一日	碇泊	全

九月一日	碇泊	全
全 二日	全地 釜山ニ向フ	全
全 三日	釜山 着	全
全 四日	碇泊	天候不良ノタメ碇泊
全 五日	碇泊	全
全 六日	碇泊	全
全 七日	碇泊	歸帆準備ヲナス
全 八日	碇泊	歸縣ノ途ニ就ク
全 九日	碇泊	以上
全 十日	碇泊	以上

二、朝鮮海本縣人出漁狀況

本年度鮮海出漁者ハ天草郡ノ鯛釣ヲ首トシ長洲町ノ鮫鱈網及八代町ノ鰺搔等之ニ亞キ其總數實ニ三百四十六隻ニ達シ而シテ之等ノ漁船ハ孰レモ其根據地ヲ蘆台島、欲知島、三千浦以西光陽灣、海自灣、麗水羅老島、木浦 群山、仁川及平安北道ニ亘レル間ニ於テ各自便宜ノ地ヲトシ當年三月下旬ヨリ四月初旬ニ亘リテ渡鮮ノ途ニ就キ早キハ八月ニ歸キハ年暮ニ至リテ歸縣スルナリ今當年四月ヨリ十二月ニ至レル鮮海出漁數ヲ表示スレバ左表ノ如シ



漁業種類	船	數	漁場	出漁者郡別	漁況
鮫鱈網		三〇	平安北道	玉名郡	豐
全		八	南海岸	玉名郡 天草郡	凶
全		一二	西海岸	玉名郡	並
鯛釣		一一五	全	天草及葦北郡	豐
全		一四〇	南海岸	全	凶
鰻搔		三四	全	八代郡	並
鱧繩		二	全	宇土郡	並
大刀魚繩		三	全	全	並
鰻地曳網		一	全	天草郡	凶
打瀬網		二	全	葦北郡	並
計		三百四十七			

三、朝鮮西南沿岸漁業概況  
釜山近海

鯛延繩及一本釣ハ周年行ハレ一隻千二百圓ノ手取金ヲ揚グルモノアリ打瀬網出漁者ハ愛知縣最モ多ク昨年ハ五六十隻此近海ニ根據シタリシガ其成績揚ラズシテ本年ハ欲知島方面ニ向ヒシモノ多シ鯖流網出漁者ハ主トシテ長崎縣人ニシテ其數二十餘隻ニ及ビ成績甚ダ良好ニシテ四月下旬ノ初漁ヨリ五月中旬ニ至ルマデ一隻概三百圓餘リ收穫セルヨリスレバ其六月下旬ノ終漁マデニハ不少漁利ヲ揚グルハ想像スルニ難カラズ本網ハ肩巾八尺ノ漁船四人乘ニシテ夜間釜山沖一海涅ノ邊ニテ從業スルナリ

巨濟島近海

此附近近時鯖網漁業ノ盛大ニ趣ケルコトハ能ク人ノ知ル所ナリ本年ハ長承浦ヲ根據トセルモノ五十六組知世浦ヲ根據トセルモノ八組舊助羅ヲ根據トセルモノ十八組總計八十二組ニシテ昨年ノ初漁ハ四月十九日ニシテ昨年ノ初漁ニ後ル、約二十日而モ初漁以來漁況モ昨年ノ如ク豐饒ナラズ魚群包圍ノ際各船爭奪紛擾ヲ極メ互ニ魚群ヲ逸スル事アル等一時形勢容易ナラザルモノアリシモ五月十五日頃ヨリ昨年ニ劣ラザル漁獲アリテ幸ニ事ナキヲ得タリ漁獲物處理ハ一昨年迄ハ主トシテ釜山馬山統營等ノ市場ニ送り鹽物ハ朝鮮向ヲ主トシ内地ニ輸送スルモノハ極少ナカリシガ昨年ニ至リ汽船發動、機船和船等ノ輸送母船現ハレ博多下ノ關伊万里等ニ運ビ鮮魚ハ氷詰或ハ防腐劑ヲ施シテ送ルモノ多ク其成績良好ナリシ

漁場漁期ハ年ニヨリ多少異ナルモ此附近ニ於テハ毎年四月二十日前後ニアリ而シテ魚群ノ回游ハ南方



ヨリ北方ニ進行スルモノナルハ確カナル事實ナリ漁場ハ主トシテ巨濟島東岸ニシテ長承浦知世浦舊助羅ヲ根據トセルモノ多數ナレモ本年ハ漁場ノ區域擴大セラレ統營灣口比珍島附近或ハ遠ク欲知島附近ニ從業ヲ見ルニ至レリ

本漁業ハ多クハ巾着網縛網、揚繰網及流網ヲ以テ沿岸近ク洄游スルモノヲ捕獲スルモノニシテ殆ンド無盡藏ヲ以テ唱セラルレドモ其果シテ永遠ニ繼續シ得ラル、モノナリヤ否ヤニ關シテハ研究ヲ要スベキ事ニ屬ス

現ニ本年ノ如キ昨年ノ盛況ニ漁業者爭フテ巨濟島東岸ニ集中セル結果既ニ各方面ニ於テハ漁船過剩ヲ訴ヘ競争甚ダ激烈ナルヲ認ム此裡ニアリテハ或ハ昨年ニ劣ラザル漁利ヲ揚グルモノアルベキモ經驗ニ乏シキ新出漁者ガ豫想通りノ水揚ヲナサントスルハ至難ノ事タルベシ

彌ツテ漁具ニ就テ之ヲ見ルニ現在最モ多ク使用セラレ且好成績ヲ揚グル巾着網縛網揚繰網ノ三者ヲ將來ニ於テモ引續キ墨守スルノ可否ハ又第二問題トシテ考究ヲ要スル事ナルガ今後ニ適當ト認メラレツ、アルハ流網トス流網ハ昨年迄試験的事業トシテ長崎縣ノ漁船十二三隻釜山ヲ根據トシテ之ニ從事シ成績稍良好ナリシタメ本年ハ二十餘隻ノ出漁者ヲ見巨濟島附近ヨリ釜山沖ニ從業シ居リシガ五月四日ヨリ全十八日迄十一回出漁ニ於テ漁獲一万二千尾一尾平均二錢七厘ノ賣揚總額約三百圓ニ達セリト云フ長崎縣平戸漁船ニ就キ調査セシニ又皆三百圓以上ノ水揚セルヨリスレバ終漁マデニハ六七百圓ノ

漁利ヲ得ルコト蓋シ難キニアラザルベシ

本網漁業者ハ巨濟島附近ニ於ケル爭奪場裡ヲ離レ超然トシテ外ニ立チ得意揚々タルモノアリ、而シテ流網ハ夜間之レヲナスモノニシテ他ノ網ノ如ク魚群ヲ見テ始メテ圍繞スルモノニアラズ從ツテ相互間ニ競争軋轢ヲ生ズル事ナク而モ沿岸近ク或ハ灣内等ニ來游スルモノヲ待チテ漁スルニアラズ遠ク沖合ニ出デ其洄游ヲトシ運用スルノ便アレバ將來大ニ發達スルノ見込ミアルト同時ニ復發達セシムル必要アルモノト思料ス

河東附近

五月三十日河東河口鰻漁業ノ根據地タル望徳(マンヲキ)ニ到ル當地ニ於ケル鰻漁船ハ目下五十隻ニシテ内本縣人二十一隻他ハ皆廣島岡山ノ二縣ナリ活洲母船ノ此地ニ根據セルモノ六組アリ各七八隻ノ漁船ヲ配下ニ附シ其漁獲セル鰻ハ適宜全所ニ於テ活洲籠ニ貯養シ置キ順次大阪ニ輸送スルナリ母船主對漁夫ノ關係ハ月給制ニシテ母船主ハ漁船一隻ニ對シ二十圓内外ヲ支給シ又總賣上高ニヨリ多少ノ配當ヲナシ居レリ

本縣漁夫ハ其技術卓越セルニ拘ラズ母船業ヲナセルモノ一モアルナシ漁期ハ春秋二期ニ分レ春秋ハ三月ヨリ六月末マデ秋期ハ彼岸入ヨリ約二ヶ月ナリ、而シテ春期ニ於テハ全部延繩ヲ用ヒ秋期ニ於テハ餌ニ付カザルヲ以テ搔鎌ニ依ルナリ、漁場ハ單ニ河東河口附近ニ止マラズ此地ヲ中心トシテ諸方面ニ



出漁シ漁獲物船ニ滿ツルニ至リテ歸ル昨今ノ成績ヲ聞クニ例年ニ異ナルヲナク一日一隻二三貫乃至五六貫ノ漁事ニシテ本月初漁ヨリ昨今マデニ河東ニ集マリタルモノハ約二千貫ナリ而シテ鰻ノ相場ハ大阪ニ於テ十貫平均十九圓土曜丑ノ日頃ニハ廿五六圓ニ達ス故ニ母船業者ハ全日前ニ此地ヲ引揚ゲ内地ニ歸リテ魚ノ賣却ヲナシ秋期再ビ來ル鰻ヲ母船ニ積ムニハ直徑五尺位ノ籠ニ約七八十貫宛ヲ入レタルモノ十個ヲ活間ニ入レ互ニ動搖セザル様詰ムルヲ法トシ他ノ魚ノ如ク直ニ活間ニ放入スル時ハ鰻ハ自ラ給水孔ヲ塞ギ全部死ヲ來スニ至ルヲアリ此附近他ノ漁業ニ於テハ視ル可キモノナク只海苔ハ繁殖ニ適シ河口砂堆上濱ヲ設ケタルモノ甚ダ多シ道廳ニ於テモ之レニ注目シ本年ヨリ河東ニ於テ海苔製造等ノ傳習ヲナシ其改良發達ヲ圖ルト聞ク

海倉澳

海倉澳ハ周四十有餘里アリ中央部數條ノ濬路ヲ通ズル外一帶ニ泥土深ク滿潮時泥面上ノ水深ハ約二三尋ニシテ干潮時ニハ泥面露出ス  
 自然牡蛎養殖ニ適スルモノ、如ク泥上一面ニ其散在セルヲ見ル澳岸十有餘ノ鮮人部落ノ婦女ハ毎年十月末頃ヨリ翌年四月ニ至ル間盛ニ之レヲ採取シ生ノマ、商人ニ賣リ商人ハ之レヲ興陽附近ニ行商ス綱身一舛ノ價二三錢ニ過キサレドモ年中ニ亘リ婦女ノ最モ多ク利ヲ得ルモノハ牡蛎採取ナリト云フ、而シテ彼等ノ現ニ採取セルハ僅ニ巨岸一町位ノ間ニシテ各自ノ所有面ヲ木片或ハ石片ヲ以テ區劃シ泥土

ニ牡蛎ノ殘殻ヲ散布シ置キ之ニ附着生長セシメ冬期ニ至リ採集スルモノナリ、因ツテ念フニ多少ノ工ヲ加ヘ利用面ヲ擴大スルト共ニ蕃殖方法ノ改良ヲ計ラバ產額現今ノ數倍ニ達スルハ容易ノ業ナルベク又附近ノ牡蛎ヲ買收シ乾蛎等ノ製造ヲ開始スルモ容易ナルベシ

蛸嶋近海

六月六日蛸嶋ニ到ル本島近海ハ所謂七山灘ノ一部ニ屬シ西岸中著名ノ漁場ニシテ石首魚漁期ニ於テ漁船ノ集合頗多ク其盛況名狀スヘカラザルモノアリト雖漁期僅ニ二潮ニシテ忽チ閑靜ニ歸スト云フ昨今ハ其東岸僅ニ鮮人ノ魚箭漁業ヲナスアルノミニシテ一隻ノ日本漁船ヲ見ズ之要岸ノ魚族ノ移動ハ特ニ著シク四月中旬此附近初漁アルヤ一朝毎ニ漁場ハ次第ニ北進シ漁船ハ之レヲ退フテ集合地ヲ轉ズルガ故ナリ

群山附近

群山沖鮫鱈網漁期ハ既ニ終末ニ近ク現時當港ニ集合セル漁船モ近ク此地ヲ引揚ゲ更ニ北進シ或ハ南岸羅老島附近ニ退カントスルモノアリ  
 釣漁業者ハ目下港外竹島附近ヨリ煙島附近ヲ漁場トスレトモ之モ次第ニ北進シ七八月頃狐島鹿兒島附近ニ至リ其他ノ漁期終ルト共ニ於青島ニ集合スルモノナリ  
 群山ハ木浦ト全ジク未ダ鐵道ノ便ナク陸上ノ交通又宜シカラズ唯長浦江ヲ溯ル約二十哩ニシテ江景ア



リ當港トノ間ニ僅ニ毎日一回ノ發動機船ノ往復アルノミ從ツテ當港市場ニ上ル漁獲物ハ附近諸部落ニ至ルモノト江景及全州等ニ向フノミニテ遠ク朝鮮内地ニ販出セラル、モノナシ之レ少シク漁船數多ク入港スル時ハ漁價ノ暴落スル所以ナリ然カレトモ鐵道ノ開通又近キニアリト聞ケバ其販路ノ擴張セラ、ル、ノミナラズ漁價ノ均衡ヲ保チ從來ノ不便ヲ一新スルニ至ルベシ

於青島

於青島ニ於ケル漁業ハ鎮延繩漁業ヲ主トシ鯧漁業鯛漁業之ニ亞ギ其他ニ至リテハ語ルニ足ルモノナシ抑モ本島ニ日本人ノ來リシハ明治廿六年ニシテ當時鎮ノ漁獲豐富ニシテ僅ニ二日位ニシテ滿船スルヲ得タルモノナリシト云フ

今左ニ本嶋ニ於ケル漁獲物ノ種類及漁期ヲ示ス

鱈	十二月—五月
鯧	六月—十月
鯛	九月—十一月
石首魚	六月—九月
鱈	六月—七月
鱈	七月—十一月

鹹

九月—十月

あふらめ

周年

是ニヨリテ本島在住者ノ年中漁業ヲ見ルニ毎年十二月ヨリ翌年五月マデハ鎮延繩ヲナシ其末期ニ於テ直ニ群山沖鯛延繩漁業ニ轉シ六月ヨリ又本島ニ於テ鯧漁業ヲナスヲ得更ニ鱈漁ニ移リ再ビ鎮漁ニ入ルナリ

狄子島

六月十七日狄子島ニ到ル本島漁業ハ其過半鯧漁業ニシテ之ニ亞グハ烏賊鯖鯛漁業等ナリ鯧ハ大敷網地曳網及焚寄網ヲ以テ漁ス、大敷網漁場ハ現在上島一ヶ所下島三ヶ所アリ地曳網ヲナスハ六月ヨリ十一月ノ間ニシテ鮮人ハ麥ノ刈入ヲナシ更ニ之ニ玉蜀黍ノ蒔付ヲ終リ而シテ後地曳網及焚寄網ニ着手スルヲ常トス内地人ノ之レニ從事スルモノハ山口縣人三組アリ盛漁期ニ入レバ濟州島ヨリ鮮人ノ同業者入り込ミ來リ昨年九組ニ達セリ而レバ本島ノ網代ハ既ニ地曳網ニ對シテハ餘裕ナキモノ、如シ鯛延繩漁業ハ六月上旬ヨリ七八月迄ノ間ニシテ昨今二十隻ノ出漁船アリテ各船二十貫位宛ヲ漁獲セリ然レドモ本年ハ販賣ノ便宜シカラズ昨今十貫ニ付二圓七十錢ノ安價ニアリ

活漁船ノ木浦マデ汽船曳船賃ハ十圓ナリト云フ而シテ内地人ハ餌料ハ主ニ(たこ)ヲ用ヒ鮮人ハ(たこ)(しじし)等ヲ使用ス(たこ)ノ活洲船ガ木浦ニ至リタル歸路持チ來ルモノニシテ一貫七八十錢ナリ(い



ひし)ハ本島ニ於テ捕レルモノニシテ土人ハ其使用ニ熟シ漁獲モ亦割合ニ多量ナリ  
 本島ノ鯛漁期ハ前記ノ如ク七八月マデナルモ其ノ月ハ鯛存栖セザルカ故ニアラスシテ漁獲物販出及  
 餌料供給不便ナルガ爲メ漁者ハ九月頃ヨリ木浦附近ノ鯛漁業始マルト全時ニ當地ヲ引拂フナリ  
 烏賊鱈ハ本島附近其棲息饒多ニシテ先年鹿兒島縣下ノ漁夫多數出漁シタル事アリシモ昨年不漁以來出  
 漁頓ニ減シ今年節製造ノ目的ヲ以テ多少ノ設備ヲナシタルモノモ其儘不用トナリ終レリト云フ本縣  
 天草郡牛深町ノ漁船本年鱈魚釣ヲ目的ニ舊四月十九日ヨリ來島シ目下鯛ノ延纏ヲ行ヒ時期ノ到來ヲ  
 待チ合ヘリ鯛ハ來島後既ニ三百貫ヲ揚ゲシモノアルモ價格百圓ニ滿タズ收支辛フシテ相償フ位ナレト  
 モ鱈及烏賊ニテ充分ノ漁利ヲ揚ケンコトヲ期シ居レリ  
 昨年全島鱈大敷網漁獲ハ一組二千三百圓内外ニシテ地曳網ハ内地人經營ノ二組共ニ千數百圓ノ漁利ヲ  
 揚ゲ鮮人地曳網ハ都合六組ニ及ビ各四百圓ノ利ヲ獲得セリ  
 内地人ハ臘煮乾素乾或ハ干鰯(ホシカ)等ニ製スレドモ鮮人ノ漁獲スルモノハ直ニ陸揚ゲヲナス先ヅ  
 酒宴ヲ張リテ漁獲ヲ祝シ而ル後悠々陸揚ゲニ着手スルガ故ニ勢ヒ干鰯ニ製スルノ外道ナシト云フ  
 四、本縣出漁鮫鱈網漁況  
 麗水半島ノ東北端略浦角ハ從來長崎縣鮫鱈網ノ據根地ナルモ昨年來蝦ノ不漁ナリシタメカ五月下旬此  
 地一隻ノ鮫鱈網漁船ナシ只瓦洞附近鮮人ノ(ハリベリ)數隻繰業セルモ漁獲渺々シカラズ

羅老島ニ於テモ五月下旬ヨリ本縣人ノ着手セルモノ七八隻アリ爾來數日間ハ一日二十圓内外ノ漁獲ア  
 リシカ其後時化ノタメ出漁ヲ得ザル等ノコトアリテ例年以上ノ漁獲ヲ得ルノ見込立タズ漁場ハ羅老島  
 ノ南西巨岸三四哩水深七八尋ノ處ニシテ漁獲物ハ大刀魚ヲ主トシ魴鱧等之ニ亞グ大刀魚魴ハ鮮人ノ嗜  
 好スルモノナレバ賣行良好ニシテ鮮人ノ買船漁場ニ往來シ大刀魚ノ如キ一尾二三錢ノ相場ヲ保テリ此  
 附近鮮人ノ全漁業ニ従事スル者甚ダ多ク昨年ハ二三十隻ニ達シ何レモ内地人ニ劣ラザル漁獲ヲナセリ  
 蛸島及群山沖ノ鮫鱈網ハ本年ノ漁獲高ハ普通ニシテ一隻五百圓以上七百圓位ヲ獲タリ本縣人ノ此附近  
 ニアリシモノハ十二隻ニシテ三月漁場ニ到着シ六月下旬マデ何レモ六七百圓ノ漁獲ヲナシ之レヨリ南  
 下シテ羅老島漁場ニ向フモノト歸縣ノ途ニ就クモノト相半セリ

五、鯛漁況

鮮海ニ於ケル鯛釣漁業ハ四月ヨリ十一月ニ至ル八ヶ月ノ間行ハレ初期二ヶ月ハ主トシテ延纏ヲ用ヒ夏  
 秋ノ候ハ多ク一本釣ヲ用フ  
 本縣人ノ西海岸ニ出漁シタルモノ一一五隻南岸ニ在リシモノ一四〇隻ナリ本年ハ當初ヨリ終期ニ至ル  
 マデ目曜シキ漁獲アリ魚價亦低廉ニシテ平均四五圓ノモノナリ、南海岸ニ於ケル最上ノ漁獲ハ八ヶ月  
 間ニ六百六十圓最少ノモノ百七十圓ナリ、又西海岸ニ出漁シタルモノ、最モ多キハ千二百圓最モ少ナキ  
 モノ三百圓位ナリシ



六、鯛餌料調査

蠶ハ到處灣内砂泥混淆ノ所ニ潛蟄シ冬期ハ淺所ニ移ルカ故ニ干潟ニテ採捕スレドモ他期節ニハ深所ニ去ルカ故ニ蠶搔ヲ引曳シテ採集ス蠶ノ体ニ傷害ハナク健全ナルモノ適當ノ貯養ヲナサバ長ク數十日間保存スル事ヲ得ルモ蠶搔ニ依リ採取シタルモノハ負傷ナキ能ハザルガ故ニ二三日ニテ腐敗スルニ至ル鯛及黒鯛ハ好シク之レヲ食スルガ故ニ鮮人ハ主トシテ之レヲ使用スレドモ内地人ハ二三三月ノ候蠶ノ最モ多キ時季ノ外之レヲ用ヒズ蠶ノ完全ニ成長シタルモノハ長サ六七寸ニ達スルヲ以テ數個ニ切りテ使用セラレ價ハ百尾拾錢乃至拾五錢ナリ、昌善海狹ノ知足里光陽灣内ノ猫島及統營附近ニ多産ス

蝦(シエービ)鮮人ハ蠶ノ補助トシテ使用スルニ過ギザルモ内地人ハ(シヤコ)ト共ニ主要ナル餌料トセリ然カレドモ蝦ハ其体纖弱ニシテ三日分ヲ活間ニ貯藏シ得ルニ過キズ其供給者ハ手繰網鮫鱈網及鮮人ノ月船ニシテ光陽灣内産出最モ多ク長約二寸ノモノ一尾二厘位ナリ又三千浦附近多少ノ産アリテ夏期ハ藻手繰網ヲ以テ一日一隻二三斤ヲ漁獲シ一斤四十錢位ニ賣却ス

西岸群山附近ニ於テハ月下浦莫容嶺及冬柏亭附近其産出多シ

(シヤコ)ハ内地漁船ノ最モ好シク使用スルモノナリ性蝦ヨリモ強健ニシテ活間ニアリテモ數日間ハ保存セラル

蘆台嶋附近ニ於ケル鯛釣漁船ハ多ク統營附近ノ土人部落香州灣内ノ飛嶋ニ於テ之カ供給ヲ仰ゲリ一、

サバリ(鮮人飯碗一杯)價三錢位ナリ又西岸ニ於テハ石堂嶋孤浦及長沙浦灣内各所ニ其産出多ク漁船ハ鮮人部落ニ至リ婦女ヲシテ採捕セシム

鰻ハ五月下旬ヨリ焚寄網ノ始マルヤ蘆台島邊ノ漁船ハ皆之ヲ需メテ餌トス蓋シ容易ニ得ラレ且廉價ナリ

穴鰯(ムーネー)五六月頃他ノ餌料欠乏セシ時之ヲ使用ス性強健ナルヨリ十數日ノ保存ニ堪フルガ故ニ一度之ヲ買入ルレバ其間餘念ナク從事シ得ルノ便アリ然カレドモ産普カラズ只汝自灣ノミ産出多シ前記數種ノ他ニ海鼠海月等ヲ使用スルコトアレドモ會々餌料欠乏ノ際之ヲ用フルノミ

七、鱧漁業

朝鮮南部沿海到ル所鱧ノ漁獲有ラサルナシト雖特ニ鎮海灣蛇梁島南海島加莫洋羅老島近海等ハ最モ有望ノ好漁場トシテ世ニ知ラレ今ヤ該漁業ハ南岸ニ於ケル重要漁業ノ一ニ數ヘラル、ニ至リ將來ニ於テモ未ダ餘裕綽々タルモノ、如シ然ルニ本縣漁業者ハ嘗テ八代郡植柳村ノモノ五隻出漁シタルコトアルノミニテ偶々當年ノ不漁ト漁獲運搬機關ノ不備ナリシトニ打撃ヲ受ケ爾後復タ一隻ノ出漁スルモノ無キハ寔ニ恨事トスル所ナリ

本縣出漁根據地タル昌善島ハ前記各漁場ノ中央ニ位シ各漁場ヘノ往來ニハ至便ノ地點ニ在リ特ニ蛇梁島ノ漁場ノ如キハ自家庭泉トモ云フヘキ場所ナルニ尙且ツ拱手傍觀ノ有様ナルハ洵トニ惜ミテモ餘ア



リト謂フベキナリ蓋シ今後本漁業ヲ獎勵シ新ニ出漁者ヲ誘導スルハ甚ダ適切ニシテ且ツ緊要ノ事タルヘシ左ニ該漁業ニ就テ聊カ記述セン

漁期ト漁場

漁期ハ春秋二季ニ分レ春期ハ八十八夜前後ヨリ七月下旬ニ至リ秋期ハ九月ヨリ十月下旬ニ至ル漁場ハ前記諸地方ナリト雖期節ニ依リ漁獲ニ多寡アルガ故ニ漁船ノ大部分ハ之レヲ撰ヒテ移動ス即チ初漁ヨリ五月下旬頃マデ主トシテ羅老島養浦ヲ根據トシ其ヨリ一躍シテ蛇梁島及ビ子郊灣口ノ臥島ニ移ルモノ及ビ鎮海灣内ニ入ルモノトノ二有リ而シテ是等ノ地方ニテ七月下旬マデ就業シ八月休業シ九月再ビ來リテ秋漁ニ着手ス麗水近傍ナル所謂春島(しおん)ヲ根據トセル岡山廣島ノ從漁者ハ初漁ヨリ終漁マデ根據地ヲ轉ズルコトナク終始加莫洋内ニ於テ操業ス

餌料ノ種別供給及其價格

餌料ノ種類ハ漁場及季節ニヨリ多少趣ヲ異ニス左ニ之ヲ表示スレバ

漁場名	餌料種類	供給者	價格(漁船一隻一日ニ要スル餌料代)	備考
羅老島	こねる	全地鮮人	六七拾錢	鮮魚
駕莫洋	つなし	全地鮮人	貳圓五拾錢	鹽藏
	さすこ	全地及ビ晉洲灣手繰網	貳圓内外	生魚

鎮海灣	附蛇梁近島		
	つなし	いわし	さすこ
灣内つなし網	附近鰹網	固城灣子郊灣内鮮人つなし網	晉洲灣鮮人手繰網
貳圓内外	壹圓内外	貳圓内外	貳圓内外
鹽藏	鹽藏	鹽藏	生魚

右ノ内羅老島ニ於ケルこねる蛇梁島附近ノいわしハ供給充分ナリト雖他ノ種類ハ往々缺乏スルコトアルヲ免レス晉洲灣内ニテ獲ルさすこノ如キハ漁船豫メ鮮人手繰網業者ト契約シ多少ノ前貸金ヲナシ置クヲ慣ヒトセリ故ニ新來者ハ之カ買入ニ往々困難スルコトアリ注意スヘキ一事タリ

漁獲及其輸送機關

鯉ハ其性他ノ回游魚族ノ如ク潮流氣象等ノ影響ヲ享クルコト甚シカラザルガ故ニ從テ他種漁業ノ如ク年ニヨリ漁獲ニ著シク豐凶ノ差ヲ來スコトナク又何レノ漁場共大抵相平均シ一日一隻ノ漁獲ハ約三四十貫ニ達シ且ツ是等ハ總テ内地ニ輸送セラル、ガ故ニ魚價モ常ニ畧一定ノ標準ヲ保ツコトヲ得即チ漁期ニ入レバ多數ノ活洲解船石油發動機船及汽船曳船等各漁場ニ往來シ各々漁船數隻乃至數十隻ト契約シ拾貫ニ付參圓五拾錢乃至參圓八拾錢位ノ特約價格ニテ買收シ内地ニ輸送ス、本年蛇梁島附近ノ如キ



ハ母船一時ニ集合シ互ニ競争シタルガ故ニ魚價ハ拾貫四圓内外マデ昇騰シタルコトサヘアレバ現今ニ於テハ亦往年ノ如ク漁業者ガ漁獲物ノ處理ニ困惑スルガ如キコトハ斷ジテアルヘカラス加之昨今蛇梁島臥島等ニテハ鱧蒲鉾製造業ヲ營ムモノ續出シ從來殆ンド廢物視セラレシ死體ノ利用ヲ計ルニ至リタレバ漁業者ノ利便至大ナリ

鯛延繩漁ヨリ鱧延繩漁ニ轉漁ニ就キテ

既述スルガ如ク鱧ノ漁獲ハ年ニヨリテ甚シク不同ヲ生ズルコトナシト雖鯛漁業ニ至リテハ豐凶ノ差實ニ甚シク現ニ本年ニ於テハ鯛漁甚ダ不況ニシテ蘆台島附近ニ集合セシ多數ノ本縣鯛漁業者中ニハ生活ニモ尙且窮乏ヲ訴フルモノアルニ接シタリ爰ニ於テ鯛延繩漁業者ヲシテ鱧延繩漁業ニ轉セシメントスルハ當然ノ妙案ニシテ殊ニ本年度ノ如キ鯛不漁ニ際シテハ必然鱧延繩ニ移ルノ得策ナルコト敢テ言フ須タサルナリ

試ニ鯛延繩ト鱧延繩トヲ比較スルニ後者ハ前者ニ比シ枝系長ク(前者二三尋乃至四五尋ナルニ後者ハ七八尋)且ツ其ノ間隔モ之レニ應ジテ長キト後者ノちもトハ紡績糸ニテ太ク構成セラレ釣鉤モ前者ニ比シ大形ニシテ角型ナリ而シテ鱧繩一鉢分ノ釣鉤數ハ四十五乃至六十個トシ一俵ニ付十五鉢乃至三十鉢ヲ用ユ蓋シ斯ク枝系ヲ長クスル所以ノモノハ鱧ノ餌ニ就クヤ最初餌ノ一端ヲ嚙ミテ之ヲ引キ何等故障ナケレバ直ニ嚙下スルモ枝系短クシテ之レニ拮抗センカ直ニ放遺シ釣鉤ニ懸ラスシテ去ルガ故ニシ

テちもトヲ大ニスルハ深ク呑ミ下シタル際ニモ嚙ミ切ラル、コトナカラシムル爲ナリ

爰ニ於テ鯛繩ヲ以テ鱧繩ニ轉漁スルニ際シ全然取リ換ヘサルヘカラスルハ釣鉤及ちもトニシテ他ハ僅ニ手入ヲ要スルノミ而シテ釣鉤ノ如キハ甚ダ粗雜ナルモノニテ單ニ五番針金ヲ尖シ折リ曲ゲタルニ過ギズ素人ト雖製作容易ニシテ且漁法漁場共ニ鯛ノソレヨリモ簡明ナリ憾ムラクハ着手當初ハ餌料買入レニ價レズ不便ヲ感スルコトアリト雖コレトモ差シテ困難ト唱スルニ足ラズ現ニ廣島縣漁船五隻ハ本年全縣ノ獎勵ニ應ジ鯛延繩漁業ノ目的ヲ以テ初メテ出漁シタルニ不幸ニシテ本年ノ鯛不漁ニ際會シ收支到底相償フヘクモアラズ往々負債ヲ生ズルノ悲境ニ陥リ居タルガ偶々蛇梁島近海鱧漁期ニ入り其甚ダ好況ナルニ注目シ鯛漁業ニ執着スルヨリ寧ロ轉漁ノ有利ナルヲ悟リ逸早く之レニ着手シタルニ最初ス果シテ餌料買入ニ惱ミ漁獲モ香川岡山ノ出漁者ニ遠ク及バザリシガ漸ク在來者ニ倣ヒ約二ヶ月ヲ經過セシ後ハ最早甚シキ優劣ナキニ至リ鯛繩時代ノ損失ハ着々挽回スルヲ得タリト云フ此ノ實例ニ依テ見ルモ鯛延繩漁業ヨリ鱧延繩漁業ニ轉スルハ管ニ難事ニ非ザルノミナラズ鯛不漁時ニ際シ最モ適切ナル血路ト稱スルヲ得ン

朝鮮南岸ノ鱧漁業ノ狀況ソレ斯クノ如シ本縣漁業者幸ニ意ヲ爰ニ致シ今後多數ノ新出漁者ヲ出スト同時ニ轉漁ニ機敏ノ動作ヲ採ランコトヲ勸メテ歇マサルナリ

八、鯛延繩ヨリ鱧延繩ニ改造使用試験



前項記述ノ如ク本年朝鮮海鯛漁業ハ當初ヨリ不振ノ域ニ在リシモ之レニ反シ鱧漁業ハ毎日三四十貫位宛ノ漁獲アリ價格モ亦鯛ト異均等ヲ保テリ茲ニ於テ鯛延繩ニ多少ノ改造ヲ加ヘテ之ヲ鱧漁ニ用ヒ充分ノ漁獲ヲナスコトヲ得バ鯛漁業者ニ其轉漁上多大ノ便益ナルヲ思ヒ之レガ試驗ヲナスコトシ第三不知火丸備附ノ鯛延繩ニ鉢ノちもと釣鉤ヲ鱧繩ノソレノ如ク改造シ肩幅五尺計リナル活間付漁船ヲ借リ入レ七月二十二日南海島草陽洞ニ於テ「さすこ」六百尾ヲ購ヒテ漁場ニ向ヒシニ偶々天候險惡トナリ引曳セル漁船ハ激浪ノ爲メ簸揚激シク爲メニ餌料ハ過半斃死スルニ至レリ是ニ於テ止ムヲ得ズ一時昌善島ニ避難シ天候稍回復スルヲ待チ直チニ樹牛島南側ニ到リ繩ヲ延ヘントセシモ日既ニ没シ風浪未ダ息ミ切ラス斯クテハ試驗ノ效果揚ラサルベキヲ察シ其夜蛇梁海峽ニ假泊シ餌料ハ悉ク之ヲ鹽藏ニ付セリ翌日夕刻ニ至リ蛇梁島南側ニ出テ竹島西端ヲ去ル南西四分ノ一湮ノ地點ヨリ西南ニ向ヒ延ヘタリ午後十時繩ヲ揚ゲ始メ一時間半ニシテ終ル獲ル所鱧二貫餘ナリ漁具僅ニ二鉢ニテ而モ餌料ハ鹽藏物ヲ使用シ此漁獲ヲ見レバ比較的好成績ト云ハサルベカラズ此割合ヲ以テ三十鉢ヲ用ヒタリトセンカ三十貫ノ漁獲アルベク更ニ餌料ガ生鮮ナルモノナリセバ尙此以上ノ漁獲アルハ勿論ニシテ吾人ガ鱧漁業ヲ奨メ轉漁ヲ云々スル偶然ニ非ザルヲ知ルヘキノミ

以後本試驗ハ尙數回繼續施行ノ豫定ナリシモ種々ノ事情ノ爲メ果サリシハ恨事トナス所ナレトモ之レニヨリテ以テ鱧漁ノ有望ニシテ且ツ如何ニ多産ナルカヲ察知スルニ足ラン

九、出漁者救護事項

出漁者ノ最モ痛苦トスルハ未ダ醫師ノ普カラザルコトナリ本船ニ於テ藥劑ヲ給シタルモノハ「バラチブス」ト思ハル、モノ五月下旬河東鰻漁業者一名八月中旬蘆台鰻鯛漁業者一名五月中旬健胃劑ヲ給シタルモノ十名此外眼病者ニ施藥シタルモノ數名ナリ

六月二十三日鯛一本釣漁業者二名不漁ノタメ水産組合加入手續ヲ果サズ苦境ニ在ルヲ知り水産組合ト交渉シ多少ノ内金ヲ納レ假領收證ヲ受ケシメタリ

七月五日暴風ノ際難破セントスルヲ救ヒシモノ二隻外ニ船主ト其雇漁夫ノ紛争ヲ調停シタルモノ一二件アリ

十、昌善嶋本縣根據地

朝鮮沿岸各所各縣ノ根據地アリ孰レモ地理上一得一失アルハ免レザルモノノ如シ今昌善嶋加仁里ニ於ケル本縣根據地ノ如キモ亦恐ラク其數ヲ免レザルベシ

昌善嶋ハ三千浦ノ南方約二湮半根據地ハ其北側ニ在リ三面山ヲ繞ラシ唯東北ノ一面ノミ開放シ南方小丘ヲ隔テ、鮮人部落ニ連ナル土壤ハ一帶赤粘土ニシテ山上茂林ナシ家屋ハ東方ニ面シ南面又日光ヲ遮ル地物ナク飲料水豊富ニシテ衛生上良好ナリ其灣ハ干出面積多キニ失シ泥中礫ヲ混シ利用ノ道ナキガ如ク耕地狹隘ニシテ陸上發展ノ望少ナキハ遺憾トスル所ナリサレド西方晋州光陽等ノ漁場ニ至ル咽喉



ニ當リ東面蛇梁蘆台等ノ漁場ニ至ル要路ヲ占メ附近又大刀魚鱈等ノ漁獲多シ即東西各漁場ノ中央ニ位シ漁期ヲ追フテ轉漁スルニ當リ不用ノ漁具等ヲ一時藏置スルガ如キニハ最モ適當ノ地點ナルベク蓋シ當初撰定ノ際視ル所又此處ニ存セシナルベシ

對岸三千浦ハ晉州ニ至ル要津ニシテ魚市場ノ設アリテ數十隻ノ漁獲物ヲ吸收スルニ困シマズ交通上倚ルベキ機關又少シトセズ

地勢大畧斯ノ如シ其利用法ノ如キ各人見解ヲ異ニスベキモ附近ノ狀況ニヨレバ週年此地ニ住セントスルモノハ大刀魚延繩打瀬手續或ハ鱈延繩等ヲ主業トシ特ニ鮪釣ノ如キ或ハ鱈釣ノ如キヲナサバ年中間斷ナク從業セラルベキナリ

今當地附近ノ主要漁期ヲ擧グレバ左表ノ如シ

種類	漁期
鱈 延繩	八十八夜—七月下旬及九月—十月下旬
大刀魚延繩	九月—十一月
鯛 釣	四月—十一月(夏ハ主ニ一本釣)
打瀬網手續	一月—十二月(十月—二月盛漁期)
鱈 釣	十二月—二月

鱈 延繩 七月—九月

十、將來ノ希望

縣内漁業ノ状態ニ鑑ミ現今鮮海ニ出漁セル鮫鱈網延繩鱈漁業ハ尙大ニ發展セシムベキモノト認ム

大刀魚ハ鮮海其産額多ク之ガ延繩漁業ノ有利ナルベキハ近ク願望セラル、所ナリ然ルニ本縣漁業者ハ其技ノ頗堪能ナルニ係ラズ内地ハ殆ンド廢滅ノ有様ナレバ之等漁業者ヲ彼地ニ誘ヒ其技ヲ振ハシムルハ策ノ得タルモノナルベシ

有明海及不知火海ニ於ケル打瀬網及手續網ハ之ヲ漁場廣潤ナル鮮海ニ誘致スルハ實ニ漁業者ノ利益ナルノミナラズ縣下斯業ノ命脈ヲシテ長カラシムルモノト謂フベキナリ

本縣漁民ニシテ鮮海ニ於テ鱈ノ延繩ヲ營ムモノ數隻ニ過ギズ該漁業ハ既ニ記セルガ如ク漁利ノ確實ヲ期シ得ルモノナレバ一層其出漁者ノ多カラント望マザルヲ得ズ鱈漁場ハ鮮海頗ル廣クシテ有利ナル漁業ノ一ナリ本縣不知火有明兩海ニ於テ斯業ニ從事スルモノ百隻以上アリ該漁業者ハ内地漁業ヲ了ヘ渡鮮シテ間モナク彼ノ地ノ漁業ニ從事シ彼ノ地ノ漁業ヲ了ヘテ内地ニ歸リ又直ニ就業スルコトヲ得頗有利ナレバ將來此出漁ヲモ企圖スベキナリ

鱈ノ空延及鱈ノ流網ハ大刀魚延繩ト共ニ縣内既ニ廢レシ漁業ナルニ朝鮮西岸附近ハ斯業又有利ナルモノアレバ將來誘掖就業セシムベキナリ



### 第三不知火丸復舊工事

本場付屬船第三不知火丸ハ明治四十四年十一月十七日八代海及天草沿海ノ基本調査ヲ了ヘテ三角際崎ニ歸港シ碇泊中全月十九日夜過ツテ點燈ヨリ火ヲ失シ消防ノ力及バズシテ爲メニ船体ノ約三分一ヲ損燒シ機關モ復燒熱ヲ受クルノ厄ニ遭遇シタリ而シテ船体ハ之ヲ宇土郡戶馳村ノ九州汽船會社鐵工所ニ機關ハ東京市深川區成田鐵工所ニ托シテ修繕セシメタリ斯クテ機關ハ四十五年三月末日ニ至リ竣工シ船体ハ四月十日ニ完成シタレバ機關ヲ据ヘ付ケ試運轉ヲ行ヒシニ結果ハ共ニ良好ニシテ以後又大ナル支障ナク以テ今日ニ至レリ

### 製造部

#### 輸向蝦蟇詰試驗

本縣下ニ於ケル蝦蟇ノ產出ハ有明不知火海ニ涉リテ饒産シ例年四五月ノ交一時ニ多獲ノ漁アルニ當リテハ往々其處理ニ困惑シ肥料トナスコトアルノ状態ナリ而シテ從來多クハ生ノ儘地方ノ需要ニ供シ氷詰トシテ東京方面ニ輸送スルノ外製品トシテハ僅カニ煮干蝦蟇、燒蝦トナシテ販出スルノミニシテ他ニ未ダ利用厚生ノ道備ハラズ以是今此蝦蟇原料トシ之ヲ彼ノ北海道其ノ他ノ地方ニ於テ盛ニ製セラレツ、アル歐米向ノ蟹蟇詰ニ倣ヒテ果シテ良好ノ品ヲ製出スルヲ得バ現在ノ消極的售買法ヲ取ランヨリハ通

カニ優レタル事業ナルヲ以テ茲ニ本試驗ヲ計畫セル所以ナリ

試驗施行ニ關シテ本場業務ノ都合ニヨリ飽託郡横手村字北岡千二百四十七番地寺本悅次郎ニ屬託シ製造ノ方法ハ主務省指定ノ要項ニ準據セシメ、罐詰内容物ノ黒變ヲ防止スルト製品ノ体裁ヲ保ツヲ主眼トナシタリ

試驗着手ハ四十四年十月二十五日ニシテ爾後十一月八日ニ至ル間前後六回試製ヲナシ原料總數百三十六貫百匁ヲ使用シ製了品全數六百二十八個ヲ得此内原料ノ古キ等分不良ノモノアリシモ概シテ優良ノ製品ヲ得タリ而シテ其内特ニ完全ナルモノヲ撰別シテ之ヲ東京ニ送り輸出取扱者日本橋區小網町三丁目岡田小三郎ニ托シテ米國ニ試賣スルコト、ナリシガ全店ハ之ヲ「サンフランシスコ」市ノ支店へ輸送シ更ニ需要ノ盛ナル「シカゴ」市ノ仲次業者ニ委屬シ販賣セシメタルニ初年度ノ試賣トシテハ良好ナル成績ヲ得加フルニ連絡試驗セシ徳嶋山口縣ノ製品ニ比シテ品質ノ遙カニ凌駕スルコトヲ知リ尙品評ノ結果製造上七項ノ注意點ヲ指示シ來リタルヲ以テ來年度ニ於テハ華客ノ要求ニ添フベキ完全ナル良品ヲ製出センコトヲ期シ之ガ試驗ヲ繼續施行スルコト、セリ

### 養殖部

#### 海苔養殖試驗

#### 菊池川口海苔養殖事業第六回保護試驗



本試験ハ菊池川口海苔養殖事業ニ對シ第六回目保護的ニ施行セシトコロニシテ先ヅ本年度中ニ於ケル海苔成育經過ノ概況ヲ調べ其結果ヲ綜合シテ場所ノ優劣ヲ比較シ其他被害關係等ヲ調査セリ今成育經過ノ概況ヲ示セバ左ノ如シ

事項	最始	最盛	最終
海苔築建設時期	九月十九日	十月四日頃	十月二十三日
全孢子發芽時期	十一月九日	十一月二十三日	—
全被害時期	一月二十一日	—	二月十四日
全摘採時期	十二月五日	自十二月二十日 至一月六日	二月十四日

尙前年ト同一方法ニヨリ海苔孢子附着及ビ發育ノ優劣等級ヲ査定セシモノ、成績左ノ如シ但シ五潮期間ノ計數ニシテ數ノ大ナル程優良地タルコトヲ示ス例ヘバ比ノ七八九ハ最優等地タルヲ知ルベシ

海
25
26
27
28
29
30

表級等育發及着附苔

級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
5	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
ろ	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
は	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
に	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111
は	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111	1111



本縣玉名郡沿海有明海ニ産スル介藻中海苔ハ養殖容易ナルヲ認メ本場創設ト同時ニ養殖部ノ事業トシ之ガ試験ヲ施行セシニ品質優良成長迅速ナルヲ知リテ直チニ附近漁業者ノ歡待スルトコロトナリ事業ヲ引繼キ以テ前記養殖場ノ經營アルヲ見ルニ至レリ然ルニ着手後四年目即チ明治三十八年一月ヨリ毎年被害アリ其甚シキ年ハ一月以降一葉モ製造スルコト能ハザル状態ニシテ當業者ノ苦痛誠ニ輕カラス若シ東京灣ニ於ケルガ如ク毎年三四月迄摘採スルコトヲ得バ海苔製造期間延長シ收益亦巨額ニ達スベキヲ信ズ依テ保護試験施行ニ付テモ主トシテ其被害關係ヲ研究シ傍ラ現場以外ニ擴張シ得ベキ區域ノ有無査定ヲナシ既ニ五回試験ヲ經テ發生區域ハ尙充分擴張シ得ベキ餘地アルヲ確メタレドモ被害ノ原因ニ關シテハ未ダ闡明スルコト能ハス救済ノ方法ニ窮スルヲ以テ斯道ニ造詣深キ岡村博士ヲ招聘シ其意見ニ從ヒテ適宜ノ救済方法ヲ講センコトヲ期シ本年二月四日被害時期ニ當リ特ニ實地踏査ヲ仰キテ次キノ報告ヲ得タリ

海苔被害原因調査

岡村 金太郎

海苔ノ害ヲ被ムルヤ其原因一ニシテ足ラズ曰ク浮泥ノ堆積曰ク潮流ノ變化殊ニ苦潮赤潮ノ如キ曰ク淡水ノ過多温度ノ蒸熱「ドタ」等尙ホ多シ今本縣玉名郡大濱町ニ於ケル海苔ハ年々春季ニ至テ腐敗ヲ醸スコト殆ド規ヲ一ニシタルモノ、如ク之ガ爲ニ春季若クハ初冬一面摘採シタル後ハ概ネ被害ニ罹ルヲ以テ收額ノ多キヲ致スコト能ハザルハ當業者ノ常ニ頗ル悲嘆スル所ナリトス今其原因ヲ調査ス

ルコト左ノ如シ

海苔被害ノ原因左ニ云ヘル如ク其種類多シト雖中其最モ普通ナルヲ方言「ドタ」腐レト稱スルモノトス「ドタ」腐レハ嚴冬若クハ初春ノ如キ寒冷ノ候ニ當リ氣温少シク上昇スル時起ルモノニシテ其病源ハ一種ノ「バクテリア」ニアレドモ之ガ誘因トナルモノハ硅藻ト稱スル一種ノ顯微鏡的藻類ノ蕃殖スルニ由ルモノニシテ此硅藻ハ概ネ春季ニ著シク生殖スルモノナルガ故ニ嚴冬ノ候ト雖トモ氣温少シク上昇スルトキハ恰モ其時機ニ達シタルモノ、如ク一時ニ蕃茂シテ海苔ノ体上ニ附着シ之ガ爲ニ「バクテリア」ノ蕃殖ヲ伴ヒ由テ以テ海苔ノ腐敗ヲ醸スモノトス此害ハ其病源「バクテリア」ニ在ルヲ以テ一旦發生スルトキハ概ネ蔓延シ爲ニ多大ノ損害ヲ來スコトアリト雖トモ中途氣温ニシテ再ビ寒冷トナルトキハ硅藻ノ蕃殖速ニ中止スルヲ以テ又恢復ヲ得ルコトアリ「ドタ」腐レハ年々一二回ヅ、各地海苔場ニ興ル所ニシテ本縣ノ如キモ亦必ズ多少此害アルヲ免レザルベシト雖トモ此害ハ其原因硅藻ト海苔トノ生存競争ヨリ起ルモノナルヲ以テ今日ノ處之ガ豫防若クハ救済ノ途ナク但僅ニ築立ヲ粗ニシ以テ潮水ノ疏通ヲ謀ルニ止マルノミ

玉名郡大濱町ニ於テ年々起ル所ノ害ハ右ニ云ヘル「ドタ」腐レモ時ニ必ズ之アルベシト雖モ今回親シク調査シタル處ノモノハ之ト全ク異ナリ而シテ之ヲ當業者ニ糺スニ正ニ其云フ所ノ被害ナルモノナリ然レバ則チ多年彼等ノ心痛シタル所ノモノハ「ドタ」腐レニ非ルヤ明ナリ「ドタ」腐レハ一見其狀況ヲ明ニ



スベクシテ海苔ノ体上ニ恰モ黄色ノ粉泥ヲ撒布シタルガ如ク其腐敗スルニ至ルトキハ海苔ノ体ハ全ク力ナキニ至リ之ヲ指間ニ拈スルニ忽チ崩壊シテ又影ヲ止メズ其葉上ニ在ルヤ害一タビ起レバ海苔ハ日ナラズシテ流失スルニ至ル

今大濱町ノ被害ノ状況ヲ見ルニ海苔ハ初メ朱斑ヲ呈シ漸ク斑部ヲ擴メ遂ニ全体ニ及ボシ後淡綠色トナリ終ニ白色トナル而シテ体ニ尙相當ノ力アリ是レ海苔死シテ其紅色素ヲ溶解シ去ラレ更ニ其葉綠素ヲ分解セラル、ニ由ルモノニシテ其原因ハ淡水ノ過多ト加フルニ温度ノ蒸熱トニ在リトス

元來有明海ハ佐賀縣下ノ諸河川ヨリ注入スル河水ヲ受ケ不知火灣亦四五ノ河川ノ注クモノアリテ淡水量ノ多キ稍伊勢灣ヲ凌駕スルモノアリ伊勢灣ハ滿潮線ヨリ約六尺ニシテ海苔層ニ達スレドモ有明及不知火灣ハ約一丈ニシテ之ニ達ス是レ淡水ノ量多キ爲メ海苔ノ附着發生ニ適セザル水分ノ多キヲ致ス所以ナリ

凡ソ海苔ハ淡水ト鹹水トノ混和其宜シキニ適セザルトキハ成育良好ナラザルモノニシテ鹹水多キトキハ生育不良ナルモ害ヲ被ムルコト少ナク之ニ反シテ淡水量ノ多キハ其過多ナラザル限りハ海苔ノ生育ニハ支障ナシト雖モ往々種々ノ害ニ罹リ易キ恐アルノミナラズ偶々降雨ノ際ノ如キハ忽チ腐敗シテ流失スルノ虞アリ

温度ノ相當量ハ海苔ノ生育ニ必要ナルハ勿論ナリト雖モ其急激ノ變化ト蒸シ暑キトハ極メテ害アリ彼

ノ濃霧ノ害ノ如キハ蓋シ此原因ニ外ナラザルベシト信ズ殊ニ温度ノ昂騰ト淡水ノ過多ト併發スル場合ニハ一層其害ノ甚シカルベキハ多言ヲ要セザルベシ

大濱町及鏡町ノ海苔場ヲ見ルニ兩所トモ女竹ノ一本竹ニシテ之ヲ立入ル、ニ當リ海苔ノ附着ヲ多カラシメン爲メ四十五度以内ノ傾斜ヲ以テ挿入スルガ故ニ一旦海苔附着シテ發生スル時ハ其重量ニ因リ竹ハ益々傾斜シ干潮ノ際ノ如キハ往々海底ト接觸シ殆ト倒レタル如キ觀ヲ呈ス是レ竹ノ屈撓シ易キ爲メト豫メ傾斜シテ立入レタルトニヨリ起因スル所ナリトス此時ニ當テ日光ノ力強キ時ハ干潟ハ爲ニ温メラレテ海苔ヲ蒸ラシメ若クハ氣温偶々上昇シタル時ハ海苔ノ葉ト葉トノ間ニ存スル淡水多キ海水ハ之ガ爲ニ暖メラレテ所謂蒸熱ヲ起スヲ以テ死ヲ免レザルナリ若シ之ヲシテ直立ナラシメバ海苔ノ太陽熱若クハ氣温ニ感ズルコトハ干潟ノ熱ヲ吸收スルガ如ク速ナラズ且多カラザルヲ以テ能ク死スルコトナシ是レ直立セル竹ニ附着セル海苔ニ於テ被害ノ痕ナク甚シク傾斜セルモノニ害多キ所以ナリ東京灣内ニ於テモ干潟ノ高キ處ニハ往々篋ノ下方ノ海苔海底ニ接シテ暖メラル、コトアリト雖モ淡水量多カラザルヲ以テ大濱町ニ於ケル如ク朱色ヲ呈シテ死スルコトナシ

之ガ救濟ノ方法ハ結局竹篋ノ傾斜セザランコトヲ要ス故ニ竹ヲ直立シテ立レバ則チ可ナリ然レドモ直立シテ立入スルトキハ胞子ノ附着スル量多カラザルヲ以テ止ヲ得ズ篋ヲ傾斜シテ立込ムモノトス蓋シ海苔ノ附着スル層ハ場所ニ由テ一定セルヲ以テ其層ノ間ニ於テ多大ノ附着面ヲ得ントスレバ竹ヲ直立



スルヨリモ之ヲ傾斜セシムルニ若カズ此故ニ竹ヲ傾斜シテ立込メ而モ海苔附着ノ後傾臥スル如キコトナカラシメンニハ篋ノ堅牢ナルヲ要ス之ヲナサンニハ竹二三本ヲ一括シ根元一尺餘ヲ二三ヶ所緊約スルカ否ラザレバ東京地方ノ如ク木ノ篋即チなら、しい、かし、等ノ樹枝若クハもうとう竹ノ如キモノナラザルベカラズ篋材ニシテ此ノ如ク堅牢ナルモノヲ用弁レバ目下ノ如キ被害ハ之ヲ免ル、コトヲ得ン次ニ注意スベキハ海苔摘採ヲ頻繁ナラシムルコト是ナリ鏡町ト大濱町トニ於テ海水鹽分ノ比重ハ鏡町ノ方少シク濃厚ナルベキモ敢テ大差ナキニ拘ハラズ大濱町ハ僅ニ一二回ニシテ毎年被害ヲ受ルニ反シ鏡町ハ例年三月頃迄採摘スル所以ノモノハ大濱町ハ海苔ノ附着多ク鏡町ハ少ナキヲ以テ竹上ニ於ケル海苔ノ重量多カラザルガ故ニ竹ヲ傾臥セシムル程ニ到ラザルニ因ルナリ獨リ今年ハ例外ニシテ鏡町ニモ亦多少被害ノ狀アルハ今年海苔ノ附着例年ニ比シテ多カリシ故ナリ故ヲ以テ海苔ヲ摘取ルコト頻繁ナレバ竹上ノ重量モ少ナク海苔ノ相重疊スルコトモ自然少ナキヲ以テ假令干潮時ニ際シ海底ニ傾臥スルコトアルモ其害ヲ被ムルコト少ナルベキノ理ナリ當業者ハ海苔ノ尺餘ニ成長スルヲ待テ採集スルノ習慣アルガ故ニ一ニハ被害ノ度ヲ多クスルノ感ナキ能ハズ其成長シタル時ヲ待テ摘採スル所以ノモノハ人夫使用其他經濟關係等ヨリ成レルヲ以テ一概ニ之ヲ革ルコト難カルベシト雖モ海苔ノ充分成長シタルモノヨリモ其幼者ヲ製スルハ製品トシテ遙ニ價值アルヲ以テ敢テ損失ナカルベシト信ズ縣下ニ於テ海苔場ヲ索ムレバ現今行ヘル所ヨリ他アラザルベシ而シテ不知火灣ハ海苔附着ノ最少ナク

レドモ有明灣ハ多ク殊ニ大濱町地先ハ尙ホ將來擴張ノ餘地充分ナリト然レドモ篋ヲ多ク立入ル、トキハ自然諸種ノ害ニ罹ル虞多ク其生長亦良好ナラザルニ至ル故ヲ以テ相當量ノ篋ヲ殘シ他ハ之ヲ他ノ地方ニ移植スルニ在リ或ハ地先ヲ貸シテ種子附ケ篋ヲ立テシメ其使用料ヲ收ムルヲ宜シトス而シテ其之ヲ移植スベキ場所ハ綠川口、球磨川口ノ如キ或ハ可ナラン聞ク所ニ依レバ本縣水産試驗場ニ於テ綠川口ニ篋立ヲ試ミタルコト三年ニ及ブト雖モ附着量多カラズ且春ニ至ラザレバ附着スルコトナシト是レ同所ノ淡水量多キニ因ル所ナリ(綠川口ノモノハ又別ニ岩海苔ノ一種ヲ存スルコト試驗場所藏ノ標本ニ因テ知ルコトヲ得タリ之ニ依テ見ルニ同所ハ外海ノ影響ヲ受ルコト多シト見ヘタリ)而シテ同河口ハ地勢少シク灣入スルヲ以テ島原水道ヨリスル潮水ノ關係上海苔ノ胞子ノ亘ルコトナシ而レドモ海苔ノ生育スルコトハ明ナルヲ以テ大濱町ノ篋ヲ此處ニ移植スルトキハ充分産ヲ興スニ足ルベシト信ズ尙ホ大濱町ヨリ綠川尻ニ至ル間ノ沿岸モ亦然ランカ而シテ大濱町ノモノヲ嘗テ鏡町地先氷川尻ニ移植シタルコトアレドモ偶々其種子篋被害ヲ被リタルモノナリシ爲メ生育良好ナラザリシニ其附近ノ篋モ亦同様被害ヲ被リタルヨリ無智ノ當業者ハ之ヲ以テ大濱町ノ篋ヨリ被害ヲ傳搬シタルモノ、如ク誤認シ此試驗ハ不幸ニシ不成功ニ了リタルヨリ更ニ之ヲ再ビスルノ機ナク了スト云フ然レドモ其害ノ原因ハ「ドタ」腐レナリシカ又ハ今回調査シタルト同様ノ害ナリシカヲ詳ニセズト雖モ憶フニ「ドタ」腐レニハ非リシナルベシ然レバ此一回ノ試驗ヲ以テ移植ノ効果ナキヲ論斷スル能ハザルナリ故ニ須ラク大濱町



ノ筭ヲ此處ニ移植シテ其成否如何ヲ試ムルコトヲ要ス

球磨川口ニ於テモ本縣水産試驗場ニ於テ筭立シタルコト三回ナリト雖モ海苔ノ附着少ナシト是レ其淡水量多キ故ナリ因テ綠川尻同様移植試驗ヲ行ヒ其效果如何ヲ試ミンコトヲ要ス此等諸所ノ移植試驗ニシテ充分成效ノ見込立タバ有明及不知火兩灣ノ沿岸ハ將來海苔場トシテ見ルニ足ルモノアルニ至ラン

明治四十五年二月八日

熊本縣水産試驗場ニ於テ

佐賀産牡蛎移植試驗

前年度所報ノ如ク八代郡鏡町地先ニ數回移植セシモノハ益々好成績ヲ示セシニヨリ本年度ハ更ニ種蛎ヲ購入シテ全處ニ移植スルコトニ定メ長崎縣諫早産ヲ五月四日ニ二千七百七十五斤六月十七日ニ千四百九十斤合計四千二百六十五斤ヲ撤入セリ然ルニ其後浮泥堆積シ次第ニ泥中ニ埋没スルニ至リシヲ以テ四十五年三月四日ヨリ全月二十六日ニ至ル間ニ於テ全部床替ヲナシ其害ヲ除去スルコトヲ得タリ尙全年二月二十三日佐賀縣早津江産種蛎一万七百八十斤ヲ購入シ前飼育場ニ隣接シテ撤入セシガ今日ニ至リテハ前記床替ノモノト共ニ成育順調ナリ  
次キニ玉名郡橫嶋村唐人川口ニ移植セシモノ、本年中ニ成長セシ狀況ハ左表ニ示スガ如シ但シ成長度測定ノ際常ニ少シク位置ヲ變更スル等アリ貝ノ座ヲ動かセシ爲メ概シテ成長鈍ク他ノ手ヲ觸レザル貝ハ成育極メテ迅速ナルコトヲ知レリ

唐人川口移植佐賀産大蛎成長表

(四十四年四月以降)

調査事項	調査月										備考	
	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	四十五年		
大形	三三八	三三〇	三四〇	三四二	三四二	三四三	三四四	三四五	三四六	三四九	四四九	四四九
小形	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八	二三八
備考	單位分										四十四年十一月ヨリ四十五年三月迄成長調査中止	

蛎移植試驗

蛎貝ノ被害狀況ニ就テハ既往數年ノ報告書ニ記述セシガ如ク獨リ本縣ノ干瀉ニ於テノミナラス原産地



タル佐賀福岡長崎各縣ノ狀況亦同一ニシテ或時期ヲ定メテ一時ニ斃死シ其慘憺タル能ク筆紙ノ盡ストコロニアラス從テ今日ノ場合收益ヲ目的トシテ之ガ養殖ヲ施行スルコトハ到底望ムコト能ハザルナラ然ルニ從來養煙ニ使用セシ干瀉ハ極メテ擴大ニシテ此ノ天與ノ沃地アルニ拘ハラヌ空シク放棄スルハ誠ニ遺憾ニ堪ヘザルトコロニシテ之ガ利用ハ刻下ノ急務タルヲ認ム而シテ恰モ蠶ト同一地質ノ部ニ成育シ若シ之ヲ養殖スルニ當リテハ種貝ハ本縣内ニ饒産シテ價廉ク其乾製品ハ清國輸出ニ適シテ販路ニ滯留ヲ來ス如キコトナク近時米國輸出向雜詰ノ試賣セラレテ以來コレ亦好況ヲ呈スルニ至リ其他種々ノ事項ハ作業容易ナルコトノミヲ示シ殊ニ玉名郡横島村ニ於ケル横島水産株式會社ハ煙養殖中止後ニ蠶ヲ移殖シテ成績佳良ナル等ノ實例アリ愈々之ノ養殖ノ有利ナルヲ確メタルヲ以テ今後ハ各地ニ渉ル狹カラザル干瀉ヲ利用セン爲メ本試驗ヲ開始セリ

試驗地ハ八代郡鏡町地先俗稱小はちノ中洲ニ撰定シテ百坪區二十七個ヲ構成シ各區間總テ二間ノ潮路ヲ設ク種貝ハ綠川尻産ヲ試驗地受渡一斗ニ付金五錢ノ割合ニテ購入シ四十四年九月十二日二十一日五斗全月十七日十五石四斗全月二十日二十八石全月二十五日二十四石三斗全月二十七日十三石五斗計百二石七斗ヲ搬入セリ

一坪ニ對スル搬入率ハ平均四升ニシテ爾後ノ成長度左表ニ示スガ如シ但シ測定方法ハ一回三十個ノ貝ヲ採取シ其内最大ト最小トノ二個ヲ撰ビ其中間三階級ノモノヲ定メテ一回五個宛檢測セリ

蠶成長度調査表

調査年月日	1、		2、		3、		4、		5、		備考
	体長	体高	体長	体高	体長	体高	体長	体高	体長	体高	
四十四年九月十七日	六三	四三	六一	四二	五〇	三六	四五	三〇	四〇	二八	
十月十日	七五	五二	七二	五二	六四	四四	五五	四四	五〇	四一	
十月十九日	八〇	五四	七三	五三	七三	五二	六九	五二	六五	四七	
十二月五日	九五	六一	八一	五三	七一	五二	六六	四四	六二	四三	
四十五年一月十七日	九五	六四	八三	五八	八〇	五五	七七	五四	七一	五〇	
二月十九日	一〇〇	六六	八八	五六	八二	五三	七四	五二	七五	五六	
三月十五日	一〇一	七二	九二	五七	八四	五九	八四	五五	六三	五四	

右表ニ示ス如ク成長極メテ迅速ニシテ些ノ障害ヲ認メザリシガ冬期ニ入りテ鳴ノ聲來セシモノ夥シク之ガ防禦ニ勤メタリシモ隙ヲ盜マレテ少シク食害セラレタリ若シ之ノ害ヲ防ガス他ニ障害ナク且今後益々好況ニ向フベキ状態ナルヲ以テ附近有志ニ之ガ養殖ノ有利ナルコトヲ認識スルニ至レリ

このは孵化養殖試験



本年度ニ於ケル本試験ハ始メ球磨郡五木村採卵場ニテ六千二百粒ヲ採リテ試験ニ供シ後滋賀縣ヨリ河  
鱒卵五万粒ヲ購入シテ孵化試育セシガ共ニ成績不良ニシテ放流時ニ至ルマデ生存スルモノ極メテ少ナ  
ク之ガ蕃殖ハ當所ニ於テ遂行スルコトハ困難ナルヲ知レリ今順ヲ追ヒ其狀況ヲ記述スベシ

一、採卵狀況

球磨郡五木村ニハ採卵場附近ニ於ケル本年度ノ親魚捕獲狀況ハ十月十七日ニ始マリ全月二十四日ニ  
終了シテ前年度ト全ク同一時期ナリトス其捕獲方ニ就テハ村役場ノ周旋ニヨリ附近漁業者ハ獻身的ニ  
働キシモ之ヨリ大体ノ栖息數量多カラズ採卵場附近上下三里ノ流域内ニテ漸ク左ノ數量ヲ得タルニ過  
キス

採卵月日	親魚數		計數	採卵數	備考
	雌	雄			
十月二十二日	二〇	一〇	三〇	一八〇〇	
全月二十三日	二五	一八	四三	二二〇〇	
全月二十四日	三〇	一七	四七	二三〇〇	
計	七五	四五	一二〇	六一〇〇	

右表ニ示ス如ク親魚ハ雌七十五尾雄四十五尾計百二十尾ヲ使用シ採卵ハ二十二日ヨリ三日間ニ施行セ

シモ是等親魚ヲ蒐集スルニハ約十日間ヲ費セリ尙親魚ノ形大等ヲ示セバ左ノ如シ

親魚別	體長 (吻端ヨリ 尾柄マデ)	體高	體重	備考
雌最大	一〇〇	一一〇	一〇〇	
雌最小	五二	一二五	二〇	
雄最大	一二〇	三〇〇	一八五	
雄最小	五四	一一〇	二五	

採卵ノ場合ハ可成數ヲ多クセン爲メ幼者ヲモ共ニ供用セシ爲メ内ニ小形魚アリ且ツ平均一尾ノ孕卵數  
モ亦僅カニ八十二粒強ニ過キス

二、孵化成育狀況

採卵後ハ十一月四日マデ採卵場ニテ養ヒ全月五日飽託郡出水村ノ孵化場ニ移セリ當時ハ發育上別ニ異  
狀ヲ認メズ全月十四日ヨリ孵化シ始メ全月二十八日ニ至リテ全部終了セリ時ニ生存數三千七百十六尾  
アリ十二月三日以降斃死スルモノ續發シ全月八日頃最モ多ク而シテ十六日ニ至ルマデ引續キ多數斃死  
シテ僅カニ二百尾ヲ餘スニ至レリ此時ニ至リ次第ニ浮上セシモ爾後其儘ニシテ置クトキハ完全ニ成育  
スベキ見込ナク已ムヲ得ズ直チニ之ヲ放流セリ

三、琵琶湖産鱒卵ノ購入



球磨郡五木村ニテ採卵セシモノ、成育狀況ハ既述ノ如ク成績極メテ不良ニシテ其原因主トシテ卵ノ未熟ナルモノヲ採用セシト出水村孵化場ニ於テ一時水質不良ニ變化セシニヨルコトヲ認メタリ依テ更ニ澁賀縣ヨリ琵琶湖産鱒卵ノ健全ナルモノヲ購入シ其成育如何ヲ試験スルコトトセリ其卵數等左ノ如シ

採卵月日 四十四年十一月十二日

發眼終了月日 十二月三日

發送卵數 五〇、〇〇〇粒

發送月日 十二月十四日

到達月日 全月十六日

到達當時死數 三六八粒

卵運搬ノ際ニ於ケル荷造方法ハ普通行ハル、モノニ依リタルヲ以テ別ニ障害ナカリシモ孵化期ニ差迫リテ運搬セシ爲メ成育ニ障リ孵化場ニ納メシ時ハ枠中既ニ孵化セシモノアリ是等ハ總テ死兒トナリ其後モ毎日斃死スル卵及ビ兒アリ十二月二十六日ニ至リテ全部孵化シ終ハレリ此間即チ十二月十七日ヨリ全月二十六日ニ至ル孵化時期ニ於ケル温度左ノ如シ

温度	最高	最低	平均
水槽内温度	一八、五	一五、二	一六、八

外氣温 一七、一

四、同稚兒養成

一、五

九、三

初期ニ孵化セシ魚兒ハ四十五年一月九日ニ至リテ臍囊全ク收縮セシモノアリ全月十五日ニハ全部浮上スルニ至リシヲ以テ試ミニ雞卵黃ヲ投與セシニ未ダ捕食セズ然レドモ總テ游泳自在ナルニ至リシヲ以テ全月十八日ニ生洲様ノモノヲ構成シ其日ヨリ翌日ニ涉リ二回ニ此内ニ放養セリ

湧水部ノ下方ニ當リテ小池アリ此内ニ生洲ヲ設ク生洲ハ四方金網戸ヲ以テ圍ミテ方形ニ構成シ面積一坪トシ其一角ヨリ二側面ニ向テ注水ス尙金網戸ハ地下五寸ヲ埋メ水面上ニ一尺ヲ出デシメ其上面ハ板ヲ被ヒテ蓋トナシ底質ハ粗砂ヨリナル

一月十九日生洲内ノ魚兒ニ雞卵黃ヲ投與セシニ能ク捕食セシヲ以テ二十三日マデ之ヲ與ヘ二十四日ヨリ蛹及麥粉ヲ混ヘタルモノヲ投與セリ

本試験用發眼卵收容後ハ甚シキ斃死ヲ認メザリシモ孵化後凡ソ一週間目即四十四年十二月三十日ヨリ斃死スルモノ夥シク越ヘテ一月三四日頃殊ニ多數ニシテ全月十四五日頃マデ續々死滅シ生洲ニ移セシ時ニハ僅カニ一萬九千餘尾ヲ殘セシニ過キス爾後亦毎日少數宛死耗シ三月末日ニ至リテハ餘ストコロ三百尾内外トナレリ

其死因ニ就テ考フルニ先キニ卵購入ノ際發眼時期ニ迫リテ運搬セシ爲メ甚シク其發育ヲ阻害セシモノ



ノ如クナリシモ一旦健全ニ復シテ後モ陸續死滅シ其時期ハ主ニ降雨アリシ翌日ニ起リ畢竟水質不良トナリテ死スルモノ、如シ此時ハ鱒兒ニ限ラズ附近ノ生洲中ニ蓄養ノ鱒モ同時ニ斃ル、ヲ以テ必ズ水質不適トナリタルヲ推定シ得ベシ次キニ鱒投與ノ際ハ練リタルヲ蒸シ尙最後ニ細粉ニナセシトキモ再ビ蒸シテ與ヘ常ニ新鮮ナルモノヲ撰ビシ爲メ食餌ハ決シテ不良ナリト云フコト能ハズ畢竟前年度及ビ本年度共ニ五木村ニテ採卵セシモノハ卵ガ未熟ナル爲メ死數多量ナラント推定セシモ滋賀縣ヨリ取寄セタル卵ノ發育狀況ト比較スルニ死狀全ク同一ニシテ孵化後三四日乃至一週間目位ヨリ死スルモノ多ク其内卵ノ幼稚ナル爲メ斃ル、モノアランモ多クハ水質或時期ニ限リ不適ナル機變性スルガ爲メニ死者多キモノ、如シ依テ尙進テ此疑點ヲ研究闡明スベキ要アルヲ認ム

養殖聯絡試験

本年施行セシ養殖聯絡試験ハ牡蛎海苔ノ二種ニシテ之ガ試験方法ハ主務省指示ノ要項ニ準據セリ今其成績ヲ述ブレバ次キノ如シ

牡蛎養殖聯絡試験

一 試験地

試験地ハ玉名郡横島村唐人川々口有明海區ニアリ前年度ノモノニ接續ス

一 試験地土質及深ノ距離

土質ハ軟泥ニシテ深サ二尺五寸深ハ試験地ヲ去ル六尺ノ所ニアリ巾十間干潮時ノ水深二尺アリ

一 潮汐干満ノ差及潮流ノ方向

干満ノ差ハ壹丈二尺ニシテ潮流常ニ北ヨリ南ニ南ヨリ北ニ干満ス

一 夏期又ハ冬期ニ於ケル一般風向

夏期又ハ概テ南又ハ南西風ニシテ冬期ハ重ニ北西風ナリ

一 養殖シタル事ノ有無

明治三十七年以降本縣水産試験場ニ於テ養殖試験ヲ繼續施行セリ

一 附着器及設置期日

附着器ハ長三尺ノ眞竹篾ニシテ建込期日ハ四月ヨリ十月迄毎月月齡十五ノ大潮時ニ建設セリ

一 附着器建設法

建設法ハ篾五本ヲ以テ一株トシ毎月五十株宛ヲ立ツ即チ一列ヲ貳拾五株トシ貳列ヲ以テ一行トナス其株間ヲ三尺トシ列間ヲ六尺トス尙九尺ヲ隔テ、他ノ行ヲ作ル一株ノ建設法ハ各篾其根部ヲ相方ヨリ交叉シテ地下ニ挿入シ露出セル上部ヲ開カシム

一 篾ノ大サ地上ニ露出セル枝節數